

平成28年度

昼間・土曜スクーリング(前期)の手引

スクーリング受講手続日程

保健体育講義Ⅰ・体育実技のみ		
① 受講手続説明会	4／9(土)	4／9(土)
② 受講申込開始日 (ポータルサイト)	4／9(土)	6／9(木)
	4／21(木)	6／22(水)
③ 受講申込締切日	ポータルサイトの場合【締切日24時00分まで】 窓口提出の場合【事務取扱時間内厳守】 郵送の場合【締切日消印有効】	
④ 受講資格審査結果 発送予定日	5／13(金)	7／8(金)
	※受講届で申込みを行った場合、上記発送予定日に「スクーリング受講資格審査結果通知」を送付します。	
⑤ 振込用紙発送予定日	5／13(金)	7／8(金)
	※発送予定日から5日経過しても振込用紙が届かない場合は、会計課へ連絡してください。	
⑥ 受講辞退手続締切日	5／20(金) 事務取扱時間内必着	7／15(金) 事務取扱時間内必着
⑦ 受講料振込期限	5／27(金) 銀行窓口にて【締切日厳守】	7／25(月) 銀行窓口にて【締切日厳守】
⑧ 結果通知予定	8月下旬予定	10月中旬予定

開講日程

昼間開講日程	4／12(火)～7月29日(金)
土曜開講日程	【5月】21・28【6月】4・11・18・25【7月】2・9・16
補講予定日	7／16(土), 25(月)
保健体育講義Ⅰ開講日程	9／5(月)～9／8(木)
体育実技開講日程	9／5(月)～9／9(金)

開講日程

開講日程

年	月	日	月	火	水	木	金	土
平成28年	4月						1	
		3	4	5	6	7	8	9 受講手続説明会
		10	11	12 前期 曜1	13 前期 曜1	14 前期 曜1	15 前期 曜1	16
		17	18	19 前期 曜2	20 前期 曜2	21 前期 曜2 受講届締切日	22 前期 曜2	23
		24	25	26 前期 曜3	27 前期 曜3	28 前期 曜3	29 昭和の日	30
	5月	1	2	3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6 前期 曜3	7
		8	9	10 前期 曜4	11 前期 曜4	12 前期 曜4	13 前期 曜4	14 軽井沢 オリエンテーション
		15 軽井沢 オリエンテーション	16	17 前期 曜5	18 前期 曜5	19 前期 曜5	20 前期 曜5	21 前期 土曜 曜1・2
		22	23	24 前期 曜6	25 前期 曜6	26 前期 曜6	27 前期 曜6	28 前期 土曜 曜3・4
		29	30	31 前期 曜7	1 前期 曜7	2 前期 曜7	3 前期 曜7	4 前期 土曜 曜5・6
	6月	5	6	7 前期 曜8	8 前期 曜8	9 前期 曜8	10 前期 曜8	11 前期 土曜 曜7・8
		12	13	14 前期 曜9	15 前期 曜9	16 前期 曜9	17 前期 曜9	18 前期 土曜 曜9・10
		19	20	21 前期 曜10	22 前期 曜10	23 前期 曜10	24 前期 曜10	25 前期 土曜 曜11・12
		26	27	28 前期 曜11	29 前期 曜11	30 前期 曜11	1 前期 曜11	2 前期 土曜 曜13・14
	7月	3	4	5 前期 曜12	6 前期 曜12	7 前期 曜12	8 前期 曜12	9 前期 土曜 曜15・試験
		10	11	12 前期 曜13	13 前期 曜13	14 前期 曜13	15 前期 曜13	16 前期 土曜補講日
		17	18 海の日	19 前期 曜14	20 前期 曜14	21 前期 曜14	22 前期 曜14	23
		24	25 補講日	26 前期 曜15	27 前期 曜15	28 前期 曜15	29 前期 曜15	30
夏 休 み								
9月	28		30	31		2		
	4	5 保健体育講義 I 体育実技	6 保健体育講義 I 体育実技	7 保健体育講義 I 体育実技	8 保健体育講義 I 体育実技	9 体育実技	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19 敬老の日	20	21	22 秋分の日	23	24	
	25	26	27	28	29	30		

…授業日及び補講日

前期補講は7月16日(土), 7月25日(月)の2日間だけでなく, その他の曜日にも実施することができます。補講が行われる場合, 指定された補講日に出席する必要があります。

また補講を行う时限は他講座の補講日程の関係上, 必ずしも通常と同じ时限で開講されるものとは限りません。以上のこととを承知した上で申込みをしてください。

はじめに

面接授業（スクーリング）とは、教員による直接の講義・演習・実技を受講することをいいます。その目的は、教材による在宅学修では十分に学修効果を上げることが困難な科目の一面を補い、教育効果を高めることにあります。このような主旨・目的から、スクーリングは卒業のための必修となっています。

本学の通信教育部では、学生に多くの受講機会が得られるよう、多種多様なスクーリングを開講しています。この『手引』は、その実施要領などをとりまとめて掲載しています。

スクーリングを受講希望する場合には、手続きの前にこの『手引』をよく読み、その指示に従って受講してください。

昼間・土曜スクーリングの特色

昼間・土曜スクーリングが他のスクーリングと異なる点は、通学課程と同形態の授業を行うことにあります。また、前期・後期と連続して受講することで、より学修効果が高まります。

なお、大学では適正規模の授業を実施し、かつ多くの学生が等しく受講機会を得られるように一人（受講者）当たりの受講制限を設けていますが、このスクーリングもその例外ではありません。

さらにこのスクーリングでは、2年生以上の学生を対象に卒業論文指導講座を設け、その指導の強化充実を図り、より優れた卒業論文を期待しています。

【受講の調整について】

スクーリングには、十分な教育効果を得るための適正な受講者数の基準が設定されています。受講申込者数が、適正受講者数でない場合、大学側で受講の調整を行うことがあります。

調整にあたっては、「受講機会の均等」の観点から、各申込者の受講調整履歴、スクーリング受講状況、単位修得状況、在学年数等を総合的に判断し、対象者を確定しますので、あらかじめご了承ください。

なお、講座の適正人数は、おおよそ下表の人数を目安としますが、講座の特性、スクーリングの形態、スクーリング会場の試験時定員数、パソコン台数及び受講学生の履修要件等により、下表によらない場合もあります。

講 座	受講者数の上限	受講者数の下限
外国語科目講座	65名	5名
演 習 講 座	30名	5名
上記以外の講座	100名	10名

〔調整方法等〕

- 希望した講座が受講者数の上限を超えた場合、同じ曜日に開講されている同じ科目の講座に振り分けることがあります。
- 超過人数の状況により新たに講座を増設（分割）して開講する場合があります。
- 上記①・②の方法で対応できない場合、調整対象者は当該講座の受講ができません。
- 受講申込者数が下限に満たない場合、開講を取りやめることができます。
- 受講許可講座以外の講座の受講は、認められません。また、一度決定した受講許可講座の追加・変更是できません。

目 次

昨年度からの変更点	3
I 受講申込から受講料納入までの流れ	4
II 講座の選定	6
1 受講講座の選定	6
2 「教職に関する科目」における新・旧科目について	8
3 「英語」科目のレベル標記について	8
III 時間割	10
1 時間割	10
2 卒業論文指導時間割	12
IV 開講講座表	14
1 「開講講座表」の見方	14
2 開講講座表	15
V 受講及び試験	24
1 講座受講時の注意点	24
2 スクーリング結果の確認	25
VI シラバスと使用教材	26
VII 受講手続	90
1 履修登録	90
2 講座を申し込む	92
3 申込講座の変更・追加	96
VIII 申込講座の許可と不許可	98
1 受講許可を確認する	98
2 講座振り分け及び受講不許可について	98
3 許可講座を辞退する	99
IX 受講料等の納入	100
X 受講準備	102
1 使用教材の入手	102
2 通学定期券の購入手続	104
XI 軽井沢オリエンテーション	106
XII 胸部X線検査	108
XIII 保健体育講義I, 体育実技の受講について	110
1 受講申込から受講料納入までの流れ	110
2 開講講座表・シラバス	113
3 日程, 会場等	113
4 スクーリング結果の確認	115

XIV 各種用紙	117
「為替」送付時の注意事項	118
履修届	119
昼間・土曜スクーリング受講届	121
昼間・土曜スクーリング（保健体育講義Ⅰ・体育実技）受講届	123
教材配本申請書	125
教材購入用紙（丸沼書店用）	127
教材購入願（通信教育教材購入用）	129
軽井沢オリエンテーション参加申込書	131
オープン受講届	133
平成28年度 昼間・土曜スクーリング（前期）受講申込辞退願	135
平成28年度 昼間・土曜スクーリング（前期） (保健体育講義Ⅰ・体育実技)受講申込辞退願	137

昨年度からの変更点

1. 対照表

変更前（昨年度）	変更後（平成 28 年 4 月から）
昼間・土曜スクーリングは、前期・後期両方を修得することで単位修得が可能（昼間・土曜スクーリング方式）。	昼間・土曜スクーリングと、短期スクーリングやメディア授業の積み重ねにより単位修得が可能。
スクーリング申込期間終了後の辞退は不可。	振込用紙受け取り後、辞退が可能。
昼間・土曜スクーリングの全講座を一括で申込みする必要があった。	保健体育講義、体育実技の申込み締切が別日程になります。

2. ポータルサイトの活用について

平成 27 年度から、ポータルサイトが新しくなりました。

平成 28 年度からは、以下の情報を中心に、ポータルサイトからの情報発信を拡充していく予定です。

- 休講・補講情報
- 講堂変更情報
- その他、授業に関する情報

スクーリング期間中は、常にポータルサイトからの情報に注意し、見逃すことのないようにしてください。

I 受講申込から受講料納入までの流れ

① 受講手続説明会

『昼間・土曜スクーリング（前期）の手引』を読み、受講手続方法から試験までの流れを確認。受講制限・時間割を確認し、受講講座を選択する。



② 授業開始までの準備

授業期間は15週にわたります。シラバスや時間割をよく読み、受講講座を選択してください。特に下記の項目を事前に確認すること。

- ① 開講日程及び時間割
- ② 使用教材（教科書）の有無
- ③ 準備学修
- ④ 成績評価基準

【要確認】授業期間に出席可能なこと。



③ 授業開始

第1週

4月12日（火）

～15日（金）

各授業の第1週目は、ガイダンスを行うことが多く、今後の授業の方法、授業計画、準備学修、テキスト及び成績評価基準等についての説明があります。

※選択した講座を受講するか確認してください。

○ 受講講座決定の学生

履修届・受講届に必要事項を記入し、4月21日（木）までに教務課へ提出。

● 受講講座再度検討の学生

別の講座を選択し、第2週から受講する。

※その際、第1週を受講していなかった旨を担当講師に伝えること。

※受講申込締切日の関係から、以下の曜日の講座を申し込む場合は注意が必要です。

- ・金曜日…2週目を受講してから申し込むことはできませんので、1週目の授業により、受講を検討してください。

- ・土曜日…1回目の授業開始日が申込締切以降のため、シラバスにより、受講を検討してください。

受講希望者が多い講座や少ない講座は、大学側で受講の調整を行うことがあります（「受講の調整について」参照）。

特に「情報概論」（パソコン台数制限有）、外国語科目・演習科目（受講者数上限有）については、受講希望者多数の場合、受講調整を行います。あらかじめ了承の上検討してください。



④ 授業 第2週

4月19日（火）

～22日（金）

各授業の第2週目は、本格的な授業になります。

第1週の授業を受講したが、受講講座が未決定の学生はスクーリング第2週目を受講し、4月21日（木）までに履修届・受講届を提出してください。

※受講申込締切日の関係から、以下の曜日の講座を申し込む場合は注意が必要です。

- ・金曜日…2週目を受講してから申し込むことはできませんので、1週目の授業により、受講を検討してください。

- ・土曜日…1回目の授業開始日が申込締切以降のため、シラバスにより、受講を検討してください。



⑤ 履修登録・
受講申込締切

申込締切：4月21日（木）
18:00（事務取扱時間）まで
(ポータルサイト) 締切日24時00分まで
提出先：(郵送) 提出締切日 消印有効
(窓口) 教務課窓口提出 事務取扱時間内厳守
※1 受講届で申し込んだ講座がわかるように必ず申込内容の控えを取り各自で保管してください。
※2 提出期限を過ぎてからの追加・変更はできません。4月21日（木）までに受講予定の全ての講座を決定した上で提出してください。



⑥ 受講許可の確認

ポータルサイト上の「スクーリング・メディア授業情報一覧」にて申し込んだ講座が「申請許可」になっているか確認してください。
※受講届提出者には、「スクーリング受講資格審査結果通知書」を送付しますので、そちらで確認してください。

届き次第、必ず以下の記載内容を確認してください。

- ※1 申込講座・時間割の確認及び担当講師
- ※2 充当科目コード
特に外国語科目、各種演習科目は注意（後掲94ページ参照）。



⑦ 受講料の振込用紙発送

受講許可者には、スクーリング受講料の振込用紙を郵送します。

発送予定日：5月13日（金）

発送予定日から5日経過しても振込用紙が届かない場合は会計課へ連絡してください。



許可講座の辞退

受講を許可された講座を受講しない場合（全講座、一部の講座とも）、表紙記載の締切日までに辞退手続をする。

詳細は99ページ参照



⑧ 受講料の納入

ポータルサイト（又はスクーリング受講資格審査結果）及び「振込用紙」に記載された事項を確認の上、受講料を下記の納入期限までに納入してください。

受講料納入期限：5月27日（金）

銀行窓口のみ ※当日取扱時間まで

※ 受講料（1講座10,000円、情報概論は13,000円）



⑨ 昼間・土曜スクーリングの
手続完了

昼間・土曜スクーリング（前期）の手続は完了です。
領収書は、スクーリング受講中は必ず携行してください。

II 講座の選定

1. 受講講座の選定

① 受講対象者及び受講条件

昼間・土曜スクーリング（前期）の受講者は、以下の受講条件を必ず守り、申込みをしてください。

1 受講申込対象者

（申込時点において右記の条件を満たすこと）

- ① 年度授業料を納入していること、または所定の締切日までに納入することができるること。
- ② 昼間・土曜スクーリング（前期）受講料を納入期日までに納入することができるること。
- ③ 昼間・土曜スクーリング（前期）の授業日程に出席できること。

2 受講講座数

【申込講座の上限】 14 講座まで

火曜日から土曜日までの各時限から 1 講座ずつ、別日程の「保健体育講義Ⅰ」、「体育実技」を含め、最多で 14 講座まで申し込むことができます。

※履修登録がされている科目のみ申し込みできます。

3 受講制限

上記 1, 2 の条件を満たしていても、全ての講座を申し込めるわけではありません。下記の制限により申し込めない講座がありますので、項目を確認し、受講講座を選定してください。

② 受講制限について

すべての方がすべての講座を申し込めるのではありません。自分の学年・学科（専攻）、カリキュラム及びその他の理由により申し込むことができない講座があります。以下、それぞれの受講制限を掲載しますので、必ず確認の上、申込みしてください。

（1）配当学年による受講制限

ア 1学年生

各期の「開講講座表」の「配当学年」欄に「1年」と記載されている講座のみ受講可能です。それ以外の講座は受講できません。

なお、講座によっては特定の学科（専攻）のみ受講を許可する講座があるので、各期の「開講講座表」の「制限・注意」欄で確認してください。

イ 2学年生

各期の「開講講座表」の「配当学年」欄に「1年」又は「2年」と記載されている講座の受講が可能です。それ以外の講座は受講できません。

なお、講座によっては特定の学科（専攻）のみ受講を許可する講座があるので、各期の「開講講座表」の「制限・注意」欄で確認してください。

ウ 3・4学年生

配当学年による受講の制限はありませんが、講座によっては特定の学科（専攻）のみ受講を許可する講座があるので、各期の「開講講座表」の「制限・注意」欄で確認してください。

(2) 科目履修生の受講制限

入学時の「履修申請書」で履修登録した科目に該当する講座のみ受講できます。

(3) シラバスによる受講制限

シラバスに、他のスクーリングと積み重ね不可の記載がある場合、受講できません。また、記載がなくても、以下に該当する場合は、受講できません。

- 過去に受講し、合格した科目（充当科目）と同一担当講師の科目（充当科目）で授業内容も同一である講座の受講

次のa～cのすべてに該当する講座は申込みできません。

- 科目名（充当科目名）が同じである（「講座名」ではなく、「科目名（充当科目名）」です）。
- 担当講師が同一である。
- 講義内容が全く同一である。

※ 講義内容を参照し、授業計画等が全く同一の場合は申込みできません。

(4) その他の理由による受講制限

以下のいずれかに該当する場合、その講座は受講できません。

ア 既に所定単位を修得している科目及び単位修得方式が確定している科目を充当科目とする講座の受講

イ 受講の調整による受講制限

一部の講座については、申込希望者が講座の適正人員を超える場合があり、この場合、大学側で受講の調整を行います。

調整により、受講申込講座と異なる講座での受講を許可する場合や、受講不許可となる場合があります。

そのため、必ずポータルサイト上の「スクーリング・メディア授業情報一覧」にて、許可された講座を受講してください（受講許可講座と異なる講座の受講は、認められません）。

※ 受講届提出者は、「受講資格審査結果通知」を確認してください。

(5) 他のスクーリングとの日程重複による受講可能講座の制限について

昼間スクーリングの火曜日の講座を申し込む場合、地方スクーリングが月曜日に終了した後、東京に移動し昼間スクーリングに出席する必要が生じます。

同じく、昼間スクーリングの金曜日の講座を申し込む場合、授業終了後、地方スクーリング会場に移動しなければなりません。

遅刻しなければ出席できないなどは認められませんので、自己責任の元に判断し、申込みをしてください。

2 「教職に関する科目」における新・旧科目について

平成23年度に下表の「教職に関する科目」4科目については、科目名称が変更となり、平成23年度1学年入学者から学年進行により順次、新科目名での履修となります。

スクーリングの開講にあたっては、同一講座で新・旧両方の科目を充当科目として開講しますので、下表により適用となる充当科目を確認の上、受講申込みをしてください。

旧科目名		新科目名	
T10300	教育の思想	T10200	教育原論
T21400	道徳教育の研究	T21300	道徳教育の理論と方法
T21600	特別活動の研究	T21500	特別活動論
T30700	教育カウンセリング論	T30600	教育相談
旧科目名での履修対象者		新科目名での履修対象者	
右記以外の学生		入学年度	入学形態
		平成 23 年度	1 学年入学生
		平成 24 年度	1 学年入学生 2 学年編入・再入学生 科目履修生
		平成 25 年度	1 学年入学生 2 学年編入・再入学生 3 学年編入・再入学生 科目履修生
		平成 26 年度以降	全入学生

3 「英語」科目のレベル標記について

毎週・土曜スクーリングの「英語」では、受講講座選択の参考として、新たに授業内容のレベル（目安）を★で標記しています。受講講座の参考にしてください。

＜レベル＞★の数が増えるほど、難易度が上がります。

$$[\star\star\star] \Leftrightarrow [\star\star\star] \Leftrightarrow [\star\star\star] \Leftrightarrow [\star\star\star] \Leftrightarrow [\star\star\star]$$

初級 上級

※レベル標記はあくまで「目安」です。レベルの感じ方には、個人差があります。

また同一レベル標記でも講座により、難易度が多少異なる場合もあります。

必ずシラバス全体をよく読んだ上で、各自で判断してください。

※講座受講者の状況により、担当講師の判断で適宜調整を図りますので、あらかじめご了承ください。

III 時間割

1 時間割

時限	火曜日		水曜日	
	講座名	担当講師名	講座名	担当講師名
1 時限目 9:00 { 10:30	政治学	関根 二三夫	経済学	田村 和彦
	西洋史入門	高草木 邦人	商法Ⅱ	大久保 拓也
	経営学	山田 敏之		
2 時限目 10:40 { 12:10	文学	野口 恵子	総合科目Ⅰ～Ⅵ	鍋本 由徳
	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ	中島 伸	英語 C (中級)	森 晴代
	民法Ⅰ	根本 晋一	憲法	名雪 健二
	英語学演習Ⅰ～Ⅲ	小澤 賢司	考古学入門	野中 和夫
	哲学基礎講読	瀧田 寧	広告論	雨宮 史卓
	日本史入門	鍋本 由徳		
	中国経済論	斉 中凌		
	商学総論	佐藤 稔	卒業論文指導	田村 和彦
3 時限目 13:00 { 14:30	法学 A	根本 晋一	法学 B	武田 茂樹
	英語 A (初級)	アレックス ブラウン	心理学 A	野村 康治
	国際政治学	大八木 時広	英語 D (初級)	北原 安治
	英米文学概説	猪野 恵也	政治学特殊講義Ⅰ・Ⅱ	秋山 和宏
	マーケティング	佐藤 稔	日本思想史Ⅰ	島田 健太郎
	金融論	谷川 孝美	国文学講義Ⅴ (近代)	永岡 健右
			東洋史特講Ⅰ	堀井 弘一郎
	卒業論文指導	近藤 健史		
4 時限目 14:40 { 16:10	卒業論文指導	小澤 賢司		
	哲学 A	江川 晃	歴史学 A	渡邊 浩史
	TOEIC A	八木 茂那子	心理学 B	野村 康治
	民法Ⅲ	根本 晋一	国文学基礎演習	木村 一
	国文学特殊講義Ⅰ・Ⅱ	近藤 健史	国語学概論	保科 恵
	スピーチコミュニケーションⅡ	アレックス ブラウン	日本史概論／日本史概説	横山 則孝
	日本史特講Ⅰ	八馬 朱代		
5 時限目 16:20 { 17:50	卒業論文指導	佐藤 稔		
	卒業論文指導	猪野 恵也		
	英語 B (中級)	飯野 朝世	歴史学 B	堀井 弘一郎
	中国語Ⅰ・Ⅱ	稻葉 明子	文化史	渡邊 浩史
	科学哲学	江川 晃	英語 E (初級)	石川 勝
	東洋史演習Ⅰ・Ⅱ	高綱 博文		
卒業論文指導	根本 晋一			
	中澤 瞳			

開講日程

前 期	4 / 12 ~ 7 / 29	補 講 予 定 日	7 / 16, 25
-----	-----------------	-----------	------------

保健体育科目開講日程

保 健 体 育 講 義 I	9 / 5 ~ 9 / 8	9:00 ~ 12:00
体 育 実 技 I ・ II	9 / 5 ~ 9 / 8	13:00 ~ 16:50
	9 / 9	9:00 ~ 16:50

※保健体育科目は他の科目と開講期間、授業時間及び会場が異なるため注意が必要です。

詳細は 110 ページ以降を参照してください。

木曜日		金曜日		土曜日	
講座名	担当講師名	講座名	担当講師名	講座名	担当講師名
英語 F (中級)	鈴木 ふさ子	刑事訴訟法	船山 泰範	TOEIC B	町田 純子
行政学	関根 二三夫	東洋思想史 I	本間 直人	国文学基礎講義	木村 一
東洋史入門	綿貫 哲郎	経済地理学	田村 和彦	簿記論 I	遠藤 洋介
情報概論 A	中村 典裕			現代教職論	古賀 徹
英語 G (上級)	岡田 善明	哲学 B	中澤 瞳	土曜スクーリング日程	
国文学演習 I ~ VI	近藤 健史	英語 H (初級)	福島 昇	授業時間 9:00~12:10	
イギリス文学史 I	鈴木 ふさ子	フランス語 I・II	大庭 克夫	【前期】 5月 21日・28日 6月 4日・11日・18日・25日 7月 2日・9日・16日	
経済学概論	陸 亦群	史学概論	高綱 博文		
		西洋史特講 I	池本 今日子		
		商業史	横山 則孝		
卒業論文指導	関根 二三夫				
卒業論文指導	真野 一雄				
英文法	真野 一雄	英語 J (初級)	中村 則子	体育実技・保健体育講義	
東洋史概説	高綱 博文	政治学原論	吉野 篤	講座名	教員名
日本史演習 I・II	鍋本 由徳	西洋古典	福島 昇	保健体育講義 I	高橋 正則
経済原論/経済学原論	陸 亦群	アメリカ経済論	小林 通	体育実技	高橋 正則
商業政策	雨宮 史卓	市場調査論	最上 健児	保健体育講義 I 【日程】9月5日~8日 【授業時間】9:00~12:00	
教育原論/教育の思想	古賀 徹				
				体育実技 【日程】9月5日~9日 【授業時間】 9月5日~8日 13:00~16:50 9月9日のみ 9:00~16:50	
英語基礎 A	小澤 賢司	社会学	服部 慶亘		
英米文学演習 I~III	猪野 恵也	英語基礎 B	中村 則子		
哲学演習 I・II	中澤 瞳	国文学概論	山崎 泉		
日本経済史	飯島 正義	宗教学概論	合田 秀行		
特殊講義	雨宮 史卓				
卒業論文指導	陸 亦群				
卒業論文指導	鍋本 由徳				
西洋思想史 II	中澤 瞳	英語 K (中級)	青木 克憲		
西洋史演習 I・II	藤井 信行	日本政治史	石川 徳幸		
国際経済論	陸 亦群	情報概論 B	一島 力男		
社会科・地理歴史科教育法 I	古賀 徹				
卒業論文指導	高綱 博文				
卒業論文指導	雨宮 史卓				

2 卒業論文指導時間割

- ① 昼間・土曜スクーリング（前期）開講期間中、下表の時間帯で開講されます。
なお、補講日及び試験期間中は開講しませんので注意してください。
- ② 実施場所等は、通信教育部1号館1階掲示板にてお知らせします。
- ③ 事前予約等は不要です。指導開始時間になりましたら、実施場所にて待機してください。
※ 開始時間に希望学生がいない場合には、指導を取止める場合がありますので、ご了承ください。
- ④ 以下の担当教員の「個別」、「専門」指導は、当該担当教員の指導分野に限っての指導となります。

時限	火曜日			水曜日			木曜日			金曜日	土曜日
1 時間目 9:00 ~ 10:30											
2 時間目 10:40 ~ 12:10				講師 田村 和彦 〔経済学科〕	講師 関根 二三夫 〔政治経済学科〕	講師 真野 一雄 〔英文学専攻〕					
				指導区分 一般 個別 専門	卒論作成に関する一般事項 経済地理学 地域経済	指導区分 一般 個別 専門	卒論作成に関する一般事項 政治学 行政学	指導区分 一般 個別 専門	卒論作成に関する一般事項 英語学		
3 時間目 13:00 ~ 14:30	講師 近藤 健史 〔国文学専攻〕	講師 小澤 賢司 〔英文学専攻〕									
	指導区分 一般 個別 専門	卒論作成に関する一般事項 日本古典文学 上代文学	指導区分 一般 個別 専門	卒論作成に関する一般事項 英語学							
4 時間目 14:40 ~ 16:10	講師 佐藤 稔 〔商業学科〕	講師 猪野 恵也 〔英文学専攻〕		講師 鍋本 由徳 〔史学専攻〕	講師 陸 亦群 〔経済学科〕						
	指導区分 一般 個別 専門	卒論作成に関する一般事項 商業政策	指導区分 一般 個別 専門	卒論作成に関する一般事項 イギリス文学	指導区分 一般 個別 専門	卒論作成に関する一般事項 日本史 日本考古 指導担当学生のみ	指導区分 一般 個別 専門	卒論作成に関する一般事項 国際経済論 経済開発論			
5 時間目 16:20 ~ 17:50	講師 根本 晋一 〔法律学科〕	講師 中澤 瞳 〔哲学専攻〕		講師 高綱 博文 〔史学専攻〕	講師 雨宮 史卓 〔商業学科〕						
	指導区分 一般 個別 専門	卒論作成に関する一般事項 民法	指導区分 一般 個別 専門	卒論作成に関する一般事項 哲学	指導区分 一般 個別 専門	卒論作成に関する一般事項 外国史 アジア近現代史	指導区分 一般 個別 専門	卒論作成に関する一般事項 マーケティング戦略、広告戦略、消費者行動など グランド戦略、広告コミュニケーションなど			

MEMO

1 「開講講座表」の見方

「開講講座表」の見方

1	講座コード	スクーリング開講講座を識別するために講座ごとに付された固有のコード番号です。 「受講届」の「講座コード」欄（4桁）には、この講座コードを記入してください。
2	開講講座名	講座の名称です。原則、科目名と同一ですが、「英語」等のように複数開講される講座については、講座名の後ろにアルファベット等の記号を付して各講座を識別します。
3	担当講師名	当該講座を担当する教員の氏名です。
4	充当科目（科目コード、科目名）	受講講座の合格により成績評価の対象となる科目コードと科目名です。 スクーリングの開講単位は「講座」であり、その「講座」に対してどの「科目（科目コード）」で受講するか（充当させるのか）を申告します。 多くの講座の充当科目は1講座につき1科目ですが、「英語」や「演習科目」のように受講者の単位修得状況により充当科目の選択が必要な講座があるので、充当科目の選定は慎重に行ってください。 「受講届」の「充当科目コード」欄（6桁）には、この科目コードを記入してください。
5	制限・注意	配 当 学 年 ここに記載されている学年に達していない場合は受講できません。 学部・学科（専攻）により受講可能な学年が異なる場合は、「受講条件」欄に記載されています。
		受 講 条 件 その他の受講制限及び諸注意等がある場合に記載されています。
6	オーブン受講	オーブン受講ができない講座には「×印」が記載されています。 記載がない講座はオーブン受講を申込むことができます。

2 開講講座表【曜日・時間順】

※見やすいように1講座ごとに網掛けをしております。

曜日	時限	講座コード	開講講座名	担当講師名	充當科目		制限・注意		受オーブン講
					科目コード	科目名	配当学年	受講条件	
火	1	AB11	政治学	関根 二三夫	B11700	政治学	1年		
火	1	AB12	西洋史入門	高草木 邦人	Q20300	西洋史入門	条件参照	・史学専攻のみ1学年以上申込可。 ・その他は2学年以上申込可。	
火	1	AB13	経営学	山田 敏之	S20200	経営学	条件参照	・商学部のみ1学年以上申込可。 ・その他は2学年以上申込可。	
火	2	AB21	文学	野口 恵子	B11300	文学	1年		
火	2	AB22	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ	中島 伸	D10100	ドイツ語Ⅰ	1年	・Ⅰ・Ⅱのどちらに該当させるのか充當科目コードを必ず記入してください。	
					D10200	ドイツ語Ⅱ			
火	2	AB23	民法Ⅰ	根本 晋一	K20200	民法Ⅰ	条件参照	・法律学科のみ1学年以上申込可。 ・その他は2学年以上申込可。	×
火	2	AB24	英語学演習Ⅰ～Ⅲ	小澤 賢司	N401S0	英語学演習Ⅰ	3年	・英文学専攻のみ申込可 ・Ⅰ～Ⅲのいずれに該当させるのか充當科目コードを必ず記入してください。	
					N402S0	英語学演習Ⅱ			
					N403S0	英語学演習Ⅲ			
火	2	AB25	哲学基礎講読	瀧田 寧	P20100	哲学基礎講読	条件参照	・哲学専攻のみ1学年以上申込可。 ・その他は2学年以上申込可。 ・履修条件あり(シラバス参照)。	×
火	2	AB26	日本史入門	鍋本 由徳	Q20100	日本史入門	条件参照	・史学専攻のみ1学年以上申込可。 ・その他は2学年以上申込可。 ・履修条件あり(シラバス参照)。	
火	2	AB27	中国経済論	斎 中凌	R313S0	中国経済論	2年		
火	2	AB28	商学総論	佐藤 稔	S20100	商学総論	条件参照	・商学部のみ1学年以上申込可。 ・その他は2学年以上申込可。 ・履修条件あり(シラバス参照)。	
火	3	AB31	法学A	根本 晋一	B11500	法学 (日本国憲法2単位を含む)	1年		

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。

その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

曜日	時限	講 座 コード	開 講 講 座 名	担当講師名	充 当 科 目		制 限・注 意		受オ プ 講ン		
					科 目 コ ー ド	科 目 名	配 当 学 年	受 講 条 件			
火	3	AB32	英 語 (初 級) A	アレックス ブラウン	C10100	英 語 I	1 年	· I ~ IV のいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	X		
					C10200	英 語 II					
					C10300	英 語 III	2 年				
					C10400	英 語 IV					
火	3	AB33	国 際 政 治 学	大八木 時広	L30200	国 際 政 治 学	2 年	· 法・文理学部のみ申込可。			
					R32700	国 際 政 治 論		· 経済学部のみ申込可。			
					S33200	国 際 政 治 学 概 論		· 商学部のみ申込可。			
火	3	AB34	英 米 文 学 概 説	猪野 恵也	N20300	英 米 文 学 概 説	条件 参 照	· 英文学専攻のみ 1 学年以上申込可。 · その他は 2 学年以上申込可。 · 履修条件あり (シラバス参照)。			
火	3	AB35	マーケティング	佐藤 稔	S30500	マーケティング					
火	3	AB36	金 融 論	谷川 孝美	R31800	金 融 論		· 履修条件あり (シラバス参照)。			
火	4	AB41	哲 学 A	江川 晃	B10700	哲 学	1 年				
火	4	AB42	TOEIC A	八木 茂那子	C108S0	TOEIC	1 年				
火	4	AB43	民 法 III	根本 晋一	K30200	民 法 III	2 年		X		
火	4	AB44	国文学特殊講義 I・II	近藤 健史	M311S0	国文学特殊講義 I	2 年	· I・II のいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。			
					M312S0	国文学特殊講義 II					
火	4	AB45	スピーチコミュニケーション II	アレックス ブラウン	N31000	スピーチコミュニケーション II	2 年		X		
火	4	AB46	日本史特講 I	八馬 朱代	Q30800	日本史特講 I	2 年				
火	5	AB51	英 語 (中 級) B	飯野 朝世	C10100	英 語 I	1 年	· I ~ IV のいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。			
					C10200	英 語 II					
					C10300	英 語 III	2 年				
					C10400	英 語 IV					
火	5	AB52	中 国 語 I・II	稻葉 明子	F10100	中 国 語 I	1 年	· I・II のいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。			
					F10200	中 国 語 II					
火	5	AB53	科 学 哲 学	江川 晃	P31300	科 学 哲 学	2 年				

注 意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。

その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

曜日	時限	講座コード	開講講座名	担当講師名	充当科目		制限・注意		受才 プラン 講		
					科目コード	科目名	配当年	受講条件			
火	5	AB54	東洋史演習 I・II	高綱 博文	Q403S0	東洋史演習 I	3年	・史学専攻のみ申込可 ・I・IIのどちらに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。			
					Q404S0	東洋史演習 II					
水	1	AC11	経済学	田村 和彦	B11800	経済学	1年	・履修条件あり(シラバス参照)。			
水	1	AC12	商法 II	大久保 拓也	K30600	商法 II	2年				
水	2	AC21	総合科目 I～VI	鍋本 由徳	B101S0	総合科目 I	1年	・I～VIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。 ・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。			
					B102S0	総合科目 II					
					B103S0	総合科目 III					
					B104S0	総合科目 IV					
					B105S0	総合科目 V					
					B106S0	総合科目 VI					
水	2	AC22	英語(中級)C	森 晴代	C10100	英語 I	1年	・I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。			
					C10200	英語 II					
					C10300	英語 III	2年				
					C10400	英語 IV					
水	2	AC23	憲法	名雪 健二	K20100	憲法	条件参照	・法学部のみ1学年以上申込可。 ・その他は2学年以上申込可。	×		
水	2	AC24	考古学入門	野中 和夫	Q20400	考古学入門	条件参照	・史学専攻のみ1学年以上申込可。 ・その他は2学年以上申込可。			
水	2	AC25	広告論	雨宮 史卓	S30900	広告論	2年	・履修条件あり(シラバス参照)。			
水	3	AC31	法学 B	武田 茂樹	B11500	法学 (日本国憲法2単位を含む)	1年				
水	3	AC32	心理学 A	野村 康治	B12100	心理学	1年	・履修条件あり(シラバス参照)。			
水	3	AC33	英語(初級)D	北原 安治	C10100	英語 I	1年	・I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。			
					C10200	英語 II					
					C10300	英語 III	2年				
					C10400	英語 IV					

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。

その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

曜日	時限	講 座 コード	開 講 講 座 名	担当講師名	充 当 科 目		制 限・注 意		受オ プ 講ン		
					科 目 コ ー ド	科 目 名	配 当 学 年	受 講 条 件			
水	3	AC34	政治学特殊講義 I・II	秋山 和宏	L311S0	政治学特殊講義 I	2年	・ I・IIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。			
					L312S0	政治学特殊講義 II					
水	3	AC35	日本思想史 I	島田 健太郎	P30800	日本思想史 I	2年				
水	3	AC36	国文学講義V(近代)	永岡 健右	M30900	国文学講義V(近代)	2年		×		
水	3	AC37	東洋史特講 I	堀井 弘一郎	Q31000	東洋史特講 I	2年				
水	4	AC41	歴史学 A	渡邊 浩史	B11100	歴史学	1年				
水	4	AC42	心理学 B	野村 康治	B12100	心理学	1年	・履修条件あり(シラバス参照)。			
水	4	AC43	国文学基礎演習	木村 一	M317S0	国文学基礎演習	2年	・国文学専攻のみ申込可	×		
水	4	AC44	国語学概論	保科 恵	M20300	国語学概論	条件参照	・国文学専攻のみ1学年以上申込可。 ・その他は2学年以上申込可。			
水	4	AC45	日本史概論／日本史概説	横山 則孝	K32200	日本史概論	2年	・法学部のみ申込可			
					Q30200	日本史概説		・文理・経済・商学部のみ申込可			
水	5	AC51	歴史学 B	堀井 弘一郎	B11100	歴史学	1年				
水	5	AC52	文化史	渡邊 浩史	B11200	文化史	1年				
水	5	AC53	英語(初級) E	石川 勝	C10100	英語 I	1年	・I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。			
					C10200	英語 II					
					C10300	英語 III	2年				
					C10400	英語 IV					
木	1	AD11	英語(中級) F	鈴木 ふさ子	C10100	英語 I	1年	・I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	×		
					C10200	英語 II					
					C10300	英語 III	2年				
					C10400	英語 IV					
木	1	AD12	行政学	関根 二三夫	L30100	行政学	2年				
木	1	AD13	東洋史入門	綿貫 哲郎	Q202S0	東洋史入門	2年	・履修条件あり(シラバス参照)。			
木	1	AD14	情報概論 A	中村 典裕	R32300	情報概論	2年				

注 意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。

その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

曜日	時限	講 座 コード	開 講 講 座 名	担当講師名	充 当 科 目		制 限・注 意		受 才 一 ブ 講		
					科 目 コ ー ド	科 目 名	配 当 学 年	受 講 条 件			
木	2	AD21	英 語 (上 級) G	岡田 善明	C10100	英 語 I	1 年	・ I ~ IV のいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。			
					C10200	英 語 II					
					C10300	英 語 III	2 年				
					C10400	英 語 IV					
木	2	AD22	国文学演習 I ~ VI	近藤 健史	M404S0	国文学演習 I	3 年	・ 国文学専攻のみ申込可 ・ I ~ VI のいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。			
					M405S0	国文学演習 II					
					M406S0	国文学演習 III					
					M407S0	国文学演習 IV					
					M408S0	国文学演習 V					
					M409S0	国文学演習 VI					
木	2	AD23	イギリス文学史 I	鈴木 ふさ子	N20100	イギリス文学史 I	条件参照	・ 英文学専攻のみ 1 学年以上申込可。 ・ その他は 2 学年以上申込可。			
木	2	AD24	経 濟 学 概 論	陸 亦群	R20300	経 濟 学 概 論	条件参照	・ 経済学部のみ 1 学年以上申込可。 ・ その他は 2 学年以上申込可。			
木	3	AD31	英 文 法	真野 一雄	N20200	英 文 法	条件参照	・ 英文学専攻のみ 1 学年以上申込可。 ・ その他は 2 学年以上申込可。			
木	3	AD32	東 洋 史 概 説	高綱 博文	K32300	東 洋 史 概 説	2 年	・ 法学部のみ申込可			
					Q30300	東 洋 史 概 説		・ 文理・経済・商学部のみ申込可			
木	3	AD33	日本史演習 I ・ II	鍋本 由徳	Q401S0	日本史演習 I	3 年	・ 史学専攻のみ申込可 ・ I ・ II のどちらに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。			
					Q402S0	日本史演習 II					
木	3	AD34	経 濟 原 論	陸 亦群	R20100	経 濟 原 論	条件参照	・ 経済学部のみ 1 学年以上申込可。 ・ 文理・商学部は 2 学年以上申込可。			
					L20200	経 濟 学 原 論		・ 法学部政治経済学科のみ 1 学年以上申込可。 ・ 法律学科は 2 学年以上申込可。			
木	3	AD35	商 業 政 策	雨宮 史卓	S31000	商 業 政 策	2 年				
木	3	AD36	教 育 原 論 / 教 育 の 思 想	古賀 徹	T10200	教 育 原 論	2 年	・ 本誌 8 ページを参照 ・ スクーリング 1 回の合格で単位完成する科目です。			
					T10300	教 育 の 思 想					

注 意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

曜日	時限	講 座 コード	開 講 講 座 名	担当講師名	充 当 科 目		制 限・注 意		受オ ープ 講ン
					科 目 コ ー ド	科 目 名	配 当 学 年	受 講 条 件	
木	4	AD41	英 語 基 礎 A	小澤 賢司	C10600	英 語 基 礎	1 年		
木	4	AD42	英米文学演習 I ~ III	猪野 恵也	N404S0	英米文学演習 I	3 年	・英文学専攻のみ申込可 ・I ~ IIIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					N405S0	英米文学演習 II			
					N406S0	英米文学演習 III			
木	4	AD43	哲 学 演 習 I ・ II	中澤 瞳	P401S0	哲 学 演 習 I	3 年	・哲学専攻のみ申込可 ・I ・ IIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					P402S0	哲 学 演 習 II			
木	4	AD44	日 本 経 済 史	飯島 正義	R30500	日 本 経 済 史	2 年	・履修条件あり（シラバス参照）。	
木	4	AD45	特 殊 講 義	雨宮 史卓	R325S0	特 殘 講 義	2 年	・スクーリング 1 回の合格で単位完成する科目です。	
木	5	AD51	西 洋 思 想 史 II	中澤 瞳	P30600	西 洋 思 想 史 II	2 年		
木	5	AD52	西 洋 史 演 習 I ・ II	藤井 信行	Q405S0	西 洋 史 演 習 I	3 年	・史学専攻のみ申込可。 ・I ~ IIIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					Q406S0	西 洋 史 演 習 II			
木	5	AD53	国 際 経 済 論	陸 亦群	R31100	国 際 経 済 論	2 年		
木	5	AD54	社 会 科 ・ 地理歴史科教育法 I	古賀 徹	T20500	社 会 科 ・ 地理歴史科教育法 I	2 年	・法学部・哲学専攻・史学専攻・経済学部・商学部のみ申込可。	
金	1	AE11	刑 事 訴 訟 法	船山 泰範	K31700	刑 事 訴 訟 法	2 年		
金	1	AE12	東 洋 思 想 史 I	本間 直人	P20300	東 洋 思 想 史 I	条件 参 照	・哲学専攻のみ 1 学年以上申込可。 ・その他は 2 学年以上申込可。 ・履修条件あり（シラバス参照）。	
金	1	AE13	経 済 地 理 学	田村 和彦	R32600	経 済 地 理 学			
					S32200	経 済 地 理		・商学部のみ申込可。	
金	2	AE21	哲 学 B	中澤 瞳	B10700	哲 学	1 年		

注 意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。

その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

曜日	時限	講 座 コード	開 講 講 座 名	担当講師名	充 当 科 目		制 限・注 意		受 才 一 ブ 講		
					科 目 コ ー ド	科 目 名	配 当 学 年	受 講 条 件			
金	2	AE22	英 語 H (初 級)	福島 昇	C10100	英 語 I	1 年	・ I ~ IV のいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。			
					C10200	英 語 II					
					C10300	英 語 III	2 年				
					C10400	英 語 IV					
金	2	AE23	フランス語 I・II	大庭 克夫	E10100	フランス語 I	1 年	・ I・II のどちらに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。 ・ 履修条件あり (シラバス参照)。			
					E10200	フランス語 II					
金	2	AE24	史 学 概 論	高綱 博文	Q30100	史 学 概 論	2 年				
金	2	AE25	西 洋 史 特 講 I	池本 今日子	Q31200	西 洋 史 特 講 I	2 年				
金	2	AE26	商 業 史	横山 則孝	S32100	商 業 史	2 年				
金	3	AE31	英 語 J (初 級)	中村 則子	C10100	英 語 I	1 年	・ I ~ IV のいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。			
					C10200	英 語 II					
					C10300	英 語 III	2 年				
					C10400	英 語 IV					
金	3	AE32	政 治 学 原 論	吉野 篤	L20100	政 治 学 原 論	条件 参 照	・ 政治経済学科のみ 1 学年 以上申込可。 ・ その他は 2 学年以上申込可。			
金	3	AE33	西 洋 古 典	福島 昇	N308S0	西 洋 古 典	2 年				
金	3	AE34	ア メ リ カ 経 済 論	小林 通	R312S0	ア メ リ カ 経 済 論	2 年				
金	3	AE35	市 場 調 査 論	最上 健児	S317S0	市 場 調 査 論	2 年	・ 履修条件あり (シラバス 参照)。			
金	4	AE41	社 会 学	服部 慶亘	B11600	社 会 学	1 年	・ 履修条件あり (シラバス 参照)。			
金	4	AE42	英 語 基 礎 B	中村 則子	C10600	英 語 基 礎	1 年	・ 英文学専攻は申込不可。			
金	4	AE43	国 文 学 概 論	山崎 泉	M20200	国 文 学 概 論	条件 参 照	・ 国文学専攻のみ 1 学年以 上申込可。 ・ その他は 2 学年以上申込可。			
金	4	AE44	宗 教 学 概 論	合田 秀行	P30400	宗 教 学 概 論	2 年				

注 意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。

その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

曜日	時限	講 座 コード	開 講 講 座 名	担当講師名	充 当 科 目		制 限・注 意		受オ ープ 講ン		
					科 目 コ ー ド	科 目 名	配当 学年	受 講 条 件			
金	5	AE51	英 語 (中 級 K)	青木 克憲	C10100	英 語 I	1 年	· I ~ IV のいずれに該当させるのか充當科目コードを必ず記入してください。	×		
					C10200	英 語 II					
					C10300	英 語 III	2 年				
					C10400	英 語 IV					
金	5	AE52	日本 政 治 史	石川 徳幸	L30400	日本 政 治 史	2 年		×		
金	5	AE53	情 報 概 論 B	一島 力男	R32300	情 報 概 論	2 年				
土	1・2	AF11	TOEIC B	町田 純子	C108S0	TOEIC	1 年				
土	1・2	AF12	国 文 学 基 础 講 義	木 村 一	M20100	国 文 学 基 础 講 義	条件 参 照	· 国 文 学 専 攻 のみ 1 学 年 以 上 申 込 可。 · そ の 他 は 2 学 年 以 上 申 込 可。			
土	1・2	AF13	簿 記 論 I	遠 藤 洋 介	S20300	簿 記 論 I	条件 参 照	· 商 学 部 のみ 1 学 年 以 上 申 込 可。 · そ の 他 は 2 学 年 以 上 申 込 可。			
土	1・2	AF14	現 代 教 職 論	古 賀 徹	T10100	現 代 教 職 論	2 年	· ス ク ー リ ン グ 1 回 の 合 格 で 单 位 完 成 す る 科 目 で す。			

MEMO

1 講座受講時の注意点

① ポータルサイト及び 掲示板で最新情報の 確認

登校の際は、通信教育部 1 号館 1 階学生ホールにある掲示版で最新情報を確認してから講義に出席してください。
また、「講堂変更」・「休講」等、日々の授業に関する情報についても随時、ポータルサイトや掲示板でお知らせします。

② 受講上の注意 (出席・欠席・遅刻等)

【出席について】

スクーリングは、毎回出席することを原則としています。
交通機関の遅れや特別な事情がある場合以外での遅刻はしないよう心掛けてください。

※授業を途中から受講することは、担当教員や周りの受講者に対しても迷惑な行為です。時間に余裕を持って行動してください。

【欠席について】

止むを得ぬ事情によりスクーリングを欠席した場合は、次回の出席時に直接、担当教員へ欠席した旨を伝えてください。

※事務局及び講師室では、欠席の連絡は受け付けられません。

③ 受講上の注意 (休講・補講)

【休講について】

スクーリング期間中、担当教員の都合や天候により授業を休講する場合があります。

- ① 事前に情報を得ている場合は、ポータルサイト及び掲示板にてお知らせします。
- ② 当日、急きよ、担当教員の体調不良等の理由により休講する場合は、授業講堂において出席を取り、次回担当教員に出席していたことを伝えます。
(この場合は、掲示板には休講掲示を出しません。)
- ③ その他、天候により急きよ、休講となる場合はホームページ、ポータルサイトにてお知らせします。

【補講について】

スクーリング期間中に休講した場合、必ず補講を実施します。補講は、下記の①もしくは②の日程で実施します。

- ① 補講日程に実施
7月 16 日 (土), 25 日 (月)
- ② 学事日程上、空いている月曜日・土曜日に実施

「スクーリング試験」受験上の注意

- 1 「学生証」及び「領収書（銀行領収印の押印されているもの）」を机上通路側の監督者が見やすいところに置くこと。受講手続及び受講料納入がない場合、受験できない。
- 2 「学生証」を忘れた場合又は未更新の場合は、事前に教務課（講師室）に申し出て指示を受けること。
- 3 携帯電話等は、電源を切り、鞄等に収納し身体から離しておくこと。時計・電卓としての使用も禁止する。
- 4 持ち込みを許可されたもの以外は机上に置かないこと。
- 5 解答用紙は、1人1枚とし、再交付はしない。
- 6 解答用紙の下段、太線枠内※印の事項については、必ずペン又はボールペンで記入すること。当該事項について記載がない場合又は誤記等は採点の対象にならない場合がある。
- 7 試験開始後20分以上遅刻した者は受験することができない。
- 8 途中退場は、試験監督者の指示がある場合に限り、試験開始30分後から認める。解答用紙を試験監督者に提出して退場すること。なお、用紙の持ち帰りは一切認めない。
- 9 試験場では、試験監督者の指示に従うこと。
- 10 不正行為（不正とみなされる行為含む）は絶対行わないこと。不正行為を行った場合は、学則により処分（停学・退学等）される。
- ※ 試験中の参照物等の貸し借りは不正行為とみなす。

2 スクーリング結果の確認

スクーリングの結果は、教務課から平成28年度授業料及びスクーリング受講料を納入した学生に対し、ポータルサイトまたは郵送にて通知します。

電話・郵便による問合せには一切応じることができません。また、「スクーリング結果通知書」の再発行はいたしません。天災による郵便の遅延・未着や、その他の事故に対していかなる配慮も行えませんので、「スクーリング結果通知書」を紛失した場合などはポータルサイトの単位修得状況確認で確認、又は「単位照合票」等の交付を受け、確認してください。

結果発表時期	平成28年8月下旬
--------	-----------

① 結果の表示

結果は、「合格」、「不合格」、「未受講」で発表します。

受講許可のない講座を受験した場合には「無効」とし、単位は修得できません。

② 単位数

結果が「合格」の場合、シラバスに記載されている開講単位数を修得したことになります。また同時にスクーリング単位も修得したことになります。

◆政治制度を基礎から学びましょう

〔政治学〕

火曜日 1 時限

開講単位 2 単位

担当者：関根 二三夫

◆**学修到達目標** 基礎教育としての講義を行います。議会や大統領若しくは内閣の動きを見ますと、政治が難しい現象のように思われます。しかし、法律や予算の制定や執行は、国家や社会及び個人の発展に寄与するために役立ちます。この講義においては、政治が我々の生活に大きな影響を及ぼすと同時に、我々にとって身近な現象であることを学びます。

◆**授業方法** 講義形式で行います。講義においては、政治に関する受講生の問題意識を高め、それに対する解決能力を啓発するように進めて行きます。講義で知り得た内容が如何なる意義を有するのか、それが個人や社会や国家にとってどのように関係してくるのかを客観的に理解しなければなりません。受講に際しては、予習や復習が必要になります。

◆**準備学修** 政治学は社会科学のカテゴリーに入り、人間社会を対象にする学問です。社会における問題点を把握し、あるべき社会を考える必要があります。学修の準備として、メディアの情報に关心を持ち、テキストを熟読するなど、それぞれの単元につき2時間程度の予習をし、また同様に2時間程度の復習が必要です。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 講義全体の概要説明 ※講義の内容について、項目ごとに説明します。	9回目 国家機関 ※国家と国家機関との関係を説明します。
2回目 政治学の変遷 ※古代、中世、近世、近代等について説明します。	10回目 議会政治 ※議会政治の原理を説明します。
3回目 政治の概念 ※現実の政治について説明します。	11回目 議会の構成 ※一院制や二院制を説明します。
4回目 政治の本質 ※あるべき政治について説明します。	12回目 立法部と行政部 ※議院内閣制を説明します。
5回目 政治権力 ※政治権力の概念や構造について説明します。	13回目 立法部と行政部 ※大統領制を説明します。
6回目 政治権力 ※支配の手段について説明します。	14回目 大統領拒否権 ※意義や内容を説明します。
7回目 国家 ※国家成立の要素について説明します。	15回目 議会拒否権 ※意義や内容を説明します。
8回目 国家 ※国家を一定の基準により分類します。	

◆**教科書** 通材『政治学 B11700』 通信教育部教材（コード 000279）1,850 円（送料込）

※議会、内閣、裁判所の統治機構に関する解説、選挙、政党、圧力団体などの政治過程に関する解説に重点が置かれています。

◆**参考書** 丸沼『教養政治学』岩井奉信、黒川貢三郎、関根二三夫他 南窓社、3,132 円（税込）（送料 350 円）

※政治学の変遷、政治の概念、統治機構、政治過程などの解説に重点が置かれています。

◆**成績評価基準** 試験 70%，平常点 30% ※試験同様、質問や理解度テストへの解答等平常点も重視しますので、受講に際しては欠席をしないように注意して下さい。◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆「西洋の歴史学」に触れてみよう！

〔西洋史入門〕

火曜日 1 時限

開講単位 2 単位

担当者：高草木 邦人

◆**学修到達目標** 本講義は、西洋史を学ぶ上で必要とされている知識と技術の基礎を学習します。本講義の学習により、受講生は自立的に西洋史を研究するためのスタート地点に立つことができます。前期においては、近代西洋において発展してきた「歴史学」の特質とこの学問への接近方法について学習します。なお、前期と後期は内容が異なりますので、半期のみの受講も可能ですが、学習効果をあげるためにには、前期・後期の連続受講が望ましいです。

◆**授業方法** 本講義は、基本的に講義形式をとりますが、演習的な要素も盛り込んでいきます。具体的なこととしては、学生自身が研究文献や史料を講読すること、授業中にレポートを作成すること、グループで討論をおこなうことなどを予定しています。なお、受講者の人数とその理解度に応じて、下記の授業計画を若干修正することがあります。

◆**準備学修** 準備学習として、指定したテキストの授業に関連した箇所を熟読しておいてください。熟読すべき箇所については、授業中に適時指示します。なお、本講義の受講前までに高等学校の教科書を必ず読んでおいてください。本講義は古代史から近現代までを扱う通史ではないので、高等学校の世界史Aの教科書などを事前に読んで、歴史の知識を蓄えながら、世界史の大まかな流れを把握しておいて下さい。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 ガイダンス	9回目 実証歴史学に対する批判
2回目 歴史学と歴史小説との違い	10回目 実証と理論・方法論
3回目 歴史の概説書を読む	11回目 歴史学における問題関心と問題設定
4回目 書く歴史学と考える歴史学	12回目 研究史を学ぶ意味
5回目 西洋における歴史叙述の展開	13回目 研究テーマの整理
6回目 歴史叙述の実践	14回目 文献の収集方法
7回目 歴史学における史料の意義	15回目 前学期のまとめと確認
8回目 西洋における実証歴史学の発展	

◆**教科書** 丸沼『歴史学「外」論一いかに考え、どう書くか』下田淳 青木書店 2005年 1,944円（税込）
(送料 300円)

【当日資料配布】 当日にプリントを配布します。

◆**参考書** 丸沼『歴史学ってなんだ?』小田中直樹 PHP研究所 2004年 734円（税込）(送料 215円)
丸沼『歴史を冒険するために』中谷功治 関西学院大学出版会 2008年 2,160円（税込）(送料 300円)
丸沼『新しい史学概論』(新版) 望月幸男・芝井敬司・末川清 昭和堂 2002年 2,376円（税込）
(送料 300円)

◆**成績評価基準** 成績の評価基準は、試験(50%)、平常点(50%)です。平常点は、授業中に配布するアクション・ペーパー、授業中におこなうレポート、そして授業態度などを参考に評価します。なお、毎回出席していることを前提として評価します。

◆**授業相談（連絡先）：**

◆経営学の基本を理論と事例で学ぶ

〔経営学〕

火曜日 1 時限

開講単位 2 単位 担当者：山田 敏之

◆学修到達目標 本講義では、現代企業の本質及び直面する問題を明らかにしつつ、経営学の基礎的な考え方について理解を深めることを目標とします。現実の企業行動を、経営学の理論によって説明できることが到達点となります。前期は企業の本質、現代企業が直面する課題、経営学の歴史的変遷、経営トップの意思決定、経営戦略の問題を扱います。前期のみの受講、後期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるため、前期・後期の連続受講が望ましい。

◆授業方法 概ね指定したテキストに従い、黒板での板書を基本とした講義形式の授業を行います。具体的な企業経営のケース（事例）やグラフ等の関連資料については配布資料、パワーポイントを使用します。理論の説明とケース（事例）を組み合わせることで、より実践性の高い内容にしていきたいと思います。なお、講義の終了前に、その日の講義の内容あるいは企業経営に関する時事的な問題に関する小テストを毎回実施します。

◆準備学修 毎回の授業の課題に沿って指定したテキストの該当部分をあらかじめ読んでおいてください。授業計画で示された経営学の諸概念について、分からぬ言葉や用語等があれば事前に経営学辞典、経済学辞典あるいは参考書を用いて調べてください。経営学はきわめて現実性の高い学問領域ですので、日本経済新聞、日経産業新聞等の新聞や日経ビジネス、東洋経済、エコノミストといった経済雑誌にも絶えず目を通すようにしておいてください。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 イントロダクション	9回目 経営戦略の基礎概念
2回目 企業の概念と本質的活動について	10回目 アンソフの戦略論とシナジー概念
3回目 経営学の歴史的変遷Ⅰ	11回目 経験曲線と製品ライフサイクル
4回目 経営学の歴史的変遷Ⅱ	12回目 PPM と資源配分
5回目 現代企業が直面する課題Ⅰ：グローバル化と技術革新	13回目 業界構造分析の基礎
6回目 現代企業が直面する課題Ⅱ：組織の肥大化	14回目 ポーターの競争戦略論
7回目 トップ組織の構造とガバナンス	15回目 まとめ
8回目 経営トップの役割と意思決定	

◆教科書 丸沼『経営学イノベーション1 経営学入門 第2版』十川廣國 中央経済社 2,592円（税込）
(送料 300円)

◆参考書 丸沼『マネジメントの世紀 1901→2000』クレイナー S.著、嶋口充輝監訳、岸本義之・黒岩健一郎訳
東洋経済新報社 2,700円（税込）(送料 350円)

丸沼『人と組織を活かす経営管理論』青木幹喜編著 八千代出版 3,024円（税込）(送料 300円)

丸沼『経営学イノベーション2 経営戦略論 第2版』十川廣國編著 中央経済社 2,592円（税込）
(送料 300円)

◆成績評価基準 平常点（毎回の小テスト）(20%)、試験 (80%)。毎回出席することを前提として評価します。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆異文化を理解する

〔文学〕

火曜日 2 時限

開講単位 2 単位 担当者：野口 恵子

◆学修到達目標 約 1300 年以上前に成立した『万葉集』を取り上げる。21 世紀の我々からすると異文化の世界であるが、そのような異なる世界との対話によって、我々の世界観はさらに広がるはずである。いかに違うのか、なぜそのような違いが生じるのか等を理解することを目標とする。

◆授業方法 講義形式。板書はメモ程度しか行わないで、自分の「ノート」を作成することを求める。

◆準備学修 歌の内容については説明するが、口語訳は行わない。参考書にも目を通しておくこと。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 授業計画の説明	9回目 古代の労働についての説明②
2回目 『万葉集』の概略についての説明	10回目 古代の家族についての説明①
3回目 『万葉集』の読み方についての説明	11回目 古代の家族についての説明②
4回目 神々の世界についての説明①	12回目 古代の女性歌についての説明①
5回目 神々の世界についての説明②	13回目 古代の女性歌についての説明②
6回目 古代の都市についての説明①	14回目 愛情表現についての説明①
7回目 古代の都市についての説明②	15回目 愛情表現についての説明②
8回目 古代の労働についての説明①	

◆教科書 丸沼『訳文 万葉集』森 淳司編 笠間書院 1,944 円（税込）（送料 350 円）

◆参考書 授業内で紹介する。

◆成績評価基準 レポート試験（80%）平常点（20%）。毎回出席することを前提として評価する。なお、遅刻は認めない。

◆授業相談（連絡先）：

◆読むためのドイツ語を学びましょう

〔ドイツ語 I・II〕

火曜日 2 時限

開講単位 1 単位 担当者：中島 伸

◆学修到達目標 ドイツ語文を読むために必要な文法事項と語順の習得、そして語彙力の強化を目指します。ドイツ語は英語と比べると馴染みの薄い言語ですが、ドイツ語文の語順は日本語とよく似ているため、皆様にとってドイツ語は英語よりも学び易い言語です。英語を 6 年以上学んで身に付かなかった方は、これを機にドイツ語に転換しましょう。前期のみの受講、後期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるため、前期・後期の連続受講が望ましい。

◆授業方法 以下の授業計画で挙げられている文法事項の説明後、練習問題（文法と和訳）で定着させていきます。更に、スクーリング時に 2 回小テストを行い、間違った箇所と確認のために個別に解説を添えて答案を返却します。また、毎回ドイツ語会話表現をいくつか説明し、皆様がリラックスして学べる環境にしていきます。

◆準備学修 回を追うごとに説明する文法事項は既に習った文法事項の知識が無いと理解できませんので、既習の文法事項の復習をするようにして下さい。特に、動詞の現在人称変化と名詞の性、そして冠詞の格変化はほぼ全ての文法事項で必要な知識となります。冠詞の格変化を紙に書いて覚える等の自己学習をするようにして下さい。反復練習こそが言語習得への近道です。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス・発音とアクセント	9回目 命令形
2回目 動詞の現在人称変化	10回目 人称代名詞
3回目 文中における定動詞の位置	11回目 前置詞
4回目 名詞の性・定冠詞と不定冠詞	12回目 形容詞の語尾変化
5回目 名詞の複数形	13回目 話法の助動詞
6回目 定冠詞類と不定冠詞類	14回目 未来形
7回目 指示代名詞と疑問代名詞	15回目 まとめ・試験
8回目 不規則な現在人称変化をする動詞	

◆教科書 丸沼『ハンサムドイツ』高橋泰雄・城間宏朋著 朝日出版社 2,592 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書 独和辞典が必要となります。推奨独和辞典は初回スクーリング時に紹介します。

◆成績評価基準 平常点（20%）・小テスト（30%）・試験（50%）。毎回出席することを前提として評価します。なお、独和辞典は必ず持参のこと（独和辞典の忘れは欠席扱いとします）。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆民法総則（前半）

〔民法Ⅰ〕

火曜日 2 時限

オープン受講：不可 開講単位 2 単位 担当者：根本 晋一

◆学修到達目標 民法学における民法総則の位置づけ、民法総則の意義と体系、主要な論点を理解することを目標とする。なお、前期・後期の順番で続けて受講することが望ましい。

◆授業方法 1 受講者数が多いので、担当教員がイニシアチブをとる講義形式を採用する。
2 法改正や新判例の追加等により、シラバス（授業計画）どおりに進まないことがあり得る。

◆準備学修 前回講義時における板書事項を、しっかりと読み直してくること。なお、本講義は板書事項が多いことを、ご承知おきいただきたい。

◆授業計画〔各 90 分〕

※民法典の編別、および標準的な基本書の編別に準拠して説明 1回目 をする。 GD、民法の概念・沿革・体系等①	9回目 私権の主体③
2回目 GD、民法の概念・沿革・体系等②	10回目 私権の主体④
3回目 GD、民法の概念・沿革・体系等③	11回目 私権の主体⑤
4回目 民法の基本原理①	12回目 私権の客体①
5回目 民法の基本原理②	13回目 私権の客体②
6回目 民法の基本原理③	14回目 私権の客体③
7回目 私権の主体①	15回目（前半）まとめ
8回目 私権の主体②	

◆教科書 指定しない。

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 全回出席を原則として、筆記試験または本講義終了後に提出するレポートの評価点 80%、授業態度 20%

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ 5 文型を知る

火曜日 2 時限

【英語学演習 I ~ III】

開講単位 1 単位 担当者：小澤 賢司

◆ **学修到達目標** 本授業では、専門的な英語を読みこなす力を身につけるとともに、「5 文型」を知り、さらには、英語学とはどういったものなのかを「体験」することを目標としています。「5 文型」は、C. T. Onions が最初に提唱したと言われています（詳しくは本授業にて）。英語学を専攻する学生、及び今後も英語学（英語教育）に携わるであろう学生にはぜひその「源流」を知ってほしいと思います。また、この「5 文型」は長年に渡り議論的となっていました。したがって、「5 文型」（の歴史）を通して、英語学における研究手法も同時に学ぶことができます。

【本授業は、昼間（後期）開講予定の「英語学演習－5 文型のその先に－」と併せて受講することができます】

◆ **授業方法** 輪読形式でテキスト（プリント）を読み進めていきます。受講者の方に（こちらが指名して）音読・和訳をしてもらいます。なお、受講者の様子（理解度）を見ながら授業を進めていますので、授業計画はあくまでの「目安」とお考えください。

◆ **準備学修** 「徹底した「予習」と「飽きるほどの「復習」をお願いします。

(a) 音読

本授業において、極めて重要な予習項目となります。

(b) 内容理解及び和訳

きれいな和訳にすることも重要ですが、それよりもそこに書かれている内容がしっかりと把握・理解できているかを重視してください。

(c) 文法・文構造の理解

文法的、ないしは文構造的に不明な箇所はチェックしておいてください。

(d) 復習

未知の内容は飽きるまで復習してきてください（それが血（智）となり、肉となります）。もちろん、既知の内容であっても復習は重要です。

◆ 授業計画【各 90 分】

1回目 ガイダンス プリント配布。品詞と文の成分の確認	9回目 細江逸記を読む
2回目 品詞と文の成分の再確認。 C. T. Onions を読む	10回目 細江逸記を読む
3回目 C. T. Onions を読む	11回目 「5 文型」の問題点 その1
4回目 C. T. Onions を読む	12回目 「5 文型」の問題点 その2
5回目 C. T. Onions を読む	13回目 「7 文型」
6回目 C. T. Onions を読む	14回目 これまでの復習
7回目 C. T. Onions を読む	15回目 テスト
8回目 細江逸記を読む	

◆ **教科書** 事前資料送付（当日資料配布）適時プリントを配布します。

※ 英和辞典は必ず持参してください。

◆ **参考書** 適時授業中に紹介します。

◆ **成績評価基準** 授業への取り組み（予習状況・発表など）、及びテストにより総合的に評価します。

◆ **授業相談（連絡先）：**

◆『方法序説』を読む—西洋近代の出発点をたずねて

〔哲学基礎講読〕

火曜日 2 時限

オープン受講：不可

開講単位 2 単位

担当者：瀧田 寧

◆学修到達目標 現代の私たちが受け入れている考え方の多くが、17世紀以降の西洋で発展した学問に依拠していることを考えると、その学問の前提となる思考法や人間観を学ぶことは重要であると言える。

本講義では、17世紀ヨーロッパを代表する学者の一人であるデカルトの『方法序説』を読解しながら、そこに見いだされる思考方法や人間観を考察し、それを自分なりに説明できるようになることを目標とする。

本科目は後期も受講することが望ましい。

◆授業方法 講義形式で進めるが、講読の授業なので、まずは皆さんにテキストを順番に読んでいただく。

但し、テキストは一読して直ちに理解できるものではないので、講師の方でも同じ文章を繰り返し読みながら解説を加える。

また、講義後は毎回「コメント」を書いていただく（1～3, 14, 15回目は除く）。

なお、講義形式なので、質問や意見等は授業後に受けるが、特に重要だと判断した講義後の「コメント」は、授業の中で紹介することもある。

◆準備学修 ルネ・デカルトという学者の著書名やキーワードを、事前に哲学史の概説書などで調べておきましょう。

なお、本科目は、哲学科以外の学生でも、下記①～③の意識を持つ人には馴染みやすいようです。

- ① 異なる時代の価値観にも寛容でいられる。
- ② すぐに答えを欲しがらない。
- ③ 自分の日常を少し掘り下げた視点から見直してみたい。

◆履修条件 平成27年度昼間・土曜スクーリング（前期）「哲学基礎講読」との積み重ね不可

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 本講義の方法・計画等の説明	9回目 『方法序説』第4部（1）
2回目 17世紀前半の西洋思想の流れを概観する	10回目 『方法序説』第4部（2）
3回目 デカルト哲学の概略説明	11回目 『方法序説』第5部（1）
4回目 『方法序説』第1部（1）	12回目 『方法序説』第5部（2）
5回目 『方法序説』第1部（2）	13回目 『方法序説』第6部
6回目 『方法序説』第2部（1）	14回目 デカルト以降の展開
7回目 『方法序説』第2部（2）	15回目 まとめ
8回目 『方法序説』第3部	

◆教科書 丸沼『方法序説・情念論』デカルト著 野田又夫訳 中公文庫 761円（税込）（送料215円）

◆参考書 授業の中で紹介する。

◆成績評価基準 毎回（但し1～3, 14, 15回目は除く）の講義終了後に書いていただく「コメント」（50%）、試験（50%）

◆授業相談（連絡先）：

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆現代商学の基本的枠組み

〔商学総論〕

火曜日 2 時限

開講単位 2 単位 担当者：佐藤 稔

◆学修到達目標 商品の社会的流通に関する技術及び理論の両側面について理解することを目標とする。

◆授業方法 テキスト及び資料に基づく講義形式。

◆準備学修 テキストを熟読しておくこと。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 商業概念の規定	9 回目 わが国の流通機能分析
2 回目 商業概念の変遷	10 回目 機能分類、本質的機能
3 回目 商業の学説	11 回目 機能分類、物流機能
4 回目 商法上の商業	12 回目 機能分類、助成的機能
5 回目 商業の研究対象と方法	13 回目 卸売業
6 回目 諸外国の商業研究	14 回目 卸売市場、中央卸売市場
7 回目 流通の取引対象、商品概念	15 回目 商品・証券取引所
8 回目 アメリカの流通機能分析	

◆教科書 当日資料配布 当日資料配布。

通材 『商学総論 S20100』 通信教育教材 (教材コード 000356) 3,300 円 (送料込)

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 授業への参加及び最終試験による総合的評価。

◆授業相談 (連絡先) :

◆法学 (前半)

〔法学 A〕

火曜日 3 時限

開講単位 2 単位 担当者：根本 晋一

◆学修到達目標 大学に学び、学士の称号を取得する者に相応しい法的教養の涵養をめざす。なお、前期・後期の順番で続けて受講することが望ましい。

◆授業方法 1 受講者数が多いので、担当教員がイニシアチブをとる講義形式を採用する。
2 法改正や新判例の追加等により、シラバス (授業計画) どおりに進まないことがあり得る。

◆準備学修 前回講義時における板書事項を、しっかりと読み直してくること。なお、本講義は板書事項が多いことを、ご承知おきいただきたい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 GD、法(灘)の概念①	9 回目 法解釈の手法③
2 回目 GD、法(灘)の概念②	10 回目 法の適用 (法的三段論法) ①
3 回目 GD、法(灘)の概念③	11 回目 法の適用 (法的三段論法) ②
4 回目 法の機能 (紛争解決規範、行為規範と裁判規範) ①	12 回目 法の適用 (法的三段論法) ③
5 回目 法の機能 (紛争解決規範、行為規範と裁判規範) ②	13 回目 国法体系、法の分類方法など①
6 回目 法の機能 (紛争解決規範、行為規範と裁判規範) ③	14 回目 国法体系、法の分類方法など②
7 回目 法解釈の手法①	15 回目 (前半) まとめ
8 回目 法解釈の手法②	

◆教科書 指定しない。

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 全回出席を原則として、筆記試験または本講義終了後に提出するレポートの評価点 80%、授業態度 20%

◆授業相談 (連絡先) :

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ English Communication Skills

★★★ [英語 A] (初級)

火曜日 3 時限

オープン受講: 不可

開講単位 1 単位

担当者: アレックス ブラウン

◆学修到達目標 In this course we will study, comprehend and use natural English dialogue from scenes of a popular movie; Life of Pi, starring Soraj Sharma.

◆授業方法 We will use the scenes from the movie for listening comprehension, vocabulary usage and expansion with further practice of idioms and expressions used in the dialogue of the movie.

◆準備学修 Prepare to discuss comprehension questions provided by the teacher in a group format.

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 Introduction, Movie viewing Scene 1 vocabulary study	9回目 7&8 Continued
2回目 Scenes 1&2 comprehension questions and role play	10回目 Scenes 9&10 vocab,comprehension questions and role play
3回目 Scene 3&4 vocabulary study	11回目 9&10 Continued
4回目 Scenes 3&4 comprehension questions and role play	12回目 9&10 Continued
5回目 Movie viewing Scenes 5&6 vocabulary study	13回目 Vocabulary quiz #2
6回目 Comprehension questions and role play	14回目 Review for Final
7回目 Vocabulary quiz	15回目 Final Test
8回目 Scenes 7&8 vocab,comprehension questions and role play	

◆教科書 No text will be required. Students will be provided with handouts. Students are expected to bring a folder to keep handouts.

◆参考書 Students are expected to bring a notebook, dictionary and a folder for notes.

◆成績評価基準 Grades will be based on attendance, class activities, participation and a final written exam.

◆授業相談 (連絡先):

◆アクター・パワー・NGO を学ぶ

[国際政治学]

火曜日 3 時限

開講単位 2 単位

担当者: 大八木 時広

◆学修到達目標 國際政治にどのようなアクターがあるか, どのような活動が行われているか理解し, 説明できる。またパワーとは何か, とくにソフトパワーが現代世界の中でどのように働いているか理解する。さらに NGO (あるいは市民社会) という視点から現代世界を考えられるようになる。NGO にどのような活動が行われているか理解し, 説明できる。

◆授業方法 講義形式で行なう。テキストの記述・図表を参照しつつ, 講義を進める。必要に応じて授業プリントを配布し, 補足資料として用いる。

◆準備学修 講義前にテキストの該当部分などを読み, 予備知識を身につけておくことが望ましい。その際, 疑問点や不明な点をあらかじめピックアップしておくことも望ましい。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 ガイダンス	9回目 NGO と国連 (2) ~国連における NGO の主な活動~
2回目 現代国際政治の基本的特徴	10回目 NGO と人権 (1) ~人権問題における NGO ~
3回目 アクターとは何か～アクター概論	11回目 NGO と人権 (2) ~主な人権 NGO の活動~
4回目 パワーとは何か (1) ~軍事力と経済力~	12回目 NGO と環境問題 (1) ~主な環境 NGO ~
5回目 パワーとは何か (2) ~ソフトパワー~	13回目 NGO と環境問題 (2) ~環境 NGO の活動~
6回目 国際機関とは何か～4つの類型	14回目 NGO と難民支援 (1) ~難民問題における NGO ~
7回目 国際機関の活動	15回目 NGO と難民支援 (2) ~難民支援 NGO の活動~
8回目 NGO と国連 (1) ~国連はなぜ NGO を必要とするか~	

◆教科書 通材『国際政治論』R32700／国際政治学 L30200／国際政治学概論 S33200』
通信教育教材 (教材コード 000501) 2,900 円 (送料込)
(この教材は市販の『国際関係論』佐渡友哲 信夫隆司 共編 (弘文堂) と同一です)

◆参考書 使用しない。

◆成績評価基準 平常点 (20%) レポート (20%) 試験 (60%)。毎回出席が前提となります。

◆授業相談 (連絡先):

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆英文学の特質を知る

〔英米文学概説〕

火曜日 3 時限

開講単位 2 単位 担当者：猪野 恵也

◆学修到達目標 作家や作品の特質、著名な英文学者の名前など英文学の概観を知る。

◆授業方法 レジュメを配布しそれらを読み上げていく。

◆準備学修 英文学史の本を読んでおいて欲しい。

◆履修条件 平成 28 年度メディア授業（前期）「英米文学概説」との積み重ね不可

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 アングロ・サクソン文学	9 回目 リアリズムの精神と小説の降盛 (1) 産業革命とヴィクトリア朝文化 Austen から Bronte 姉妹まで
2 回目 初期のキリスト教文学と Chaucer の世界	10 回目 (2) George Eliot から Hardy まで
3 回目 Shakespeare の世界	11 回目 美の追求と自然主義・社会主義の文学・第一次大戦後まで
4 回目 英文学における宗教と文学 -Milton と Bunyan	12 回目 20 世紀の文学の課題・自然・政治的信条・信仰、福祉社会
5 回目 散文文学の発達 -Defoe と Swift	13 回目 まとめ
6 回目 英国の詩 - 形而上派・古典主義	14 回目 まとめ
7 回目 人間的関心 (1) 常識とユーモア Dr. Jonson, Goldsmith,	15 回目 試験
8 回目 人間的関心 (2)	

◆教科書 〔当日資料配布〕当日プリント配布。

◆参考書 授業中指示する。

◆成績評価基準 授業への取り組み・テストにより総合的に評価します。

◆授業相談（連絡先）：

◆現代マーケティングの捉え方

〔マーケティング〕

火曜日 3 時限

開講単位 2 単位 担当者：佐藤 稔

◆学修到達目標 マネジリアル・マーケティングと称される現代マーケティングの考え方について体系的に理解する。

◆授業方法 テキスト及び配布資料に基づく講義形式。

◆準備学修 テキストを熟読すること。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 マーケティングの生成	9 回目 生産財・農産物のマーケティング
2 回目 マーケティング概念の変遷	10 回目 流通機関のマーケティング特性
3 回目 マネジリアル・マーケティングの特性	11 回目 エリア及びグローバル・マーケティング
4 回目 マーケティング理念	12 回目 マーケティング情報の役割、収集、方法
5 回目 マーケティング戦略の意味	13 回目 販売予測の方法
6 回目 マーケティング戦略の展開	14 回目 基本的製品計画－新製品開発
7 回目 社会志向的マーケティング	15 回目 副次的製品計画－包装、商標
8 回目 サービス業のマーケティング	

◆教科書 〔当日資料配布〕当日資料配布。

通材『マーケティング S30500』 通信教育教材（教材コード 000182） 2,250 円（送料込）

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 授業への参加及び最終試験による総合的評価。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆金融の基礎を学ぶ

〔金融論〕

火曜日 3 時限

開講単位 2 単位

担当者：谷川 孝美

◆**学修到達目標** この講義では、日々利用している貨幣とは何か、また金利とは何かなど、金融に関する基本的な事柄や、銀行などの金融機関を含めた日本の金融システムについて、その歴史や基礎理論を理解し、説明できるようになること、さらに、それらの理解を通じて、現在の経済問題を考える基礎を養うことを目的とします。なお、前期のみの受講、後期のみの受講も可能だが、学修効果をあげるため、前期・後期の連続受講が望ましい。

◆**授業方法** 授業計画にしたがって、パワーポイントを利用した講義形式で行います。講義では、基本的な事柄を中心に、全体的かつ平易な解説をする予定です。講義の進行状況によっては授業計画が前後することもあります。また、経済学概論を履修しておくことがぞましいでしょう。なお、この講義では中央銀行、金融政策の詳細は取り扱いません。また、東京スクーリング（5月期）受講者は同一内容となるので受講不可とします。

◆**準備学修** 金融理論を理解するためには、経済学の基礎が重要になります。受講前準備として、マクロ経済学、ミクロ経済学の基本的な事柄を確認しておきましょう。また、理解を深めるためにも、授業計画にあるトピックスなどを参考書等で事前に調べることも大切です。

◆**履修条件** 平成 28 年度東京スクーリング（5月期）第 1 期「金融論」との積み重ね不可。

◆**授業計画（各 90 分）**

1回目 ガイダンス	9回目 情報の非対称性問題とは何か
2回目 貨幣の歴史	10回目 金融機関と情報の非対称性問題
3回目 貨幣とは何か、その定義を考える	11回目 資金循環からわが国の金融制度を考える
4回目 金利の種類を考える	12回目 日本の金融システムの歴史－競争制限時代
5回目 実質金利、名目金利を知る	13回目 日本の金融システムの歴史－金融の自由化
6回目 現在割引価値とは何か	14回目 日本の金融システムの歴史－日本版ビッグバン
7回目 債券価格と金利の関係	15回目 まとめ、試験
8回目 長期金利の決定要因	

◆**教科書** **〔当日資料配布〕** 教科書は使用しない。当日プリント配布

◆**参考書** **丸沼**『はじめて学ぶ金融のしくみ』家森信善 中央経済社 2,592 円（税込）（送料 300 円）
丸沼『日本の金融制度 第 3 版』鹿野嘉昭 東洋経済新報社 4,536 円（税込）（送料 350 円）
丸沼『現代の金融入門【新版】』池尾和人 筑摩書房 928 円（税込）（送料 215 円）

◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提として、最終試験を中心に、レポートや課題の提出、平常点などにより総合的に評価します。

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆英知を磨くのは何のためにか！

【哲学 A】

火曜日 4 時限

開講単位 2 単位 担当者：江川 晃

◆学修到達目標 いったい哲学とは何なのか。イマ・ココを生きていく上で哲学は必要なのか。他の学問とどんな違いがあるのか。そんなことを、歴史をさかのぼって一緒に考えてみましょう。この講義の目標は、考えることを学ぶことです。そして、聰明に生きる力を身につけましょう。

◆授業方法 講義形式で、教科書と配布プリントを中心に、パワーポイント、DVD や板書にて行う。授業終りに感想、質問等を書いていただき、次回はコメントし、対話・討論しましょう。

◆準備学修 教科書等に書いてあることを覚えるのではなく、考えたことを書く習慣を意識しよう。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 ガイダンス：哲学とは	9回目 科学革命
2回目 ギリシャの自然哲学	10回目 デカルトの自我
3回目 多元論と原子論	11回目 デカルトの心身問題
4回目 ソクラテスの対話	12回目 ベーコンの経験論
5回目 ソクラテスの死の意味	13回目 カントの理性批判
6回目 プラトンのイデア	14回目 ヘーゲルの弁証法
7回目 アリストテレスの存在論	15回目 まとめ・試験
8回目 中世哲学（信仰と理性）	

◆教科書 **【当日資料配布】**プリント配布。

通材『哲学 B10700』 通信教育教材（教材コード 000404） 3,350 円（送料込）
〈この教材は市販の『西洋思想の要諦周覧』嘉吉純夫・齋藤隆編著（北樹出版）と同一です〉

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 課題（20%）、試験（80%）、毎回出席を前提として総合的に評価します。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆目標に向かってみんなで一緒にトレーニングしましょう [TOEIC A]

火曜日 4 時限

開講単位 1 単位 担当者:八木 茂那子

◆学修到達目標 本講座は入学して初めて TOEIC Test を受検しようとしている人、あるいは 1.2 度受けたことがあります、更にスコアアップを目指そうとする人など主に入門レベルにある人を対象とし、TOEIC テスト 500 点突破を目標に効果的な英語学習をするための基本的トレーニング方法を体得することと学習の習慣化を確立することを目標とします。前期のみの受講も可能ですが、学修効果を上げるため、前期。後期の連続受講が望ましい。

◆授業方法 授業では 1 UNIT を 2 回に分け、Listening Part, と Reading Part の演習を交互に行い、Listening, Speaking, Reading, Writing の four skills を満遍なく取り込みながら楽しくトレーニングしていく予定です。受講者のレベルや理解度、進度に応じ授業内容を変更する場合があります。

◆準備学修 家庭学習として指定された問題を時間を計って 2 回解いて来る事；一回目は時間を計り、参照物なしで、2 回目はペンの色を変え、オープンブック、(辞書、文法書、など参照物を参照しながら、解いてきて下さい。授業中に 3 回目を解くことになります。(このように同じ問題を繰り返し解くことにより、学習内容の定着が図ります。)

◆授業計画【各 90 分】

1回目 ガイダンス 学習目標設定 Pre-test	9回目 Unit 4 ニュース報道フレーズリーディング (1) Listening Practice
2回目 Unit 1 提案-時制 1 (1) Listening Practice	10回目 Unit 4 ニュース報道フレーズリーディング (2) Reading Practice
3回目 Unit 1 提案-時制 1 (2) Reading Practice	11回目 Unit 5 義務一代名詞 (1) Listening Practice
4回目 Unit 2 確認-時制 2 (1) Listening Practice	12回目 Unit 5 義務一代名詞 (2) Reading Practice
5回目 Unit 2 確認-時制 2 (2) Reading Practice	13回目 Unit 6 理由一前置詞 (1) Listening Practice
6回目 Unit 3 会話を始める -助動詞 (1) Listening Practice	14回目 Unit 6 理由一前置詞 (2) Reading Practice
7回目 Unit 3 会話を始める -助動詞 (2) Reading Practice	15回目 まとめ
8回目 Review test (1)	

◆教科書 丸沼『THE TOEIC TEST TRAINER TARGET 650』 Revised Edition ISBN 9784863122741
Masahiko Yamaguchi 他 センゲージラーニング 2,160 円 (税込) (送料 300 円)

◆参考書 丸沼『TOEIC 新公式問題集 Vol. 6』 TOEIC 運営委員会 3,024 円 (税込) (送料 350 円)

◆成績評価基準 筆記試験 50%+平常点 (提出物、小テスト、発表、Oral Test 他) 50%による総合評価
評価 (受講者のレベルにより調整を加えることがあります。)

◆授業相談 (連絡先) :

◆債権総論（前半）

〔民法Ⅲ〕

火曜日 4 時限

オープン受講：不可 開講単位 2 単位 担当者：根本 晋一

◆学修到達目標 民法学における債権法と債権総論の位置づけ、債権総論の意義と体系、主要な論点を理解することを目指とする。なお、前期・後期の順番で続けて受講することが望ましい。

◆授業方法 1 受講者数が多いので、担当教員がイニシアチブをとる講義形式を採用する。
2 法改正や新判例の追加等により、シラバス（授業計画）どおりに進まないことがあり得る。

◆準備学修 前回講義時における板書事項を、しっかりと読み直してくること。なお、本講義は板書事項が多いことを、ご承知おきいただきたい。

◆授業計画〔各 90 分〕

※民法典の編別、および標準的な基本書の編別に準拠して説明 1回目 をする。 GD、民法の概念・沿革・体系等①	9回目 債権の意義、物権との関係など③
2回目 GD、民法の概念・沿革・体系等②	10回目 債権の発生・債権の目的①
3回目 GD、民法の概念・沿革・体系等③	11回目 債権の発生・債権の目的②
4回目 債権法の体系、総論と各論の関係①	12回目 債権の発生・債権の目的③
5回目 債権法の体系、総論と各論の関係②	13回目 債権の効力①
6回目 債権法の体系、総論と各論の関係③	14回目 債権の効力②
7回目 債権の意義、物権との関係など①	15回目 (前半) まとめ
8回目 債権の意義、物権との関係など②	

◆教科書 指定しない。

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 全回出席を原則として、筆記試験または本講義終了後に提出するレポートの評価点 80%、授業態度 20%

◆授業相談（連絡先）：

◆宮沢賢治とメディアの世界

〔国文学特殊講義Ⅰ・Ⅱ〕

火曜日 4 時限

開講単位 2 単位 担当者：近藤 健史

◆学修到達目標 社会生活におけるメディアの活用や役割を学ぶ。その中で文学とメディアの関わりについて「賢治とメディア」を例として考える。このことが現代社会における「文学とメディア」のあり方を考える手がかりになることを目標とする。

◆授業方法 講義形式だが、テキストを要約して発表もしてもらう。

◆準備学修 社会生活の中のメディアには、どんなものがあるか、どんな役割をしているのか、など考えておいて欲しい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 授業計画の説明	9回目 賢治とメディア「活字」(出版)
2回目 社会とメディア	10回目 賢治とメディア「活字」(新聞)
3回目 メディアと文学	11回目 賢治とメディア「音声」(ラジオ・レコード)
4回目 メディアとしてのマンガ	12回目 賢治とメディア「映像」(映画)
5回目 アニメーションメディア	13回目 賢治アニメ
6回目 メディアと芸術	14回目 賢治とマンガ
7回目 メディアと映像	15回目 まとめ
8回目 宮沢賢治の説明	

◆教科書 丸沼『メディア活用能力とコミュニケーション』大学図書出版 2016年3月 2,376円(税込)
(送料300円)

◆参考書 授業内で紹介する。

◆成績評価基準 リポート試験 80%，平常点 20%

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ Speech Communication 2

〔スピーチコミュニケーションⅡ〕

火曜日 4 時限

オープン受講：不可

開講単位 1 単位

担当者：アレックス ブラウン

◆**学修到達目標** This Course is aimed at improving Communication skills with a focus on speaking and listening. Efforts will be directed at using English in a natural context and to develop fluency.

◆**授業方法** This course syllabus will be topic-based where students will learn vocabulary, language structures and functions commonly used in the various topics. Students will incorporate the language covered by performing group tasks and role plays.

◆**準備学修** Students are expected to bring a notebook, dictionary and a folder for notes.

◆**授業計画** [各 90 分]

1回目 Course Introduction, Ice-breakers.	9回目 Topic 3 : continued.
2回目 Topic 1 : Obligations	10回目 group activities; tasks and role-plays.
3回目 Topic 1 : continued. group activities; tasks and role-plays.	11回目 Topic 4 : The Future.
4回目 Topic 2 : Suggestions	12回目 group activities; relevant vocabulary
5回目 Topic 2 : continued. relevant vocabulary; language structures	13回目 Topic 4 : language structures
6回目 Activity2 and introduction to presentations.	14回目 Preparation for Oral test and Exam
7回目 Presentations-s-Group format	15回目 Speaking test and Written Exam
8回目 Topic 3 : Conditionals	

◆**教科書** No text will be required. Students will be provided with handouts.

◆**参考書** None.

◆**成績評価基準** Grades will be based on attendance, a final exam and a speaking test.
Students will be graded on their efforts given during their time in the course.

◆**授業相談（連絡先）：**

◆奈良時代の政治と神祇信仰について

〔日本史特講 I〕

火曜日 4 時限

開講単位 2 単位

担当者：八馬 朱代

◆**学修到達目標** 奈良時代の天皇の皇位継承問題と神祇信仰との関わりについて解説します。特に、奈良時代の政治と深く関わりのある宇佐八幡宮を取り上げ、奈良時代の大仏造立や宇佐八幡神託事件などについて説明します。奈良時代の政治と宗教の関わりを理解し、律令国家における神祇の果たした役割について説明できることを目標とします。前期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるため、前期・後期の連続受講が望ましい。

◆**授業方法** 配布したプリントを使用して講義を行います。適宜、授業内で史料を読むので、史料の読み方を学んでもらいたい。また、授業で参考文献や史料を紹介するので、各自、図書館で手にとってみると心がけてください。

◆**準備学修** 『日本の歴史』や『日本の時代史』など概説書を事前に読んで、奈良時代の政治情勢や人物について理解を深めておくようにしてください。

◆**授業計画** [各 90 分]

1回目 八幡神とは何か	9回目 聖武天皇後の皇位継承問題
2回目 宇佐地方の特色	10回目 称徳天皇の即位
3回目 隼人の乱と藤原広嗣の乱	11回目 宇佐八幡神託事件について
4回目 奈良時代前期の対外関係	12回目 宇佐八幡神託事件後の八幡信仰
5回目 八幡神と対外関係	13回目 薬子の変について
6回目 聖武天皇の即位について	14回目 皇位継承と八幡神
7回目 大仏造立と八幡神（1）	15回目 まとめ
8回目 大仏造立と八幡神（2）	

◆**教科書** [当日資料配布] 当日、プリントを配布します。

◆**参考書** 授業中、適宜紹介します。

◆**成績評価基準** 最終試験 70% 平常点・小テスト 30% ※毎回出席することを前提として、総合的に評価します。

◆**授業相談（連絡先）：**

◆世界の友だち、その2

★★☆ [英語 B] (中級)

火曜日 5 時限

開講単位 1 単位 担当者：飯野 朝世

◆学修到達目標 ① 英語圏の国々や人々についての話題に关心をもち、リーディングを通して意味を理解できるようになる。
② 発信型アクティヴィティに参加し、英文を自然な抑揚とスピードで読むことができ、積極的に発言できるようになる。
※ 1 ガイダンスに必ず出席すること。
※ 2 最後まで授業に参加すること。(欠席が多い場合や、受験を目的とした場合には、上記目標は習得しにくいと思われます。)
※ 3 前期・後期続けて受講することが望ましい。

◆授業方法 ①テキスト課題やリーディングを通して英語圏各地についての理解を深めます。②DVDを見聞きして英語の聞き取り力をつけていきます。③各ユニットを2回に亘って学修を進めます：各一回目はテキスト課題と、英語字幕スクリプトのリーディング練習や、聞き取りテストをします。スクリプトリーディングではQ&Aにより内容理解を促します。各二回目はDVDを用いてスクリーン字幕を同スピードで読むミニテストを行います。

◆準備学修 ① 授業前に必ず Self-Study 用の DVD を何度も見て、英語の音や抑揚に慣れておいて下さい。
② 授業中は作業に集中できるよう、わからない単語や表現を前もって調べておいてください。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 ガイダンス	9回目 Unit 4 Australia (Documentary)
2回目 Unit 1 New York (Introduction)	10回目 Unit 5 Northern Ireland (Intro.)
3回目 Unit 1 New York (Introduction)	11回目 Unit 5 Northern Ireland (Intro.)
4回目 Unit 2 New York (Documentary)	12回目 Unit 6 Northern Ireland (Doc.)
5回目 Unit 2 New York (Documentary)	13回目 Unit 6 Northern Ireland (Doc.)
6回目 Unit 3 Australia (Introduction)	14回目 期末テスト (1) (Unit 7)
7回目 Unit 3 Australia (Introduction)	15回目 期末テスト (2)
8回目 Unit 4 Australia (Documentary)	

◆教科書 丸沼『World Wide English on DVD』, Volume 2 森田彰 山本由布子 他著 成美堂 2,700 円 (税込)
(送料 300 円) (Self-Study DVD 付)

【当日資料配布】各ユニットのスクリプト（聞き取りテストを含む）は、該当日当日に配布します。

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 ①期末テスト:50%, ②ミニテスト:20%, ③平常点（発表などの授業参加度、授業態度、積極性など）:30%, ④その他：遅刻、早退、テキストなし、私語、居眠りなどは減点します。①～④により総合的に評価します。

【注】授業数の2/3以上出席した場合に単位を認定します。5回欠席すると単位は認定しません。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆漢字に頼らないリスニング力

〔中国語Ⅰ・Ⅱ〕

火曜日 5 時限

開講単位 1 単位 担当者：稻葉 明子

◆**学修到達目標** 漢字の意味がわかることは大きな強みでもあります。初期の関門を越えるためには足枷になります。対面式授業の利点を発揮して中国語の発音を完全に理解し、漢字に頼らない中国語吸収の素地を作ります。語順・時量・アスペクト等、中国語特有の独特的な世界観を、実際の場面から把握し、文法的理解へ繋げていきます。

◆**授業方法** 冒頭 5 回で発音体系を機械的に把握し、教科書本文に入ってからは新出単語を用いて大量の発音練習をすることによって、漢字を見ても日本語の音読み訓読みではなく中国語の音がでてくるまでもっていきます。発音体系と、中国語音声による発想は必須ですので、先入観をもたず、柔軟な姿勢で臨んでください。各課本文と文法体系の把握も、毎回学習者自らの耳で探る展開で行い、自立的な言語習得に繋げます。

◆**準備学修** ある程度の基礎ができるまでは、敢えて予習はせず、指示通りの復習を必ず行ってください。教科書本文に入ってからは、毎回教科書本文についてディクテーション小テストを行います。この対策を毎回こなすことで、着実に実力がついていきます。教材音声に手軽に親しめる工夫をしてください。(付属 CD をプレーヤーに取り込む、HP をお気に入りに登録する、など。)

◆**授業計画**〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス・発音1（声調）	9回目 第2課2
2回目 発音2（単母音）	10回目 第3課1動詞述語文・連動文
3回目 発音3（子音1）	11回目 第3課2
4回目 発音4（子音2・総合）	12回目 第4課1形容詞述語文
5回目 プレ第1課：発音総合	13回目 第4課2
6回目 第1課1人称代名詞・挨拶	14回目 まとめ
7回目 第1課2動詞「是」	15回目 教場試験
8回目 第2課1助詞「的」・疑問詞	

◆**教科書** 因沼『初級テキスト 日中のぶくみ広場』相原茂・陳淑梅・飯田敦子 朝日出版 2,700 円（税込）
(送料 300 円)

◆**参考書** WEB 上に様々なトレーニング用コンテンツを UP します。音声を用いた復習が必要になります。

◆**成績評価基準** 授業への取り組み、小テストなどにより総合的に評価します。試験は、リスニングが中心となります。受講前に予想できる内容ではなく、柔軟な発想が必要ですが、指示通りに取り組めば、難しいものではありません。

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆科学の誕生・発展を哲学する

〔科学哲学〕

火曜日 5 時限

開講単位 2 単位 担当者：江川 晃

◆学修到達目標 「科学とは何か」という問いに答えるには、歴史的・哲学的・社会的観点からのアプローチが必要である。科学の成立は、近代ヨーロッパに生じた「科学革命」と呼ばれる歴史的出来事である。そこで、前期は、科学の誕生・発展を明らかにするために、科学革命のプロセスをたどる「科学史」の知見を得ることを目標とする。

◆授業方法 講義、小レポート、発表、討論しながら、ダイナミックに行こう。

◆準備学修 教科書の第1部を熟読すること。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス「科学哲学とは何か」	9回目 天と地の統一 ニュートン
2回目 1章 「科学」という言葉	10回目 5章 科学革命3 デカルト
3回目 2章 アリストテレス的自然観	11回目 心身問題と「心の哲学」
4回目 古代ギリシャのセントラル・ドグマ	12回目 討論
5回目 討論	13回目 6章 科学の制度化 科学と大学
6回目 3章 科学革命1 コペルニクス	14回目 第二次科学革命
7回目 円の魔力 ケプラー	15回目 討論とレポート提出
8回目 4章 科学革命2 ガリレオ	

◆教科書 〔丸沼〕『科学哲学への招待』野家啓一著（ちくま学芸文庫）筑摩書房 2015年 1,188円（税込）
(送料 215円)

◆参考書 指定しない。

◆成績評価基準 平常点・課題（50%）レポート（50%）、毎回出席を前提として評価します。

◆授業相談（連絡先）：

◆アジアと日本—アジア主義を考える—

〔東洋史演習Ⅰ・Ⅱ〕

火曜日 5 時限

開講単位 1 単位 担当者：高綱 博文

◆学修到達目標 テキスト・中島岳志『アジア主義—その先の近代へ』を講読しながら、近代におけるアジアと日本の関係を考えながら、今後日本はアジアにおいてどのように生きていくべきかを模索する。なお、前期・後期続けて受講することが望ましい。

◆授業方法 テキストを講読しながら、受講生による研究発表と討論を中心としたゼミナール形式で行います。

◆準備学修 予めテキスト史料を学習し講読の準備を行う。また研究発表のために参考文献や史料を調べて準備する。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス	9回目 テキスト講読・報告・討論（5）
2回目 近代日本とアジア（講義）	10回目 テキスト講読・報告・討論（6）
3回目 史料検索の方法等	11回目 テキスト講読・報告・討論（7）
4回目 文理学部図書館見学	12回目 テキスト講読・報告・討論（8）
5回目 テキスト講読・報告・討論（1）	13回目 テキスト講読・報告・討論（9）
6回目 テキスト講読・報告・討論（2）	14回目 テキスト講読・報告・討論（10）
7回目 テキスト講読・報告・討論（3）	15回目 まとめ
8回目 テキスト講読・報告・討論（4）	

◆教科書 〔丸沼〕『アジア主義—その先の近代へ』中島岳志 潮出版社 2,052円（税込）（送料 300円）

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 講読・発表（60%）、平常点（20%）、リポート（20%）。毎回出席することを前提として評価します。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ミクロ経済学

〔経済学〕

水曜日 1 時限

開講単位 2 単位 担当者：田村 和彦

◆学修到達目標 経済問題についての理解力と思考力を向上させるため。

◆授業方法 講義方式。

◆準備学修 教科書を読んで十分に予習をすること。

◆履修条件 平成 28 年度東京スクーリング（10 月期）「経済学」との積み重ね不可

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 経済学の定義	9回目 無差別曲線
2回目 希少性の法則と経済行為	10回目 消費性向・貯蓄性向・可処分所得
3回目 経済学の研究手続き	11回目 生産の3要素 生産函数
4回目 資本主義経済	12回目 生産費 平均費用と限界費用
5回目 社会主義経済	13回目 生産要素の最適結合
6回目 現代資本主義、経済のあり方について	14回目 企業の最大利潤の追求と個別供給曲線
7回目 消費者の経済行動 財の効用	15回目 まとめ
8回目 限界効用と総効用 限界効用通減の法則	

◆教科書 通材『経済学 B11800』通信教育教材（教材コード 000450）1,950 円（送料込）
丸沼『経済学』瀬川浩・田村和彦編著 桜門書房 3,024 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 最終筆記試験。

◆授業相談（連絡先）：

◆会社法の基礎から学ぶ

〔商法 II〕

水曜日 1 時限

開講単位 2 単位 担当者：大久保 拓也

◆学修到達目標 この講義では、現代社会で重要な役割を果たしている会社、特に株式会社に関する法知識の習得を目的とします。会社法は、平成 26 年に重要な改正がなされました（平成 27 年 5 月 1 日施行）。実社会に与える影響も大きいため、会社に関する法規制を基本から理解を目的とした講義を行います。会社の概要、株式会社の資金調達、株式会社の機関構造（前半）等を扱います。前期・後期の連続受講が望まれます。

◆授業方法 講義形式で行います。講義は、会社法制度の全体構造を理解し、会社法上の基本問題について、法的に解答できる論理的思考力の習得を目的とします。会社法は複雑な規律が多いので、それを理解できるように継続的に講義に出席することが求められます。また、漫然と授業に出席するだけでは知識が身につかないで、講義時に何度も小テストを行い理解度をチェックすることも予定します。そのため、予習・復習も必須となります。

◆準備学修 指摘の教科書を熟読し、予習を欠かさないことが必要です。会社法は、経済活動に密接に結びついた法分野ですから、常に新しい経済の仕組みを理解していくなければなりません。そのための最適の方法は、日刊新聞（日経新聞等）を読むことです。最近ではどのような経済問題があるのか、どのような新しい企業組織形態が誕生したのか、等について問題意識をもって毎日欠かさず読むことが必要です。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス 会社の意義と会社法の目的	9回目 株式会社の資金調達 6：自己株式
2回目 会社の能力	10回目 株式会社の資金調達 7：株式の分割、併合等
3回目 会社の法人格、法人格否認の法理、株式と有限責任	11回目 株式会社の資金調達 8：社債の概要
4回目 株式会社の資金調達 1：株主平等の原則とその例外	12回目 株式会社の機関構造 1：機関総論、株主総会運営の手続
5回目 株式会社の資金調達 2：種類株式	13回目 株式会社の機関構造 2：説明義務、株主提案権
6回目 株式会社の資金調達 3：新株発行の手続	14回目 株式会社の機関構造 3：株主総会決議の瑕疵
7回目 株式会社の資金調達 4：新株発行の差止め、無効、不存在	15回目 講義のまとめ
8回目 株式会社の資金調達 5：株式譲渡	

◆教科書 丸沼『会社法講義 30 講』松嶋隆弘編著 中央経済社 2015 年 4 月 3,780 円（税込）（送料 350 円）
六法（最新版（2016（平成 28）年版））

◆参考書 丸沼『会社法判例百選（第 2 版）』江頭憲治郎ほか編 有斐閣 2011 年 2,344 円（税込）（送料 300 円）

◆成績評価基準 ①平常点（授業中に行う「小テスト」も含みます）（20%）、②授業中にふれた重要な事項から出題する「試験」（80%）。毎回出席することを前提として評価します。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆通信教育部での自主創造の基礎 I

〔総合科目 I ~VI〕

水曜日 2 時限

開講単位 2 単位 担当者：鍋本 由徳

◆学修到達目標 大学での「学修」は自発的な姿勢が重要です。授業への参加, テキストの読み方, ノートの取り方, リポートの書き方, 資料収集と活用の仕方, 議論の仕方, 発表の仕方などの基礎を理解します。大学の学修で必要な技術を学び, 「自主創造」を実現する能力の向上をめざします。

◆授業方法 講義, 個々人の事前学修, グループワークの併用です。はじめの数回は講義形式となります。事前に与えられた課題について自宅で予習し, それをもとにして, 簡単なグループ作業をおこないます。

◆準備学修 授業は予習された課題をもとに展開します。与えられた課題について必ず予習してください。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 スタートアップ	9回目 コミュニケーションをはかる
2回目 大学で学ぶとは—日本大学—	10回目 プレゼンテーションの方法
3回目 大学で学ぶとは—通信教育部—	11回目 プレゼンテーションの実践練習
4回目 大学での学修の方法	12回目 グループワーク —テーマ決定・討論—
5回目 図書館を利用する	13回目 グループワーク —討論の整理—
6回目 情報の収集と整理	14回目 グループワーク —成果の発表—
7回目 論理的文章を書く前提	15回目 能力向上をめざして—自己評価—
8回目 レポートを作成してみる	

◆教科書 〔当日資料配布〕 課題は適宜配布します。

◆参考書 必要に応じて紹介します。

◆成績評価基準 最終リポート (40%), 授業内グループワーク参加度 (40%), 理解度チェック (20%) の総合評価
※全回出席を前提とします。

◆授業相談 (連絡先) :

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆理解言語「読む、聞く」をしっかり勉強しよう ★★☆ [英語 C] (中級)

水曜日 2 時限

開講単位 1 単位 担当者: 森 晴代

◆学修到達目標 英語の 4 技能のうち、理解言語である「読む、聞く」を繰り返し練習することにより、英語そのものに慣れ、直聴直解を目指します。表現言語である「話せる、書ける」は、理解言語を相当有していることが前提となります。具体的にはネイティヴスピーカーが日常使用する 5000 語を身につける、1 分間に 150 語の音読及び内容把握を目標とします。また、前期のみの受講、後期のみの受講も可能ですが、学修効果を上げるため、前期・後期の連続受講が望ましいです。

◆授業方法 2 回の授業で 1 unit 進めます。本文のリスニング、和訳、内容のディスカッション、質疑応答、音読（オーバーラッピング、シャドーイング）をグループワークを取り入れて行います。グループはクラスの人数により変更しますが 4 ~ 6 名で 1 グループを予定しています。辞典は必ず毎回持参してください。小テストは各 unit 終了時にその unit の書き取り、もしくはパッセージの要約のいずれかを行います。

◆準備学修 必ず予習してきてください。専用のノートをご準備ください。自分がどの部分でつまづいているのかを把握してから授業に臨むと理解しやすくなります。1 日に少しの時間でよいので音読練習、リスニング練習を行ってください。難しいスペルの単語は練習しておきましょう。

◆授業計画 [各 90 分]

1 回目	リスニングと音読の関係性の説明 Unit 1 : Half-Empty or Half-Full? 内容に関するディスカッション 単語の意味及び発音練習	Unit 4 の補足 小テスト Unit 5 : Burger King moves to Canada 内容に関するディスカッション 単語の意味及び発音練習
2 回目	Unit 1 : Half-Empty or Half-Full? リスニング及び要約 質疑応答 オーバーラッピング シャドーイング	Unit 5 : Burger King moves to Canada リスニング及び要約 質疑応答 オーバーラッピング シャドーイング
3 回目	Unit 1 の補足 小テスト Unit 2 : Teaching Warriors not to Hunt Lion 内容に関するディスカッション 単語の意味及び発音練習	Unit 5 の補足 小テスト Unit 6 : American High Schoolers Study in China 内容に関するディスカッション 単語の意味及び発音練習
4 回目	Unit 2 : Teaching Warriors not to Hunt Lion リスニング 及び要約 質疑応答 オーバーラッピング シャドーイング	Unit 6 : American High Schoolers Study in China リスニング及び要約 質疑応答 オーバーラッピング シャドーイング
5 回目	Unit 2 の補足 小テスト Unit 3 : Staying Safe Online 内容に関するディスカッション 単語の意味及び発音練習	Unit 6 の補足 小テスト Unit 7 : Making New Energy 内容に関するディスカッション 単語の意味及び発音練習
6 回目	Unit 3 : Staying Safe Online リスニング及び要約 質疑応答 オーバーラッピング シャドーイング	Unit 7 : Making New Energy リスニング及び要約 質疑応答 オーバーラッピング シャドーイング
7 回目	Unit 3 の補足 小テスト Unit 4 : How to Prevent the Flu 内容に関するディスカッション 単語の意味及び発音練習	Unit 7 の補足 小テスト 前期授業のまとめ
8 回目	Unit 4 : How to Prevent the Flu リスニング及び要約 質疑応答 オーバーラッピング シャドーイング	

◆教科書 丸沼『CNN Student News (4)』 関戸冬彦他 4 名著 朝日出版社 2,052 円 (税込) (送料 300 円)

◆参考書 授業中に紹介します。

◆成績評価基準 平常点 (20%) 小テスト (20%) 音読発表 (10%) 試験 (50%) 毎回出席することを前提として評価します。

◆授業相談 (連絡先) :

◆憲法を考える

[憲法]

水曜日 2 時限

オープン受講：不可 開講単位 2 単位 担当者：名雪 健二

◆学修到達目標 憲法は、国家の在り方を規定した基本法である。したがって、憲法を知ることは、われわれが国家生活をしていく上で極めて重要である。

憲法を学ぶことで、憲法とは何かを知ることができ、また、憲法の規範論理的構造を理解することで、現代の複雑な憲法現象を統一的に、かつ、原理的にとらえることができる。

◆授業方法 憲法の解釈論が中心となる。また、生きた憲法を理解するため、判例を取り上げる。そのための資料として、授業に関連する判例を配布する。

◆準備学修 授業計画が 1 回から 15 回まで記載されているので、授業を理解する前提として、教科書をよく読んでおくこと。授業の範囲内における専門用語については、法学（法律学）辞典を引き、その意味を正確に理解しておくこと。

◆授業計画 [各 90 分]

1 回目 ガイダンス、憲法の概念、憲法の分類	9 回目 信教の自由
2 回目 日本国憲法制定の法理、日本国憲法の構造	10 回目 学問の自由
3 回目 憲法の基本原理、天皇	11 回目 表現の自由
4 回目 天皇、人権総論	12 回目 表現の自由、経済的自由
5 回目 人権総論	13 回目 経済的自由、人身の自由
6 回目 人権総論	14 回目 社会権
7 回目 法の下の平等	15 回目 国務請求権、参政権、前期の総括
8 回目 法の下の平等、思想および良心の自由	

◆教科書 丸沼『日本国憲法』名雪健二 有信堂 3,780 円（税込）（送料 350 円）

◆参考書 丸沼『3訂日本国憲法論』廣田健次 南窓社 3,497 円（税込）（送料 350 円）

丸沼『ゼミナール憲法増補』名雪健二 南窓社 3,456 円（税込）（送料 350 円）

◆成績評価基準 授業態度・小テスト（2 回）・スクーリングの最終試験により総合的に判断する。

◆授業相談（連絡先）：

◆考古学を基礎から学びましょう

[考古学入門]

水曜日 2 時限

開講単位 2 単位 担当者：野中 和夫

◆学修到達目標 考古学の基礎を学びます。「考古学」とはどのような学問か。遺物・遺構・遺跡の概念はどのようなものか。また考古資料を用いて時間・機能・空間などをどのように特定しているのか。さらに各時代の人々の動向や文化の形成などを理解できることを目標とします。歴史学や民俗学など関連する学問との相違についても学びます。

◆授業方法 講義形式で行います。講義においてはプリントを用い、受講生が考古学について関心を高めるために、博物館情報や話題の遺跡を適宜取上げ解説します。また、基本的な用語や概念について、研究史を交えてわかり易く説明します。

◆準備学修 ノート・配布プリント・参考書などでよく復習して下さい。講義内で遺物や遺跡等の実物資料を見る機会がないので、各自、遺跡や博物館を訪れ、感想や調べたことをレポートにし、提出して下さい。

◆授業計画 [各 90 分]

1 回目 考古学の定義と関連学問	9 回目 遺跡の見方（1）
2 回目 考古学研究の諸段階	10 回目 遺跡の見方（2）
3 回目 歴史を考える資料	11 回目 分布論
4 回目 存在・材質による考古資料の分類	12 回目 年代決定論（1）
5 回目 機能論	13 回目 年代決定論（2）
6 回目 考古資料の限界と価値	14 回目 考古学データの数量的研究
7 回目 形式論	15 回目 日本考古学の現状
8 回目 層位学	

◆教科書 [当日資料配布] 当日プリント配布。

通材『考古学入門 Q20400』通信教育教材（教材コード 000509）2,900 円（送料込）

〈この教材は市販の『考古学入門』鈴木公雄著（東京大学出版会）と同一です〉

◆参考書 適宜、紹介します。

◆成績評価基準 平常点（15%）、レポート（25%）、定期試験（60%）

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆広告の基本的機能と役割を理解する**(広告論)****水曜日 2 時限****開講単位 2 単位 担当者：雨宮 史卓**

◆**学修到達目標** 広告及び宣伝、PR、プロモーション等の意義を理解し、マーケティング戦略の中でいかにこれらが機能しているかを学ぶ。また、広告戦略についても考察し、広告が様々な企業組織や生活者の間に存在するコミュニケーション活動であることを理解する。

◆**授業方法** ターム前半はテキストに沿いながら広告の基本機能を解説し、後半は必要に応じて資料を配布して企業の広告戦略を解説する。また、各授業の後半で、その日の主要なテーマに関するアクション・ペーパー（小論文）の提出を求める。

◆**準備学修** 指定したテキスト及び配布資料をよく読んでること。

◆**履修条件** 平成 28 年度夏期スクーリング「広告論」との積み重ね不可。後期との継続受講が望ましい。

◆**授業計画【各 90 分】**

1回目 授業の進め方 広告の定義と種類	9回目 広告会社の役割
2回目 マーケティング戦略の一要素としての広告	10回目 消費者行動と広告
3回目 マーケティング計画と広告	11回目 日常品の広告戦略
4回目 プロモーションにおける広告	12回目 高価格製品の広告戦略
5回目 広告の基本的機能と領域	13回目 広告の文化・社会的要素
6回目 製品・サービスと広告	14回目 前期の総復習
7回目 広告戦略の立案と計画	15回目 テストとその解説
8回目 広告効果の測定	

◆**教科書** 丸沼『ブランド・コミュニケーションと広告』雨宮史卓 八千代出版 1,620 円（税込）（送料 300 円）

【当日資料配布】必要に応じて当日、資料を配布する。

◆**参考書** なし。

◆**成績評価基準** テスト (40%)、小論文 (40%)、平常点 (20%) 授業の取り組み、小論文、テストにより総合的に評価します。

◆**授業相談（連絡先）：**

◆法の歴史を探求しよう

〔法学 B〕

水曜日 3 時限

開講単位 2 単位 担当者：武田 茂樹

◆学修到達目標 法という言葉やイメージは、社会の至る所に溢れているのですが、その学問的な意味は分かりにくいものです。しかし、昨年、憲法違反の疑いのある安保法案が強行採決されるなど、法は私たちの生活に非常に身近で大切な問題となっています。この講義では、前期に法の歴史を通して法の意義や役割を考えます。後期に、憲法、刑法、民法、商法、民事訴訟法、刑事訴訟法という主要六法を具体的・機能的に学ぶことにより、現代の法の実際的な機能を考察します。前期・後期のいずれかの受講も可能ですが、法の理解を十分に深めるために、前期・後期の連続した受講を学生諸君に希望します。

◆授業方法 基本的に講義を中心に授業を進めますが、学生諸君の疑問点になるべく答えるように、質疑応答を積極的に行いたいと思います。前期の法の歴史の考察は、多様な学問的視野に基づく学際的・総合的な視点から説明し、法に対する苦手意識をなくし、身近なものとして興味をもっていただくことが目標です。参考文献は講義の過程で紹介する予定です。

◆準備学修 前期は、法の歴史を学びますので、その理解の前提として、歴史【とくに世界史】の勉強をしておくとわかりやすいと思います。講義の中心課題が立憲主義の歴史となるので、憲法の基本的な本を読んでおくことも良いと思います。歴史は、過去だけでなく現代に至るものですから、興味のある法の現代的問題も、本を読んだり調べて見たりしてください。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目	法とは何かを学問的に考えること。法学の学び方について説明する。	9回目	近代国際法の成立。国内法と国際法の二元論。ヨーロッパの軍事的・経済的霸権とアジア・アフリカ・中南米に植民地支配。
2回目	法の歴史の学び方。古代法の前史としてのハムラビ法典を考える。法と宗教の関係。法はどのようにして分化・独立したのか。	10回目	第一次世界大戦・第二次世界大戦と近代資本主義・近代法体制の危機。第二次世界大戦の終了。現代法の形成。現代国際法の成立。
3回目	古代ローマ法の成立。今日の法の源流である古代ローマ法はどのように成立したか。古代ローマ法の成立要因と成立過程を考える。古代ローマ帝国と古代ローマ法。	11回目	現代法の特色。国内法では、私法・公法・社会法の三元的体系。国際法は、植民地の否定と戦争違法論に基づく国連中心の国際協調主義の形成。
4回目	古代ローマ法の特色は何か。古代ローマ法は、近代法とどのように異なるのか。古代法の人的統治と近代法の構造的相違について。	12回目	現代国際社会における日本国憲法の意義について考える。
5回目	中世法の成立。古代ローマ帝国の崩壊と中世キリスト教世界の成立。中世キリスト教的自然法觀。「神法の人定法に対する優位」。	13回目	講義全体を通して、学生諸君の意見や疑問に対する質疑応答をする。
6回目	近代精神の形成。キリスト教的世界觀から近代啓蒙主義へ。近代的自立的人間像の成立と近代法精神の形成。	14回目	法の全体像を考える。
7回目	中世封建社会から近代資本主義社会への社会構造の転換。資本主義経済の成立と近代市民革命。近代市場の成立と近代法の形成。	15回目	講義のまとめ。
8回目	近代法の構造。近代立憲主義の成立。私法・公法の二元的体系。憲法・刑法・民法・商法・民事訴訟法・刑事訴訟法の六法体系の成立。		

◆教科書 なし。

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 毎回出席をすることを前提として、試験他 (80%)、平常点 (20%) で評価します。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆心の働きを科学する

〔心理学 A〕

水曜日 3 時限

開講単位 2 単位

担当者：野村 康治

◆学修到達目標 人間はありのままに世界をとらえ、気をつけてさえすれば重要な情報を見落とさず、大切なことは正確に記憶し、冷静なときは論理的に考えることができる、という生き物ではない。では、人間はどのように外界をとらえ、記憶し、思考しているのか。この授業では人間の基礎的な心の働きに関する知見を学んでいく。こうした知識を習得することで科学的な人間理解を目指す。

◆授業方法 授業は主として講義形式で行う。講義内容を必ずノートにとること。また、授業中に教員から質問をしたり、意見を求めることがある。ただ漫然と授業を聴くのではなく、考えながら聴講し、意見を求められたときは積極的に発言して欲しい。なお、出席は毎回確認する。

◆準備学修 心理学が扱う問題は全て関連している。こうした「話の流れ」というものを重視して授業を行うので、前回授業の内容（ノート）を読み返してから毎回の授業に臨んで欲しい。

◆履修条件 平成 28 年度昼間・土曜スクーリング（前期）水曜 4 限「心理学 B」との積み重ね不可。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 心理学とはどのような学問か	9回目 人間の注意の特性について
2回目 心の働きを支える体のしくみについて	10回目 注意のメカニズムについて
3回目 脳の働きとメカニズムについて	11回目 記憶の過程とメカニズム
4回目 感覚の種類とそのメカニズム	12回目 人間の記憶の特徴について
5回目 刺激と感覚の関係について	13回目 思考の素材、知識について
6回目 人間の知覚の諸特性	14回目 人間の思考の特徴
7回目 物理的世界と知覚世界の関係	15回目 前期まとめ（理解度の確認）
8回目 意味をとらえるということ	

◆教科書 通材『心理学 B12100』 通信教育教材（教材コード 000483） 2,900 円（送料込）
<この教材は市販の『新しい心理学ゼミナール』藤田主一編（福村出版）と同一です>

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 成績は試験結果を重視し、これに平常点（授業時の発言など）を鑑みて総合的に評価する。

◆授業相談（連絡先）：

◆英文の基本構造を理解する

★☆☆〔英語 D〕（初級）

水曜日 3 時限

開講単位 1 単位

担当者：北原 安治

◆学修到達目標 五文型に基づき、英文の構造を把握して初学者でも正しい訳ができるようになることを目標とする。前期・後期の連続受講が望ましい。

◆授業方法 予習段階で英文を 8 行ほどの間隔でノートに写す。その英文の下に S（主語）、V（動詞）などを書いてもらい、訳を付ける。細かく板書するので訳が書き取れないということはない。予習の段階で必ず本文をノートに写していくこと。各色のマーカーなど持ってくると良い。受講者の速度に合わせるので、かならずしも授業計画どおりにはならない。本文のみやり練習問題はやらない。ノート検査は抜き打ちで行うのでかならずノートは書いておく。ノートはルーズリーフでもよいが、必ず書いた分は全てのページを毎回持つて来ておくこと。ノート無きものは単位を与えない。および板書事項を正確にすべて写していないノートは不可とし単位を与えない。第 3 章から始める。

◆準備学修 予習段階で英文を 8 行ほどの間隔でノートに写す。板書のときは英文の下に訳を書くが、ノートの見開きの左のページに英文を写し、右のページに訳をつけても良い。単語を調べてくること。毎回和訳小テストをするので辞書を持ってくること。教科書を毎回持つてくること。教科書を持って来ているか調べる。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 第3章（仮1）の英文構造と和訳	9回目 第3章（仮2）の英文構造と和訳
2回目 第3章（仮1）の英文構造と和訳	10回目 第3章（仮2）の英文構造と和訳
3回目 第3章（仮1）の英文構造と和訳	11回目 第3章（仮2）の英文構造と和訳
4回目 第3章（仮1）の英文構造と和訳	12回目 第3章（仮2）の英文構造と和訳
5回目 第3章（仮1）の英文構造と和訳	13回目 第3章（仮2）の英文構造と和訳
6回目 第3章（仮1）の英文構造と和訳	14回目 第3章（仮2）の英文構造と和訳
7回目 第3章（仮1）の英文構造と和訳	15回目 まとめと試験
8回目 第3章（仮2）の英文構造と和訳	

◆教科書 因沼『Major Countries in the World ～世界の主要国～』小泉弘編、鳳書房
(Tel/Fax (03) 3483-3723) 1,944 円（税込）（送料 350 円）

◆参考書 因沼『ロイヤル英文法』旺文社 1,944 円（税込）（送料 350 円）

この本は講義では使わない。辞書は毎回持つてくること。辞書を持って来ているか検査をする。

◆成績評価基準 試験、実力テストなどの総合評価。皆出席を望む。欠席 1 回で何点か引く。出席点とノート点は加点しない。出席してノートを取るのは当然のことだからである。抜き打ちの実力テストも行う。板書事項を全部書いているかを調べる。ノート検査をして不備の者は不合格。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆日本政治の今を考える（1）

〔政治学特殊講義Ⅰ・Ⅱ〕

水曜日 3 時限

開講単位 2 単位 担当者：秋山 和宏

◆学修到達目標 日本の政治の実態と問題点を理解し、あるべき姿を考える。そのための基本として、本講においては第二次世界大戦後の政治社会の歴史（対外関係を含む）について学ぶ。

◆授業方法 主に講義のかたちで進めるが、質疑応答を交えたものにしたい。

◆準備学修 授業の性格上、第二次世界大戦後の政治と経済の動向を把握するように努める。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス	9回目 高度成長期（3）高度成長の終焉
2回目 第二次世界大戦後の政治社会（概観）	10回目 55年体制（1）成立
3回目 戦後復興と改革期（1）復興と民主的改革	11回目 55年体制（2）実態
4回目 戦後復興と改革期（2）日本国憲法の制定	12回目 55年体制（3）崩壊
5回目 東西冷戦の進展（1）米ソ対立の激化	13回目 55年体制後の政治（1）
6回目 東西冷戦の進展（2）日米安保体制の成立	14回目 55年体制後の政治（2）
7回目 高度成長期（1）高度成長の要因	15回目 日本政治の現状と展望
8回目 高度成長期（2）高度成長と政治	

◆教科書 指定しない。

◆参考書 丸沼『現代政治過程』秋山和宏編著 三和書籍 2,700円（税込）（送料 300円）

◆成績評価基準 試験（70%）とレポート（30%）で評価。

◆授業相談（連絡先）：

◆中世武士の思想

〔日本思想史Ⅰ〕

水曜日 3 時限

開講単位 2 単位 担当者：島田 健太郎

◆学修到達目標 今年度は「武士」の思想について考えていく。彼らは独自の行動原理・倫理観を持っており、それらは現在の私達にも何らかの形で影響を与えています。前期では主に中世の武士の思想を題材としますが、これらを通して中世の人々のものの考え方や、日本の精神文化をより深く考えるための視野を広げることを目標とします。後期は近世を扱いますので、前期と後期の継続履修が望ましいと思います。

◆授業方法 プリントとして配布する原典や史料を中心に、講義形式で行います。原典や史料は古文で書かれていますが、読みがなと現代語訳をつけるので、古文の読み解きに自信がなくても構いません。

◆準備学修 中世の大まかな流れ（どんな人物がいて、どんなことがあったかなど）を事前に把握しておくと授業が聞きやすくなります。また、授業時に自分が参照できるもの（簡単な年表とか事典など）を持参しておくと便利です。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 概説	9回目 鎌倉武士の家訓
2回目 時代背景の概観	10回目 『太平記』における武士（1）
3回目 院政期の武士一兵の道（1）－	11回目 『太平記』における武士（2）
4回目 院政期の武士一兵の道（2）－	12回目 『太平記』における武士（3）
5回目 院政期の武士一兵の道（3）－	13回目 戦国大名の家訓（1）
6回目 院政期の武士一兵の道（4）－	14回目 戦国大名の家訓（2）
7回目 御成敗式目（1）	15回目 まとめ
8回目 御成敗式目（2）	

◆教科書 [当日資料配布] 教科書は使用しません。当日プリントを配布します。

◆参考書 授業中適宜指示します。

◆成績評価基準 試験の成績を基準に、授業への取り組みなどを勘案して評価します。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆自我の目覚めと近代化

〔国文学講義V（近代）〕

水曜日 3 時限

オープン受講：不可 開講単位 2 単位 担当者：永岡 健右

◆学修到達目標 日本の鎖国社会・身分制度下の近世から明治維新を経て西欧から政治制度・社会制度や文芸思潮の流入、さらにはさまざまの文物を受け入れて日本人の自我意識がめばえていきます。その変革の歴史を日本近代文学で学習します。

◆授業方法 テキストが指定されています。そのテキストに沿って講義形式で進めます。テキストの全 15 章中、前期は 6 章までを予定しています。

◆準備学修 テキスト内容は概説的な把握の目的が中心です。従って個別毎に文庫本等を指定しますので、具体的に作品を読むようにして下さい。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 前期授業の進め方	9回目 「小説神髄」の理解
2回目 近代日本文学の概要	10回目 「浮雲」の新しさ
3回目 日本人の自我の目覚めとは？	11回目 「舞姫」の問題点について
4回目 近世と近代の違いとは？	12回目 球友社の作家達
5回目 開花期の文学状況	13回目 横口一葉について
6回目 小新聞と大新聞	14回目 文学界と北村透谷
7回目 自民党権論と政治小説	15回目 まとめ
8回目 啓蒙小説について	

◆教科書 通材『国文学講義V（近代）M30900』通信教育教材（教材コード 000094）2,750 円（送料込）
〈この教材は市販の『現代日本文学のながれ』金沢近代文芸研究会編（おうふう）と同一です〉

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 試験（80%）小テスト（10%），レポート（10%）

◆授業相談（連絡先）：

◆日中戦争・太平洋戦争のなかの民衆

〔東洋史特講 I 〕

水曜日 3 時限

開講単位 2 単位 担当者：堀井 弘一郎

◆学修到達目標 徹兵、徴用、移民、留用などを含め、日中戦争や太平洋戦争の戦時下で、日本国内や、中国、台湾、朝鮮など各地の民衆がどのように動員され、どのような生き方を強いられていったのかという視点から日中戦争・太平洋戦争史を再構成し、民衆にとっての戦争の意味を考察する歴史的教養を培うことを目標とする。

◆授業方法 毎回レジュメや資料プリントを用意し、それに沿って講義形式で授業をすすめる。その際、受講者からの質疑や希望者による研究発表等を取り入れていく。また、視聴覚教材を活用したり、史資料にも多く触れたりすることで、歴史への興味・関心を深める。資料収集の方法、卒業論文等の作成方法についても解説する。

◆準備学修 戦後 70 年を経た今日、かつての戦争の記憶も薄らいでいき、また日本と近隣諸国も必ずしも良好な関係とはいえない状態が続いている。そんな今日こそ、日頃から日中戦争・アジア太平洋戦争に関する書物に親しんだり、時事的問題に関する新聞・雑誌記事を読んで必要に応じて保存したりすることを心がけてほしい。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 ガイダンス、満州事変と開拓移民	9回目 慰安婦・戦時性暴力
2回目 満州国協和会と陸軍宣撫班	10回目 捕虜となった日本兵
3回目 東亜聯盟とアジア主義	11回目 戦前・戦後の沖縄の民衆
4回目 汪兆銘政権下の民衆	12回目 「留用」された日本人
5回目 蔣介石政権と新生活運動	13回目 受講生（希望者）による研究発表
6回目 共産党根拠地の民衆	14回目 シベリア抑留
7回目 日中戦争・太平洋戦争下の日本の民衆	15回目 まとめ
8回目 植民地台湾・朝鮮の民衆	

◆教科書 指定しない。

◆参考書 丸沼『シリーズ日本近現代史⑤ 満州事変から日中戦争へ』加藤陽子 岩波新書 885 円（税込）
(送料 215 円)

丸沼『シリーズ日本近現代史⑥ アジア・太平洋戦争』吉田裕 岩波新書 885 円（税込）(送料 215 円)

丸沼『「満州」から集団連行された鉄道技術者たち－天水「留用」千日の記録－』堀井弘一郎 創土社 1,512 円（税込）(送料 300 円)

◆成績評価基準 平常点 20%，試験 80% で評価する。毎回出席することを前提として評価する。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆『もののけ姫』の歴史学

〔歴史学 B〕

水曜日 4 時限

開講単位 2 単位 担当者：渡邊 浩史

◆学修到達目標 スタジオ・ジブリの宮崎駿監督によるアニメ作品『もののけ姫』を題材として、日本の歴史を学ぶ。本作品は公開当初より歴史学者網野善彦氏や「照葉樹林文化論」の影響を色濃く受けていると話題にのぼった。歴史学の最新の成果をもとに作品を読み解き、歴史学という学問とは何か理解できるようになる。

◆授業方法 講義形式で行う。適宜 DVDなどを利用する。なおシラバスはあくまで予定であり、最新の研究成果を反映させるなどの場合は変更する可能性もある。

◆準備学修 『もののけ姫』は、事前に観ていることが望ましい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 はじめに	9回目 女性・子供
2回目 森・林・樹木	10回目 鉄
3回目 森・林・樹木	11回目 鉄
4回目 森・林・樹木	12回目 動物
5回目 シャーマン	13回目 動物
6回目 シャーマン	14回目 開発と人間
7回目 たたり神	15回目 おわりに
8回目 女性・子供	

◆教科書 〔当日資料配布〕使用しない。適宜授業中に資料プリントを配布する。

◆参考書 授業中に指示する。

◆成績評価基準 平常点 20%，試験 80%

◆授業相談（連絡先）：

◆心の働きを科学する

〔心理学 B〕

水曜日 4 時限

開講単位 2 単位 担当者：野村 康治

◆学修到達目標 人間はありのままに世界をとらえ、気をつけてさえすれば重要な情報を見落とさず、大切なことは正確に記憶し、冷静なときは論理的に考えることができる、という生き物ではない。では、人間はどのように外界をとらえ、記憶し、思考しているのか。この授業では人間の基礎的な心の働きに関する知見を学んでいく。こうした知識を習得することで科学的な人間理解を目指す。

◆授業方法 授業は主として講義形式で行う。講義内容を必ずノートにとること。また、授業中に教員から質問をしたり、意見を求めることがある。ただ漫然と授業を聞くのではなく、考えながら聴講し、意見を求められたときは積極的に発言して欲しい。なお、出席は毎回確認する。

◆準備学修 心理学が扱う問題は全て関連している。そうした「話の流れ」というものを重視して授業を行うので、前回授業の内容（ノート）を読み返してから毎回の授業に臨んで欲しい。

◆履修条件 平成 28 年度昼間・土曜スクーリング（前期）水曜3限「心理学 A」との積み重ね不可。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 心理学とはどのような学問か	9回目 人間の注意の特性について
2回目 心の働きを支える体のしくみについて	10回目 注意のメカニズムについて
3回目 脳の働きとメカニズムについて	11回目 記憶の過程とメカニズム
4回目 感覚の種類とそのメカニズム	12回目 人間の記憶の特徴について
5回目 刺激と感覚の関係について	13回目 思考の素材、知識について
6回目 人間の知覚の諸特性	14回目 人間の思考の特徴
7回目 物理的世界と知覚世界の関係	15回目 前期まとめ（理解度の確認）
8回目 意味をとらえるということ	

◆教科書 通材『心理学 B12100』通信教育教材（教材コード 000483）2,900 円（送料込）
〈この教材は市販の『新しい心理学ゼミナール』藤田主一編（福村出版）と同一です〉

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 成績は試験結果を重視し、これに平常点（授業時の発言など）を鑑みて総合的に評価する。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆古典文学は如何にその方法を捉えるか

〔国文学基礎演習〕

水曜日 4 時限

オープン受講：不可

開講単位 2 単位

担当者：木村 一

◆学修到達目標 前期のみの受講・後期のみの受講も可能だが、学修効果をあげるため、前期・後期の連続受講が望ましい。

本講座では広く古典文学というくくりで作品を捉える。そのジャンルは多岐に渡り、受講者がいかにその作品を捉え、読んでいるのかということが問われる。その作品に貫通する時代を体感すること、文学作品に描かれていることをとおして、その時代に生きた人々のものの見方を知ることを主眼とする。

本講座は「演習」である。次の「〈本〉演習」へのステップとすべく、読み方・調査・方法・捉え方ができるようになることを目標とする。

◆授業方法 本講座は「演習」である。受講生諸君が主体となり、調査・研究を経て実際に口頭発表を行う。具体的には、講義指定テキストを分割し担当者を決めて、読み込んだ上で、どうしてこのような展開・結論になるのか、という理論展開をたどることを主眼とする。担当者の発表と聴衆からの質疑、それに発表者が答えるという討論形式で進めることになる。「国文学基礎講義」を履修し終えていることが望ましい。

◆準備学修 受講生各自、口頭発表をするという自覚を持つこと。講義指定テキストに対して、自身の担当箇所をしっかりと読み込み、内容をしっかりと把握する必要がある。さらに、執筆者の言いたいことは何か、問題点はどのようなことか、ということを洗い出しておくこと。口頭発表であるから、レジュメを用意すること。発表担当者でない者も該当箇所を読み込んで、質問事項を用意しておくこと。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 導入、どう進めるか 担当者割り当て	9回目 受講生による口頭発表 第4章中古（二）一～三
2回目 デモンストレーション	10回目 受講生による口頭発表 第4章中古（二）四～六
3回目 受講生による口頭発表 第1章古代（一）一～三	11回目 受講生による口頭発表 第5章中世（一）一～二
4回目 受講生による口頭発表 第1章古代（一）四～七	12回目 受講生による口頭発表 第5章中世（一）三～四
5回目 受講生による口頭発表 第2章古代（二）一～二	13回目 受講生による口頭発表 第6章中世（二）一～四
6回目 受講生による口頭発表 第2章古代（二）三～四	14回目 受講生による口頭発表 第6章中世（二）三～八
7回目 受講生による口頭発表 第3章中古（一）一～二	15回目 受講生による口頭発表 前期まとめ・総評
8回目 受講生による口頭発表 第3章中古（一）三～四	

◆教科書 通材 『国文学基礎講義 M20100』 通信教育教材（教材コード 000519） 3,050 円（送料込）

※平成 28 年度新教材

〈この教材は市販の『Next 教科書シリーズ 日本古典文学』近藤健史編（弘文堂）と同一です〉

〔当日資料配布〕発表レジュメは当日配布。

◆参考書 電子辞書があれば便利。

◆成績評価基準 毎回出席することを前提とし、発表内容 70%・質疑応答 10%・リポート 20% で総合的に評価する。

◆授業相談（連絡先）：

◆国語学がどういう学問かを知る

〔国語学概論〕

水曜日 4 時限

開講単位 2 単位 担当者：保科 恵

◆学修到達目標 ひと口に「国語学」と言っても、様々な対象・方法があります。国語学がどういう学問なのかをひと通り見渡すことによって、国語学に対する知識を身につけることを目標とします。

◆授業方法 講義を中心として授業を進めますが、適宜指名してテキストを読んでもらったり、各項目についての小テストを行なったりします。

◆準備学修 特別なことは必要ありませんが、いろいろな国語の現象に対する興味を持っていることが前提です。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 全体的な説明	9回目 音韻（その5）
2回目 序説（その1）	10回目 文字（その1）
3回目 序説（その2）	11回目 文字（その2）
4回目 序説（その3）	12回目 文字（その3）
5回目 音韻（その1）	13回目 文字（その4）
6回目 音韻（その2）	14回目 文字（その5）
7回目 音韻（その3）	15回目 まとめ
8回目 音韻（その4）	

◆教科書 丸沼『国語学要論』福島邦道 笠間書院 1,512 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 試験 70%。平常点 30%。

◆授業相談（連絡先）：

◆日本史（古代～中世）に関する基礎的事実の確認をしてみよう〔日本史概論／日本史概説〕

水曜日 4 時限

開講単位 2 単位 担当者：横山 則孝

◆学修到達目標 我が国の歴史的展開を世界的な視野からとらえ、日本史（古代～中世）を政治・経済・社会・文化など、歴史を構成する諸要素を統合して幅広い見方で大きく把握することができるようになります。

◆授業方法 講義形式である。教科書の内容を重視していくが、時間に限りがあるので、時には要点をのべるにとどまる場合もある。またプリントを配布して教科書の記述を補って解説する時もある。

◆準備学修 毎回講義の終了時に次回の内容について簡単にのべることにするので、そのテーマに関する部分について、教科書と高等学校の教科書の記述がどうなっているのか予習しておくとよい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 日本史の時代区分と日本の旧石器	9回目 王朝国家・院政・平氏政権
2回目 縄文時代と弥生文化の時代	10回目 鎌倉幕府の成立
3回目 邪馬台国	11回目 鎌倉幕府の崩壊と建武新政
4回目 古墳文化	12回目 室町幕府の政治の動向
5回目 推古朝の時代	13回目 守護大名から戦国大名へ
6回目 大化改新とその構造論	14回目 古代文化と中世文化の概論
7回目 律令国家	15回目 まとめ（テスト）
8回目 奈良時代と平安時代の政治	

◆教科書 通材『日本史概論 K32200／日本史概説 Q30200』 通信教育部教材（教材コード 000382）
2,550 円（送料込）

〈この教材は市販の『概論 日本歴史』佐々木潤之介著（吉川弘文館）と同一です〉

◆参考書 丸沼『日本史 B』高等学校教科書 出版社は問わない。

◆成績評価基準 平常点（小テスト・レポート）20% 試験 80%

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆近現代日中関係史を学ぶ

〔歴史学 B〕

水曜日 5 時限

開講単位 2 単位 担当者：堀井 弘一郎

◆学修到達目標 幕末から今日に到るまで近代日本は隣国中国と時に厳しく対峙し、時に友好を深めつつ、複雑な二国間関係を形成してきた。本講座ではそうした歴史的過程と、同時代と共に生きた日中両国民の足跡をたどりながら、確かな歴史的教養もって日中関係を考え語れるようになることを目標とする（前期は幕末～満州事変前まで）。

◆授業方法 毎回レジュメや資料プリントを用意し、それに沿って講義形式で授業をすすめる。その際、受講者からの質疑や希望者による研究発表等を取り入れていく。また、視聴覚教材を活用したり、史資料にも多く触れたりすることで、歴史への興味・関心を深める。資料収集の方法、卒業論文等の作成方法についても解説する。

◆準備学修 「歴史とは現代と過去との対話である」（E・H・カー）。戦後70年を経た今日だが、日中関係は必ずしも良好な関係とはいえない状態にある。そんな今日こそ、日頃から日本・中国の近現代史、日中関係史に関する書物に親しんだり、時事的問題に関する新聞・雑誌記事を読んで必要に応じて保存したりすることを心がけてほしい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス（日中関係は今…）	9回目 中国人留学生と日本
2回目 中国の近現代史を眺める	10回目 台湾統治50年と現代
3回目 「西洋の衝撃」と日本	11回目 第1次世界大戦と日中両国
4回目 琉球処分と現代	12回目 辛亥革命から「南京の10年」へ
5回目 「からゆきさん」と近代の移民	13回目 受講生（希望者）による研究発表
6回目 大日本帝国憲法とアジア	14回目 「魔都上海」に暮らす日本人
7回目 日清戦争と朝鮮	15回目 まとめ
8回目 日露戦争と中国	

◆教科書 指定しない。

◆参考書 **丸沼**『シリーズ中国近現代史② 近代国家への模索』川島真 岩波新書 885円（税込）（送料215円）
丸沼『シリーズ中国近現代史③ 革命とナショナリズム』石川貞浩 岩波新書 885円（税込）（送料215円）
丸沼『新しい東アジアの近現代史（上・下）』日中韓3国共同歴史編纂委員会編 日本評論社
（上）2,700円（税込）（下）2,700円（税込）（上）+（下）（送料350円）

◆成績評価基準 前期・後期ごとに、平常点20%，試験80%で評価する。毎回出席することを前提として評価する。

◆授業相談（連絡先）：

◆サブカルなんていわせない！マンガもアニメも日本の伝統文化だ！ 〔文化史〕

水曜日 5 時限

開講単位 2 単位 担当者：渡邊 浩史

◆学修到達目標 現在の日本においてサブカルチャーと言われているマンガ・アニメだが、実はその表現方法や内容は日本の伝統文化の影響を脈々と受け継いでいる。日本の各時代の文化を考察する事によって、それが現在のマンガ・アニメにどのように反映しているのかを理解できるようになる。そして、一見過去と断絶しているかのように見える現代の我々の生活が、いかに過去と密接に関わっているかを理解できるようになる。

◆授業方法 授業の中では、出来るだけ多くの資料を提示したいと考えている。授業計画にあるように、それぞれの時代の文化についての概説を述べた後に各論を展開する。なお、計画は目安であり変更する場合もある。

◆準備学修 授業を受ける前に、最低限高校日本史教科書レヴェルの知識は付けておいて欲しい。その前提で授業を進める。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 はじめに	9回目 怪異
2回目 古代の文化	10回目 怪異
3回目 古代の文化	11回目 怪異
4回目 縄文・弥生文化	12回目 かぐや姫
5回目 古墳文化	13回目 かぐや姫
6回目 古墳文化	14回目 かぐや姫
7回目 仏教文化	15回目 まとめ
8回目 仏教文化	

◆教科書 使用しない。

◆参考書 授業中に指示する。

◆成績評価基準 試験（80%）、平常点（20%）

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆基本的な英語力の底上げ

★☆☆ [英語 E] (初級)

水曜日 5 時限

開講単位 1 単位 担当者: 石川 勝

◆学修到達目標 基本的な文法を理解した上で、易しい英文を読み進めていく。テキストは大学生がヨーロッパで経験した話なので身近に感じられると思われる。

◆授業方法 最初に文法の説明をし、その後でテキストを訳していく。アトランダムに指名し訳してもらうので、必ず指示された個所を全訳しておくこと。2回予習していない場合単位を認めない。

◆準備学修 前の週に指示されたところを全訳しておく。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 ガイダンス	9回目 仮定法
2回目 五文型	10回目 That 節
3回目 五文型続き	11回目 文法の復習
4回目 TO 不定詞	12回目 文法の復習
5回目 完了形	13回目 文法の復習
6回目 現在分詞	14回目 小テスト
7回目 過去分詞	15回目 まとめ
8回目 小テスト	

◆教科書 丸沼『ジローのヨーロッパ旅行』金星堂 1,944 円 (税込) (送料 300 円)

◆参考書 授業中に指示する。

◆成績評価基準 2回行う小テストの結果で決める。

◆授業相談 (連絡先):

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ O.Henry の短編集を読む

★★☆ [英語 F] (中級)

木曜日 1 時限

開講単位 1 単位 担当者：鈴木 ふさ子

◆学修到達目標 みなさんは O.Henry の短編小説に一度は触れたことがあるのではないでしょうか。ユーモアとペース、絶妙なオチなど様々な魅力で長年読み継がれてきた作品です。このクラスでは O.Henry 作品の中でも特によく知られた作品を通して英文の正確な把握力を高めていきます。その過程で作品の舞台となっている 20 世紀初頭の New York の文化や時代背景についても知識を深め、作品の多面的な解釈を目指します。また、小説にふさわしい表現に翻訳するセンスを身につけることも目標とします。

◆授業方法 指名された学生はテキストの予習に指定した範囲（毎回 1～2 ページ程進む予定）の音読と翻訳をします。分量としてはひとり一段落ずつになると思います。構文がとりにくかった箇所、イメージが湧きにくかった箇所、日本語にしにくい箇所などをクラス全体で考えていきます。授業終了 15 分前に、その日に読んだ箇所から訳や作品解釈を確認するテストを行います。良い訳を考えるなどグループワークの時間も適宜設ける予定です。

◆準備学修 毎回次に進む範囲を、音読し、ひとつひとつの単語を丁寧に調べて、テキスト巻末の NOTES を参照した上で、情景をイメージしながら、自分なりの翻訳を作成してきて下さい。訳している最中にわかりにくかった箇所を挙げられるようにしておいて下さい。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 ガイダンス	9回目 "The Last Leaf" 精読、確認テスト
2回目 "The Last Leaf" 精読、確認テスト	10回目 "The Last Leaf" 精読、感想など
3回目 "The Last Leaf" 精読、確認テスト	11回目 "After Twenty Years" 精読、確認テスト
4回目 "The Last Leaf" 精読、確認テスト	12回目 "After Twenty Years" 精読、確認テスト
5回目 "The Last Leaf" 精読、確認テスト	13回目 "After Twenty Years" 精読、確認テスト
6回目 "The Last Leaf" 精読、確認テスト	14回目 "After Twenty Years" 精読、確認テスト
7回目 "The Last Leaf" 精読、確認テスト	15回目 後期のまとめ
8回目 "The Last Leaf" 精読、確認テスト	

◆教科書 丸沼『The Best Short Stories of O.Henry (『O.ヘンリー短編傑作集』)』石黒心裕注 開文社
1,296 円 (税込) (送料 215 円)

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 毎回出席することを前提とすることで、欠席はしないようにしましょう。
平常点 (授業への貢献・貢献・予習) 20%, 確認テスト 30%, 最終 (期末) 試験 50% で評価します。

◆授業相談 (連絡先) :

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆行政の制度を中心に学びましょう

〔行政学〕

木曜日 1 時限

開講単位 2 単位

担当者：関根 二三夫

◆学修到達目標 20世紀に入り顕著になってきた行政の多様化や複雑化に伴う行政国家化は、議会政治との軋轢を生じさせることになりました。本来的に政策の執行を扱うとされた行政が、政策の立案や政策の決定に大きな影響力を持つことになって、議会政治との関係が問題になっています。行政の制度面を中心に、行政が国家と如何なる関係にあるべきかを学びたいと思います。

◆授業方法 講義形式で行います。講義においては、行政に関する受講生の問題意識を高め、それに対する解決能力を啓発するように進めて行きます。講義で知り得た内容が如何なる意義を有するのか、それが個人や社会や国家にとってどのように関係してくるのかを客観的に理解しなければなりません。受講に際しては、予習や復習が必要になります。

◆準備学修 内閣や大統領を頂点とする行政部で、どのような事が行われているか、また内閣や大統領と議会との関係はどうなっているのかなどをメディアの情報を参考に考え、各単元、テキストを参考に2時間程度の予習と2時間程度の復習が必要になります。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 講義全体の概要説明 ※講義の内容について項目ごとに説明します。	9回目 現代国家と行政 ※立法国家から行政国家への変遷を中心に説明します。
2回目 行政の概念 ※主要な概念を説明します。	10回目 行政組織 ※組織原則や部門化を説明します。
3回目 行政学の変遷 ※ドイツ官房学との関係を説明します。	11回目 行政組織 ※ラインとスタッフについて説明します。
4回目 ロレンツ・フォン・シュタインの行政学 ※歴史的背景や内容を説明します。	12回目 官僚制 ※概念や特徴を説明します。
5回目 科学的管理法と行政学 ※アメリカ行政学を中心に説明します。	13回目 官僚制 ※発達の根拠を説明します。
6回目 政治と行政との関係 ※二分論、連続論、関連論を説明します。	14回目 公務員制 ※ spoilezシステムとメリットシステムを説明します。
7回目 国家概念と国家機関 ※国家と機関との関係を説明します。	15回目 講義内容の総括
8回目 国家成立の要素 ※三要素を中心に説明します。	

◆教科書 通材『行政学 L30100』 通信教育教材（教材コード 000084）2,750円（送料込）

※行政学の沿革、現代国家と行政、行政組織、官僚制と公務員制、行政管理、稟議制度、情報公開や行政相談など行政全般に関して広範に解説しています。

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 試験 70%，平常点 30% ※試験同様、質問や理解度テストへの解答等も重視しますので、受講に際しては、欠席しないように注視して下さい。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆アジア地域を扱う歴史の卒業論文を書くために

〔東洋史入門〕

木曜日 1 時限

開講単位 2 単位 担当者：綿貫 哲郎

◆学修到達目標 東洋史を扱う歴史の卒業論文を書く学生が、卒業論文作成のための基礎知識や作法・技術などを身につけることを目標とします。アジア地域の歴史関連の概説書・工具書・入門書や研究施設・図書館などの理解を通じて、卒論指導（一般指導）を受ける際に不可欠な文献目録の作成が身につきます。なお、前期のみの受講も可能ですが、学修効果を上げるため、前期・後期の連続受講が望ましいです。

◆授業方法 以下の授業計画（学生の理解度により変更あり）に沿って、講義及び実習形式でおこないます。講義の理解を深めるため、視覚教材を適宜併用します。授業時間内外でレポートを課する予定です。

◆準備学修 予習よりむしろ復習に重点をおいてください。翌週の授業は前週の内容理解なしには達成が難しいからです。また授業で工具書、ネット検索の方法、文献目録の作成例などを紹介しますが、これはごく一部にすぎず全てではありません。授業を通じ受講生自身で自らのパターンを確立してください。

◆履修条件 平成 27 年度昼間・土曜スクーリング（前期）「東洋史入門」との積み重ね不可。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 ガイダンス、導入	9回目 「私語り」からの脱出
2回目 「東洋史」とは何か	10回目 卒業論文執筆への流れ
3回目 近代日本のナショナリズムと「東洋」	11回目 工具書と入門書
4回目 近代歴史学と「東洋史」	12回目 インターネットを使った卒業論文執筆
5回目 史料への探求と「東洋史」（1）	13回目 文献目録の表記（1）
6回目 史料への探求と「東洋史」（2）	14回目 文献目録の表記（2）
7回目 史料への探求と「東洋史」（3）	15回目 まとめ、試験
8回目 卒業論文とレポートの違い	

◆教科書 **〔当日資料配布〕** 当日プリントを配布します。

◆参考書 授業中に適宜指示します。

◆成績評価基準 試験+レポート（60%）、平常点（40%）。毎回出席することを前提として総合的に評価します。

◆授業相談（連絡先）：

◆知的活動の道具としてのコンピュータ（1）

〔情報概論 A〕

木曜日 1 時限

開講単位 2 単位 担当者：中村 典裕

◆学修到達目標 コンピュータを使いこなすというのは、単にマニュアル通りにコンピュータが操作出来るだけでは無い。コンピュータを知的活動の道具として使いこなせなければならぬ。この科目では文書作成の基本となる Microsoft Word の使いこなしを学ぶ。また、プレゼンテーションソフトである PowerPoint についてもその基礎を学び、成果のミニ発表会も体験する。

◆授業方法 本講義の中では、講義形式と演習の両方を行う。講義形式ではコンピュータの構造、歴史、情報倫理などについて学ぶ。演習ではコンピュータを実際に操作しながら、必要な技術の習得を目指す。ほぼ毎回課題を課し提出する。

◆準備学修 情報化社会と言われる現在、コンピュータやインターネットは非常に身近なものになっている。しかし、その原理や歴史的背景を理解している人はわずかであろう。本講義に望むにあたっては、テレビや新聞などの報道に関心を持つと同時に、身近な情報機器の操作方法を改めて確認するなどの態度が望まれる。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 ガイダンス・インターネットの基礎	9回目 Word 活用6、図形の作成
2回目 キーボード入力とタイピング演習	10回目 Word 活用7、文章レイアウト
3回目 Microsoft Word の基礎	11回目 Word 活用8、索引、脚注、目次
4回目 Word 活用1、コピー & ペースト	12回目 PowerPoint 入門
5回目 Word 活用2、ワードアート・書式	13回目 PowerPoint 応用
6回目 コンピュータ発達の歴史	14回目 PowerPoint 実戦演習（ミニ発表会）
7回目 Word 活用3、表の作成	15回目 最終課題
8回目 Word 活用4、社内文書・社外文書	

◆教科書 **〔当日資料配布〕** 原則として、当日に配付。また、授業用ウェブページからダウンロード可能。

◆参考書 授業時に指示する。

◆成績評価基準 平常点（30%）、平常課題（30%）、最終課題レポート（40%）。毎回出席する事を前提として評価する。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆英語的発想表現習得

★★★ [英語 G] (上級)

木曜日 2 時限

開講単位 1 単位 担当者：岡田 善明

◆学修到達目標 【上級】対照言語学の理論から主観的な日本語と客観的な英語の表現構造の違いを学び、客観的な英語の表現能力を修得する。英語通信「和と輪」を配布し、時事的、文学的、哲学的な内容を英語により理解する学習も行う。

◆授業方法 『英語教育の精神と実践』第11章「日本語「英語の表現構造の比較」をテキストに、主観的な日本語を客観的な英語に翻訳する練習を行い、英語の生きた表現能力を身に着ける。

◆準備学修 『英語教育の精神と実践』第11章「日本語と英語の表現構造の比較」を基に、初回の授業で渡す英訳練習問題を予習として行う。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 オリエンテーション	9回目 問題演習
2回目 1. 全体と個性	10回目 5. 受身表現と能動表現
3回目 問題演習	11回目 問題演習
4回目 2. 主観言語と客観言語	12回目 6. 人間中心言語と個体中心言語
5回目 問題演習	13回目 問題演習
6回目 3. アナログ言語とデジタル言語	14回目 「日本語と英語の表現構造比較」まとめ
7回目 問題演習	15回目 試験
8回目 4. 自動詞表現と他動詞表現	

◆教科書 丸沼『英語教育の精神と実践』岡田善明 春風社 1,944 円 (税込) (送料 300 円)

◆参考書 スクーリングで紹介。

◆成績評価基準 試験を基本に、スクーリングの問題演習等も加味して評価する。

◆授業相談 (連絡先) :

◆万葉時代の国際化

[国文学演習 I ~VI]

木曜日 2 時限

開講単位 1 単位 担当者：近藤 健史

◆学修到達目標 万葉集において、海を越えて行き来した、さまざまな「人」に焦点をあて、古代日本と海外との交流を捉える。このことから万葉時代だけでなく、国際的な世界観を養うことを目標とする。

◆授業方法 参加学生が、いくつかのグループになり、テーマを決め調査・研究したことを口頭発表する形式である。その報告について全体討論・質疑応答することで、さらに問題点を考え、深めるという方法を取る。

◆準備学修 万葉集の基本的なこと、歌人、東アジアと古代日本の関係などを学んでおいて欲しい。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 授業計画の説明	9回目 発表と討議 (4)
2回目 万葉集入門	10回目 発表と討議 (5)
3回目 万葉時代の国際化 (1)	11回目 発表と討議 (6)
4回目 万葉時代の国際化 (2)	12回目 発表と討議 (7)
5回目 テーマ設定と調査・研究の方法	13回目 発表と討議 (8)
6回目 発表と討議 (1)	14回目 発表と討議 (9)
7回目 発表と討議 (2)	15回目 まとめ
8回目 発表と討議 (3)	

◆教科書 万葉集 (全歌が収められたもの)

◆参考書 『東アジアの文化交流史』池田温 吉川弘文館 2002年
『古代東アジア世界と日本』西嶋定生 岩波書店 2000年
『万葉集歌人集成』中西進(ほか) 講談社 1990年
(上記の本は品切れのため図書館等を利用して下さい)

◆成績評価基準 発表 70%, リポート試験 20%, 質疑応答 10%

◆授業相談 (連絡先) :

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆イギリス文学を辿る—黎明期～シェイクスピア [イギリス文学史 I]

木曜日 2 時限

オープン受講：不可 開講単位 2 単位 担当者：鈴木 ふさ子

◆**学修到達目標** 黎明期からシェイクスピアの時代までの時代背景と思想を辿り、それぞれの時代を代表する作家について学び、その作品を鑑賞することによって、イギリス文学の基本的な知識を身につけます。また、文学とその時代のイギリス文化と社会との関わりについて理解を深め、最終的にはイギリス文学の魅力を知ってもらうことを目標としています。

◆**授業方法** 基本的には下記授業計画に沿って、テキストを中心に各時代の背景と思想を学びます。その後、代表的作家と作品をジャンル別（詩・散文・劇）に概観していきます。講義で重点的に扱う作家と作品についてはプリントを適宜配布し、映像なども利用して補足説明を行い、作品の抜粋部分を原文で鑑賞します。なお、鑑賞した作品についてコメントを求めます。

◆**準備学修** 第一回目の授業はイギリス文学史を学ぶ前の準備運動となるので、イギリス文学の特徴や代表的な作品には何があるのかを考えてきて下さい。下記シラバスに沿って授業で扱うテキストの章は熟読し、全体的な流れをつかんだ上で、各時代の特徴を把握し、その時代の代表的作家にはどのような人物がいるのかジャンル別に頭に入れてきて下さい。不明な用語は『英米文学事典』にあたるなどして調べておくようにしましょう。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 ガイダンス イギリス文学への誘い	9回目 第1章 チョーサーの時代 劇概説 道徳劇
2回目 プロローグ イギリス文学の黎明期 イギリス文学の定義	10回目 第2章 シェイクスピアの時代 時代背景と思想、詩概説
3回目 イギリス文学の黎明期 詩概説 ペオウルフなど	11回目 第2章 シェイクスピアの時代 スペンサーとシドニー
4回目 第1章 チョーサーの時代 時代背景と思想、詩概説、チョーサー	12回目 第2章 シェイクスピアの時代 シェイクスピアの『ソネット集』
5回目 第1章 チョーサーの時代 チョーサーについて	13回目 第2章 シェイクスピアの時代 『ソネット集』
6回目 第1章 チョーサーの 散文概説 トマス・マロリー	14回目 第2章 シェイクスピアの時代 劇概説 大学出の才人たち
7回目 第1章 チョーサーの時代 アーサー王伝説について	15回目 第2章 シェイクスピアの時代 シェイクスピアの初期作品
8回目 第1章 チョーサーの時代 アーサー王伝説と美術	

◆**教科書** 丸沼『はじめて学ぶイギリス文学史』ミネルヴァ書房 3,024 円（税込）（送料 350 円）

◆**参考書** 丸沼『英語文学事典』ミネルヴァ書房 4,860 円（税込）（送料 460 円）

丸沼『たのしく読めるイギリス文学』ミネルヴァ書房 3,024 円（税込）（送料 350 円）

丸沼『映画で英詩入門』平凡社 1,404 円（税込）（送料 300 円）

◆**成績評価基準** 全出席を前提に、以下のような割合で成績の評価をします。無遅刻・無欠席を前提に、授業に対する取り組み・積極性・発表（20%）・コメント（20%）・試験（60%）

◆**授業相談（連絡先）：**

◆経済学入門（ミクロ編）

〔経済学概論〕

木曜日 2 時限

開講単位 2 単位 担当者：陸 亦群

◆学修到達目標 この講義は体系的な学問としての経済学を初めて学ぶことを前提に、入門編として位置付けして、ミクロ経済学の理論と方法、消費者行動、生産者行動ならびに市場の効率性の4つの部分から構築されている。この講義では、ミクロ経済学における必要な「基礎知識」、「経済学的な考え方」、「分析手法」を習得することが目標となる。

◆授業方法 本講義は教材の内容を中心に原則として板書で授業を進める。必要に応じてパワーポイントを使用して講義関連資料および時事経済関連の新聞・雑誌記事等を資料として配布し解説する。初步的な説明を重視し無味乾燥な解説を避けて、できるだけ具体例から導入して分かりやすく講義するように心がけている。

◆準備学修 授業計画にあるテーマに関連する教材内容を講義前に読み通し、講義終了後にノートを整理し演習問題を解き学習内容を復習すること。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス	9回目 消費者行動①
2回目 経済学の基本問題と経済学の課題①	10回目 消費者行動②
3回目 経済学の基本問題と経済学の課題②	11回目 生産者行動①
4回目 経済学の基本問題と経済学の課題③	12回目 生産者行動②
5回目 ミクロ経済学の理論と方法①	13回目 競争市場均衡と効率性①
6回目 ミクロ経済学の理論と方法②	14回目 競争市場均衡と効率性②
7回目 市場機構と需要・供給①	15回目 講義のまとめ
8回目 市場機構と需要・供給②	

◆教科書 丸沼『Next 教科書シリーズ 経済学入門』山口正春・楠谷清編 弘文堂 2015 2,160 円（税込）
(送料 300 円)

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 定期試験 80%、講義態度（出席）20%。基礎理論を身に付けているかを判定する。

◆授業相談（連絡先）：

◆英文法をより深く

〔英文法〕

木曜日 3 時限

開講単位 2 単位 担当者：真野 一雄

◆学修到達目標 英文学専攻の学生として必要な英文法知識を全般的により深く修得します。

◆授業方法 原則、3回の授業で1章を見ていきます。テキスト本文の解説、補足説明を行います。設問の練習問題も行います。必要に応じて別途、練習問題を行うこともあります。

◆準備学修 毎回、テキストを読み、練習問題の解答を用意しておいてください。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 第1章 基本文型	9回目 第3章 動詞
2回目 第1章 基本文型	10回目 第4章 否定
3回目 第1章 基本文型	11回目 第4章 否定
4回目 第2章 文の構造	12回目 第4章 否定
5回目 第2章 文の構造	13回目 第5章 助動詞
6回目 第2章 文の構造	14回目 第5章 助動詞
7回目 第3章 動詞	15回目 第5章 助動詞 および 試験+質疑応答
8回目 第3章 動詞	

◆教科書 丸沼『大学生のための現代英文法』開拓社 2,376 円（税込）(送料 300 円)

◆参考書 丸沼『現代英文法講義』安藤貞雄 開拓社 7,128 円（税込）(送料 460 円)

丸沼『英文法解説』江川泰一郎 金子書房 1,836 円（税込）(送料 350 円)

丸沼『新英文法概説』山岡洋 開拓社 3,780 円（税込）(送料 350 円)

他多数

◆成績評価基準 受講状況（10%）、試験（90%）で評価の予定。5回以上の欠席者は受験資格を失います。（試験は途中退出なしです）

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆中華帝国とは何か

〔東洋史概説〕

木曜日 3 時限

開講単位 2 単位 担当者：高綱 博文

◆学修到達目標 中国 4000 年の歴史の中で、20 世紀の革命、戦争、近代化の中で何が変わり、何が生まれたのか、そして今なお残る中華帝国の「遺産」と「伝統」とは何かについて考える。

◆授業方法 中華帝国の歴史と社会を概観し、映像資料を視聴しながらビジュアルに中国史を物語る。

◆準備学修 下記の参考文献を予め学習しておくことが望ましい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 中国を見る視点	9回目 中華帝国の政治システム（3）
2回目 中国の概観（1）地理と風土	10回目 中華帝国の皇帝
3回目 中国の概観（2）文明と民族	11回目 中華帝国の官僚（1）
4回目 中国の歴史書	12回目 中華帝国の官僚（2）
5回目 中国文明（ビデオ視聴）	13回目 中国の農民と反乱
6回目 中華帝国の誕生（ビデオ視聴）	14回目 中華帝国の宗教と文化
7回目 中華帝国の政治システム（1）	15回目 中華帝国の国際関係
8回目 中華帝国の政治システム（2）	

◆教科書 **〔当日資料配布〕** 授業時間中に適宜、資料を配布します。

◆参考書 **通材** 『東洋史概説 Q30300／東洋史概論 K32300』 通信教育教材（教材コード 000523）
1,850 円（送料込） ※平成 28 年度新教材

〈この教材は市販の『中国の歴史』岸本美緒著（筑摩書房 ちくま学芸文庫）と同一です〉

◆成績評価基準 試験（50%）、リポート（50%）。毎回出席することを前提として評価します。

◆授業相談（連絡先）：

◆日本史研究の実践（史料編）

〔日本史演習 I・II〕

木曜日 3 時限

開講単位 1 単位 担当者：鍋本 由徳

◆学修到達目標 史学専攻生として身につける技術は、史料読解法と論文作成技術です。史料は読むだけではなく選択や読解が必要です。本科目では、特に近世史料の読解を中心に据え、史料の取り扱い方についてグループワークを通して修得します。なお、前期のみの受講も可能ですが、学修効果を高めるため、後期継続受講が望ましい。

◆授業方法 グループワークによる学修です。はじめの数回を講師が解説し、「課題史料を別史料で説明する」ための 2000 字程度の最終リポート作成を目指します。冒頭 20 分程度は共通学修、以後をグループワークとします。なお、課題史料は初日に配布します。

◆準備学修 高校生が使う漢文の文法書（薄いものでよい）で、返読・再読文字について目を通しておくとよいでしょう。事前学修はグループごとで内容を決めます。全体として事前学修すべきことは、講師から伝えます。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 日本史演習の目的と意義	9回目 史料による実証作業
2回目 読解基礎 基本辞典類の紹介	10回目 史料による実証作業と注釈箇所の検討
3回目 読解基礎 基本史料類の紹介	11回目 注釈箇所の決定と注釈文作成
4回目 読解基礎 図書館と Web の活用	12回目 全体文章の検討と修正
5回目 史料選択とテーマ検討	13回目 最終レポートの修正
6回目 史料選択とテーマ決定	14回目 最終レポートの最終確認
7回目 関連文献・史料カードの作成	15回目 レポート発表会（各グループ）
8回目 関連文献・史料カードの作成（承前）	

◆教科書 **〔当日資料配布〕** 初日に課題史料を配布（隨時、参考プリントを追加します）。

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 授業内グループワーク参加度（80%）、最終報告参加度（20%）の総合評価 ※全回出席を前提とします。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ミクロ経済学の基礎

〔経済原論／経済学原論〕

木曜日 3 時限

開講単位 2 単位 担当者：陸 亦群

◆学修到達目標 ミクロ経済学において、完全競争市場の下では最も効率的な資源配分が達成されることを学び、「市場の失敗」を生む諸要因を中心に学んで、市場機構の限界を認識すると同時に、それをどのように克服していくかについての理解を深める。ミクロ経済学を通じ、経済学の「基礎知識」を身につけ、その中で「経済学的な考え方」と「分析手法」を養い、応用・展開科目を学ぶ土台を築くことを目標とする。

◆授業方法 本講義は教材の内容を中心に原則として板書で授業を進める。必要に応じてパワーポイントを使用して講義関連資料および時事経済関連の新聞・雑誌記事等を資料として配布し解説する。初步的な説明を重視し無味乾燥な解説を避けて、できるだけ具体例から導入して分かりやすく講義するように心がけている。

◆準備学修 経済学概論、経済学の何れかの科目を履修済みの上、本講義を受講することをお勧めする。授業計画にあるテーマに関連する教材内容を講義前に読み通し、講義終了後にノートを整理し演習問題を解き学習内容を復習すること。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス	9回目 完全競争市場の均衡と効率性
2回目 ミクロ経済学とは何か	10回目 要素価格と所得分配
3回目 市場機構と需要・供給	11回目 不完全競争市場と独占
4回目 消費の理論①	12回目 ゲームの理論
5回目 消費の理論②	13回目 寡占と独占的競争
6回目 消費理論の応用と拡張	14回目 外部性、不確実性と不完全情報
7回目 企業行動と費用	15回目 講義のまとめ
8回目 生産の決定	

◆教科書 丸沼『入門ミクロ経済学』第2版 井堀利宏 新世社 3,186円（税込）（送料 350円）

◆参考書 丸沼『ミクロ経済学 第3版』西村和雄 岩波書店 3,024円（税込）（送料 350円）

◆成績評価基準 定期試験 80%、講義態度（出席）20%。基礎理論を身に付けているかを判定する。

◆授業相談（連絡先）：

◆商業の役割と政策を学ぶ

〔商業政策〕

木曜日 3 時限

開講単位 2 単位 担当者：雨宮 史卓

◆学修到達目標 本講義では、アップ・トゥ・データの内容を心がける。商業の体系だけでなく、その研究対象となる流通・マーケティング分野も取り入れる。なぜなら、生産・サービス業者の地位向上、大規模化等と共に、それらを主体とマーケティング論の発達をみて、商学は新しく再構築されつつあるからである。そのため、商業が果てしている役割を理解し、現代社会で商業が抱えている問題や、いかなる政策があるかという幅広い知識習得を目指す。

◆授業方法 ターム前半はテキストに沿いながら、日本における商業・流通の歴史と発展、変化を中心に解説する。ターム後半はマーケティングを中心とした幅広い知識習得を目指す。必要に応じて資料を配布する。また、その日の授業の後半で、主要なテーマについてのアクションペーパー（小論文）の提出を求める。

◆準備学修 前もって指定のテキストを熟読してくることが望ましい。ノートを必ず持参すること。

◆履修条件 平成28年度夏期スクーリング「商業政策」との積み重ね不可。後期との継続受講が望ましい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス 授業の進め方 商業を学ぶことの意義	9回目 価格政策
2回目 商業の起源と発展	10回目 販売促進
3回目 商業学、経営学、及びマーケティングの関係	11回目 商流と物流
4回目 日本型商業・流通構造の特質と商業政策	12回目 時間の概念と商業政策
5回目 マーケティングの誕生と4P	13回目 消費者のライフ・スタイルの変化と商業
6回目 消費者と商業・流通とのかかわり	14回目 授業の総復習
7回目 製品政策	15回目 テストと解説
8回目 流通政策	

◆教科書 丸沼『現代商業学』梅沢昌太郎編 慶應義塾大学出版会 2,700円（税込）（送料 300円）

〔当日資料配布〕必要に応じて資料を配布する。

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 テスト（40%）、小論文（40%）、平常点（20%） 授業の取り組み、小論文、テストにより総合的に評価します。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆教育の Identity 形成過程を学ぶ

〔教育原論／教育の思想〕

木曜日 3 時限

開講単位 2 単位 担当者：古賀 徹

◆**学修到達目標** 「教育」とは何か？ 人間が社会の中で生きていく上で、なぜ教育が必要なのか？ 現在のように公教育が当たり前に実現されるようになってくるのには絶余曲折（歴史的な変遷）がありました。その実現のための強い光となつたのが本講義で学ぶ様々な「教育思想」です。教育の思想について学ぶということは、いわば「教育」の Identity 形成の過程を学ぶということでもあります。

◆**授業方法** 講義形式と「教育の思想」としてあらわされてきた様々な授業形式（グループワーク等）をとりいれる。前半は、テキストに記された思想家（人物）に関する講義を（教員が）行ないます。後半からは各自で担当箇所を決め、人物の思想上の特色について報告・質疑をすることで、互いに学びあえる授業としていきます。

◆**準備学修** テキストに記載されている「教育の思想」を著した人物たちは、「教育」のみではなく、様々な「社会」的な思想に関する論述があります。その当時の「時代の精神」を理解することも重要です。テキストをよく読むこととあわせて、西洋の近代史（近代以降の歴史）に関する本を読むと、さらに理解が増すと思います。グループ単位で担当する思想家を決め、調査を行ない発表をすることになります。積極的に調査研究に取り組んでください。

◆**授業計画【各 90 分】**

1回目 教育の歴史・思想とは？	9回目 公教育の実現（マン）
2回目 世界の教育思想の歴史的変遷	10回目 関係論・哲学（ブーバー）
3回目 一斉教授の方式・起源（コメニウス）	11回目 自由教育の思想（ニイル）
4回目 子どもの発見（ロック、ルソー）	12回目 現代の思想（アリエス）
5回目 人間教育の実践－直観教授（ペスタロッチ）	13回目 脱学校論（イリイチ）
6回目 科学的教育学（ヘルバート）	14回目 新しい教育の思想
7回目 幼児教育の思想（フレーベル）	15回目 まとめ（「教育」を教養として考える）
8回目 児童中心主義・経験主義（デューアイ）	

◆**教科書** **通材**『教育原論 T10200／教育の思想 T10300』 通信教育教材（教材コード 000199）
1,250 円（送料込）

◆**参考書** **〔当日資料配布〕**授業中に指示する。適宜に資料・レジュメを配布する。

◆**成績評価基準** この授業の評価は、授業への参加（グループ学習含む）、提出物・課題、試験成績の総合的評価とする。出席状況の悪いもの、課題未提出の場合は評価を行なわない。

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆英語の基礎を徹底的に学ぶ 品詞編

〔英語基礎 A〕

木曜日 4 時限

開講単位 1 単位 担当者：小澤 賢司

◆学修到達目標 本授業では、今後の英語学修の土台となる「基礎(基本)」を学ぶことを目標としています。この「基礎(基本)」を疎かにするとその後の「伸び」はあまり期待できません。本授業で扱う内容は中学卒業程度の文法事項、及び英文ですが、それらは決して「楽」や「易」とイコールではありません。この点には十分留意して、学修に臨んでください。前期に当たる本授業では、英語の「品詞」を中心に学修していきます。

【本授業は、昼間(後期)開講予定の「英語基礎－英語の基礎を徹底的に学ぶ 文法編－」と併せて受講することが望ましい】

◆授業方法 授業計画にある文法事項を1つ1つ丁寧に解説します。また、それらが用いられている英文とともに確認することで、理解向上も図ります。なお、受講者の様子(理解度)を見ながら授業を進めていきますので、授業計画はあくまでの「目安」とお考えください。

◆準備学修 基本的に、「予習」の必要はありません。その代わり、「復習」を「徹底して」行ってきてください。毎授業始めに復習テストを行います。また、「音読」に関しては特に注意して復習をしてください。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス 辞書に関するあの話この話	9回目 『接続詞』
2回目 「品詞」と「文法」 4大品詞(名詞・動詞・形容詞・副詞)	10回目 名詞類 副詞類 その4 『接続詞』 その3 『接続詞』
3回目 4大品詞の確認 名詞類 その1 『動名詞』	11回目 形容詞類 その4 『関係代名詞』
4回目 形容詞類 その1 『前置詞』 副詞類 その1 『前置詞』	12回目 『動詞』
5回目 名詞類 その2 『不定詞』 『動名詞』 vs. 『不定詞』	13回目 動詞類 その1 『助動詞』
6回目 形容詞類 その2 『不定詞』 副詞類 その2 『不定詞』	14回目 これまでの復習(予備日)
7回目 形容詞類 その3 『分詞』 『動名詞』 vs. 『分詞』	15回目 テスト
8回目 『不定詞』の応用	

◆教科書

〔当日資料配布〕適時プリントを配布します。
特に指定はしませんが、中辞典程度の英和辞典を必ず持参してください。
※持参していなかった場合、成績評価に大きく影響します。

◆参考書

なし。

◆成績評価基準

授業への取り組み(復習状況・発表など)、及びテストにより総合的に評価します。

※毎授業始めに復習テストを行いますので、遅刻をしないよう注意してください。

◆授業相談(連絡先)：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ James Joyce の特質を知る

〔英米文学演習〕

木曜日 4 時限

開講単位 1 単位 担当者：猪野 恵也

◆学修到達目標 James Joyce の *A Portrait of the Artist as a Young Man* を読み、Joyce の文学の特質を知る。

◆授業方法 学生の和訳の発表中心

◆準備学修 翻訳でもいいのであらかじめ作品を読んでおいてもらいたい。できれば *Dubliners* も読んで欲しい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 Introduction	9回目 作品読解
2回目 作品読解	10回目 作品読解
3回目 作品読解	11回目 作品読解
4回目 作品読解	12回目 作品読解
5回目 作品読解	13回目 作品読解
6回目 作品読解	14回目 まとめ
7回目 作品読解	15回目 試験
8回目 作品読解	

◆教科書 事前資料送付 事前プリント配布。

◆参考書 授業中指示する。

◆成績評価基準 授業への取り組み・テストにより総合的に評価します。

◆授業相談（連絡先）：

◆読む方法、書く方法、発表する方法

〔哲学演習 I・II〕

木曜日 4 時限

開講単位 1 単位 担当者：中澤 瞳

◆学修到達目標 本演習は、論文を執筆するために必要と考えられる基本的なテクストの読み方、要約の作り方を習得することを目標とする。

◆授業方法 全体的な説明と課題提示の後は、グループごとに作業を行う。口頭発表も行う予定であるが、日程に関しては、人数を見たうえで調整する。

◆準備学修 必要であれば、論文の書き方に関する参考書を読むこと。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス	9回目 テクストを分析する⑤
2回目 論文とはなにか	10回目 テクストを分析する⑥
3回目 注・引用・参考文献について①	11回目 テクストを分析する⑦
4回目 注・引用・参考文献について②	12回目 テクストを分析する⑧
5回目 テクストを分析する①	13回目 発表
6回目 テクストを分析する②	14回目 発表
7回目 テクストを分析する③	15回目 発表
8回目 テクストを分析する④	

◆教科書 当日資料配布 資料プリントは授業ごとに配布。

◆参考書 丸沼『レポート・論文の書き方入門』河野哲也 慶應義塾大学出版会 1997 1,080 円（税込）
(送料 300 円)

丸沼『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』改訂 第2版 松本茂・河野哲也
玉川大学出版部 2015 1,620 円（税込）(送料 300 円)

◆成績評価基準 授業、グループワークへの参加度（70%）、発表の講評（30%）により総合的に評価する。なお、毎回出席することを前提として評価する。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆資本主義的世界体制と日本

〔日本経済史〕

木曜日 4 時限

開講単位 2 単位 担当者：飯島 正義

◆学修到達目標 世界史的な視点から日本資本主義の成立・発展過程を捉え、その構造的な特徴と問題点について理解を深めることを目標とする。

◆授業方法 講義形式。当日配布するプリント資料を中心に授業を進めていくが、授業時における理解を確認するために何回か確認プリント等を実施する予定である。

◆準備学修 通信教材で関係する部分を予めよく読んでおいて下さい。

◆履修条件 平成 27 年度昼間・土曜スクーリング（前期）「日本経済史」との積み重ね不可。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 東インド貿易圏と日本	9回目 開国と幕藩体制の崩壊
2回目 織豊政権の経済政策	10回目 明治憲法体制の構築
3回目 幕藩体制の成立	11回目 日本資本主義の形成
4回目 幕藩体制の経済構造	12回目 日本の産業革命
5回目 農民的商品経済の発展	13回目 日本資本主義の確立
6回目 幕藩体制の動搖	14回目 日清・日露の戦後経営
7回目 幕政改革・藩政改革	15回目 総まとめと筆記試験
8回目 欧米列強のアジア進出	

◆教科書 **〔当日資料配布〕**教科書は使用しません。当日プリントを配布します。

◆参考書 **〔通材〕『日本経済史 R30500』** 通信教育教材（教材コード 000416） 3,550 円（送料込）
<この教材は市販の『日本経済史 1600-2000 -歴史に読む現代-』浜野潔 中村宗悦著（慶應義塾大学出版会）と同一です>
〔丸沼〕『概説日本経済史 近現代第3版』三和良一著 東京大学出版会 2012年 2,700 円（税込）
(送料 300 円)

◆成績評価基準 平常点（取組み・確認プリント等）：40%，筆記試験：60%

◆授業相談（連絡先）：

◆ブランドの基本概念と機能・役割を理解する 〔特殊講義（ブランド戦略論）〕

木曜日 4 時限

開講単位 2 単位 担当者：雨宮 史卓

◆学修到達目標 現在、我が国においてブランド戦略は製品戦略の一要素にとどまらず、独立した領域を築いている。それだけ企業にとって強力なブランドを構築することが重要課題であるといえる。国内・海外のブランド戦略の事例を取り入れながら、ブランド・マーケティングの方法を基礎から学ぶことを心掛ける。

◆授業方法 半期完結型科目のため、前半はブランドの基礎的機能を平易に解説する。必要に応じて資料やデータを配布し、講義を中心に授業を進める。各授業の後半では、その日の主要なテーマについてのリアクションペーパー（小論文）の提出を求める。

◆準備学修 手書きノート参照でテストを行う。そのため、毎回の授業のノート作成を心掛けること。その日のノートを見ながら復習を心掛けること。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 授業の進め方 ブランドとは何か	9回目 コモディティ製品のブランド戦略
2回目 ブランドの基本的概念と種類	10回目 高価格製品のブランド戦略
3回目 ブランドの機能と役割	11回目 セカンド・マーケットにおけるブランド力
4回目 ブランド評価	12回目 日本市場におけるブランド戦略
5回目 ブランド・エクイティとブランド拡張	13回目 欧米と日本市場のブランド戦略の比較
6回目 製品戦略とブランド・マーケティング	14回目 前期授業の総復習
7回目 サービス産業におけるブランド戦略	15回目 テストと解説
8回目 ストア・ブランドと食品産業	

◆教科書 **〔当日資料配布〕**必要に応じて資料・データを配布する。

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 テスト（40%）、小論文（40%）、平常点（20%） 授業の取り組み、小論文、テストにより総合的に評価します。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆近代以降の西洋哲学

〔西洋思想史Ⅱ〕

木曜日 5 時限

開講単位 2 単位 担当者：中澤 瞳

◆学修到達目標 本講義の目標は、近代から現代にかけての西洋における哲学思想の展開を理解することである。

◆授業方法 講義を主体として、資料プリントを読み進めつつ、まとめていく。授業の進行具合によっては、授業計画に記載した内容に変更が生じる場合がある。その際は、随時授業中に指示する。

◆準備学修 哲学史の入門書を読むことは理解を深めるのに役立つ。参考文献は授業ごとに紹介する。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 ガイダンス他	9回目 18c-19c : カントとドイツ観念論
2回目 17c : デカルト・スピノザ・ライブニッツ	10回目 18c-19c : カントとドイツ観念論
3回目 17c : デカルト・スピノザ・ライブニッツ	11回目 18c-20c : 認識論における展開
4回目 17c : デカルト・スピノザ・ライブニッツ	12回目 18c-20c : 認識論における展開
5回目 17c : デカルト・スピノザ・ライブニッツ	13回目 18c-20c : 認識論における展開
6回目 17c-18c : 啓蒙の世紀	14回目 18c-20c : 認識論における展開
7回目 18c-19c : カントとドイツ観念論	15回目 まとめ・筆記試験
8回目 18c-19c : カントとドイツ観念論	

◆教科書 [当日資料配布] 1回目のガイダンス時に、使用する資料プリントを配布。

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 授業への参加、貢献 (30%)、試験 (70%) により総合的に評価する。なお、毎回出席することを前提として評価する。

◆授業相談 (連絡先) :

◆歴史の論文を書く

〔西洋史演習Ⅰ・Ⅱ〕

木曜日 5 時限

開講単位 1 単位 担当者：藤井 信行

◆学修到達目標 4年間の歴史学の勉強を卒業論文に集約させることができます。授業をとおして卒業論文のテーマ決定・文献目録の作成・研究史の整理・資料の収集・文献の読解などを学び、歴史の論文を書くことへつなげます。西洋史で卒業論文を予定している学生は、前期・後期と、さらに3年次・4年次と継続して受講することが望ましい。

◆授業方法 「ウイーン体制とヨーロッパ国際関係」をケーススタディとして、文献目録の作成・研究史の整理・文献の読解などをゼミナル形式の授業で行います。3年次生は同じステップを各自の論文のテーマで行い、4年次生はこうしたステップを各自のテーマでいま一度確認するとともに、2度の報告をとおして論文の完成へつなげる。

◆準備学修 3年次生はつねに論文のテーマを念頭に置いて、文献目録の作成・研究史の整理・文献の購読等に取り組んでください。4年次生は、論文の全体構成・章立て・論証などを考えつつ授業に取り組んでください。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 歴史学のキーワード：「実証」と「解釈」	9回目 概説書を読む－共通テーマ
2回目 歴史学の論文①：「テーマ」と「結論」	10回目 概説を読まとめる－共通テーマ
3回目 歴史学の論文②：「文献目録」と「研究史整理」	11回目 概説の報告①-各自のテーマ
4回目 参考文献目録の作成①－共通テーマ	12回目 概説の報告②-各自のテーマ
5回目 参考文献目録の作成②－共通テーマ	13回目 概説の報告③-各自のテーマ
6回目 参考文献目録の作成③-各自のテーマ	14回目 4年次生の卒論中間報告（第2回）
7回目 参考文献目録の作成④-各自のテーマ	15回目 3年次生の卒論テーマ決定
8回目 4年次生の卒論中間報告（第1回）	

◆教科書 [当日資料配布] 当日プリントを配布する。

◆参考書 使用せず。

◆成績評価基準 レポート2回 (30%×2)、報告 30%, 平常点 10%

◆授業相談 (連絡先) :

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆世界経済の発展と国際貿易

〔国際経済論〕

木曜日 5 時限

開講単位 2 単位 担当者：陸 亦群

◆学修到達目標 国際経済論において、国際経済の発展過程をたどり、戦後の世界経済発展の歴史、国際分業の基礎理論としての比較優位論、国際貿易に関するベーシックな理論を学び、グローバル経済の進展および国際経済問題を理解する土台を作り上げることを目標とする。

◆授業方法 本講義は教材の内容を中心に原則として板書で授業を進める。必要に応じてパワーポイントを使用して講義関連資料および国際経済関連の新聞・雑誌記事等を資料として配布し解説する。

◆準備学修 国際経済論は応用経済学分野の科目であることから、経済学概論、経済原論（経済学原論）、経済学の何れかの科目を履修済みの上、本講義を受講することをお勧めする。事前に経済学の基礎理論を予習し、講義終了後に教材内容に付き合わせてノートを整理し復習すること。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 オリエンテーション	9回目 新古典派の貿易理論②
2回目 世界経済の生成と発展	10回目 近代的貿易理論
3回目 両大戦間期の世界経済	11回目 国際貿易の純粹理論による説明
4回目 戦後の世界経済の発展とその特徴	12回目 関税分析と経済厚生
5回目 戦後の経済体質と経済構造の変質	13回目 輸出入政策と管理貿易
6回目 1990年代以降の世界経済の変貌	14回目 自由貿易と保護貿易
7回目 伝統的貿易理論	15回目 講義のまとめ
8回目 新古典派の貿易理論①	

◆教科書 通材『国際経済論 R31100』 通信教育部教材（教材コード 000281） 2,000 円（送料込）

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 定期試験 80%、講義態度（出席） 20%。国際経済学の基礎理論を身に付けているかを判定する。

◆授業相談（連絡先）：

◆「日本史」授業で資料活用能力を育む

〔社会科・地理歴史科教育法Ⅰ〕

木曜日 5 時限

開講単位 2 単位 担当者：古賀 徹

◆学修到達目標 社会科を構成する3分野（地理・歴史・公民）のうち、地理歴史科授業の目的・内容についての理解を深め、その実践的な授業方法を身につけられるようにする。今期の授業では歴史的分野（主に日本史）を主にとりあげるが、地理・政治経済・思想宗教など各分野間との総合的的理解を高めることを意識しておきたい。

◆授業方法 教科内容及び授業法の講義を行うが、各自1回以上の模擬授業を実践する。学習指導案を作成しての模擬授業と、その批評検討を通して学びあう授業とする。

◆準備学修 中学校（社会科）・高等学校の地理・歴史科に関する教科書の記述内容について、事前に読んで理解しておくと、実際にとりくむ授業づくりにおいて「授業」（生徒の学習活動）がイメージしやすくなります。授業中にも紹介しますが、学習指導要領（文部科学省ホームページからも確認可能）の記述に目を通しておくことも大事になります。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 社会科・地歴科教育のねらい	9回目 指導案の検討
2回目 学習指導要領の理解、内容の取り扱い	10回目 模擬授業（1）
3回目 「日本史」を学ぶ意味	11回目 模擬授業（2）
4回目 「文字資料」の活用例	12回目 模擬授業（3）
5回目 実際の教材づくり（1）	13回目 模擬授業（4）
6回目 実際の教材づくり（2）	14回目 教材解釈の能力とは？
7回目 資料活用の技能を磨く	15回目 授業の評価・講評
8回目 学習指導案の作成方法	

◆教科書 [当日資料配布] 資料・レジュメを配布する。

◆参考書 [当日資料配布] 授業中に指示する。適宜に資料・レジュメを配布する。

◆成績評価基準 学習指導案を指定した分、作成して提出する。模擬授業を複数回行い、授業づくり（教材研究）への取り組み、グループワークへの参加度を加味して総合的に評価する。毎回出席を前提とする。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆市民に役立つ刑事訴訟法

(刑事訴訟法)

金曜日 1 時限

オープン受講：不可

開講単位 2 単位

担当者：船山 泰範

◆**学修到達目標** 刑事訴訟法は本来、法曹のためにあるのではなく、市民（国民）のためにある。ところがそのように理解されないのは、講ずる側にも責任があるのかもしれない。市民の目で刑事訴訟法を見ることにしよう。

◆**授業方法** 講義を中心とするが、質問の時間を設けるので、遠慮なく質問し、できるだけ疑問を解消してほしい。解説付き裁判傍聴を組み込むので、授業の一環として参加すること。

◆**準備学修** 教科書ならびに参考書を予習して臨んでほしい。刑法総論・各論を復習しておいて頂きたい。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 刑事法学は人を幸福にする学問	9回目 猶予制度の全貌
2回目 危惧感説（過失犯）の狙いの2番目	10回目 告訴と被害届
3回目 刑事裁判を求める理由	11回目 検察審査会制度は役立っているか
4回目 事実認定の刑訴の目的の一つ	12回目 逮捕されたらどうするか
5回目 事実認定の判断基準	13回目 裁判員制度の課題と展望
6回目 刑事司法と刑事裁判	14回目 訴因とは何か
7回目 刑事訴訟法の基本原則	15回目 解説付き裁判傍聴
8回目 刑罰とその他の制裁	

◆**教科書** 丸沼『NEXT 教科書シリーズ 刑事訴訟法』関正晴編 弘文堂 2,592 円（税込）（送料 300 円）

◆**参考書** 丸沼『福島原発、裁かれないのでいいのか』古川元晴・船山泰範 朝日新書 777 円（税込）（送料 215 円）

◆**成績評価基準** 期末試験（80%）、平常点（20%）

◆**授業相談（連絡先）：**

◆中国古代の哲学思想

〔東洋思想史Ⅰ〕

金曜日 1 時限

開講単位 2 単位 担当者：本間 直人

◆**学修到達目標** 中国古代の哲学思想を概観します。前期は孔子、孟子、墨子の思想を中心に理解を深めます。中国古代の哲学者・思想家たちの言葉は国を超えて、時代を超えて、現代に生きる我々に、生きる上でのヒントを与えてくれることでしょう。さらに、研究の意義、必要性などについても学びます。(前期のみの受講、後期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるため、前期・後期の連続受講が望ましい)

◆**授業方法** 中国古代の哲学者・思想家たち、それぞれの哲学思想の特質をつかむことに留意しながら、発表形式で授業を行います。又、レポートのまとめ方についても指導します。授業は漢文の講読を含みますが、漢文に慣れ親しんでいない場合をも考慮し、無理のないように進めていきます。したがって、東洋思想に興味を持ちながら、漢文に対する抵抗感から、今まで本格的な学習を思いとどまっていた方の受講も歓迎します。

◆**準備学修** 授業で取り上げる哲学者・思想家についての参考書は、数多く出版されています。図書館、又は書店で実際に手に取り、気に入った本を読んでみて下さい。すんなりと頭に入る事柄があれば、すぐには理解できない事柄もあることでしょう。しかしながら、そのことについて、じっくりと時間をかけ、自分の頭で考えることは、これから学習に特に重要なことなのです。

◆**履修条件** 平成27年度昼間・土曜スクーリング(前期)「東洋思想史Ⅰ」との積み重ね不可。

◆授業計画〔各90分〕

1回目 ガイダンス(研究の意義、必要性)	9回目 孟子の思想について(人物・生涯)
2回目 孔子の思想について(人物・生涯)	10回目 孟子の思想について(人性論)
3回目 孔子の思想について(『論語』)	11回目 孟子の思想について(運命論)
4回目 孔子の思想について(宗教観、殷周革命)	12回目 墨子の思想について(人物・年代)
5回目 孔子の思想について(宗教観、『論語』)	13回目 墨子の思想について(非命説)
6回目 孔子の思想について(儒教)	14回目 墨子の思想について(<天>と<命>)
7回目 孔子の思想について(『詩經』)	15回目 学習内容のまとめ
8回目 孔子の思想について(運命觀)	

◆**教科書** 通材『東洋思想史Ⅰ P20300』 通信教育教材(教材コード000392) 1,950円(送料込)

〔当日資料配布〕 当日プリント配布。漢和辞典を用意してください。

◆**参考書** 指定しない。

◆**成績評価基準** 授業への取り組み(発表など)・レポート・テストにより総合的に評価します。

◆**授業相談(連絡先)：**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆成熟社会の中の経済地理学

〔経済地理／経済地理学〕

金曜日 1 時限

開講単位 2 単位 担当者：田村 和彦

◆学修到達目標 成熟社会とはいえる、少子高齢化、グローバル化をはじめ様々な諸問題をかかえている。これらの諸問題について考えることとする。

◆授業方法 講義方式。

◆準備学修 様々なメディアから産業を中心とする経済諸問題について考察すること。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 経済地理学の定義	9回目 経済のサービス化と情報化の空間①
2回目 経済活動と経済空間①	10回目 経済のサービス化と情報化の空間②
3回目 経済活動と経済空間②	11回目 流通空間と経済空間
4回目 成熟社会の生活空間①	12回目 消費者行動と流通業
5回目 成熟社会の生活空間②	13回目 購買行動に及ぼす情報化の影響
6回目 経済活動空間と生活空間	14回目 流通業における情報化の影響
7回目 経済のサービス化について	15回目 まとめ
8回目 経済の情報化について	

◆教科書 **通材**『経済地理 S32200／経済地理学 R32600』通信教育教材（教材コード 000233）
2,050 円（送料込）

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 最終筆記試験。

◆授業相談（連絡先）：

◆知の歴史を概観する

〔哲学 B〕

金曜日 2 時限

開講単位 2 単位 担当者：中澤 瞳

◆学修到達目標 本講義の目標は、古代から近代までの西洋の哲学の歴史を、それぞれの時代を代表する著名な思想家の発言とされる文章、考え方を通して理解することである。哲学を難解な学問だと忌避するのではなく、ありがたいものとして崇めまつることもなく、参加者それぞれが自分の視点を意識しながら、哲学的な考え方に向かうことができるようになることを目的とする。

◆授業方法 講義形式で行う。資料プリントを読み進めつつ、まとめていく。進行具合によっては、授業計画に記載した内容が前後する場合がある。その際は、随時授業中に指示する。また、複数回の小レポート（授業内で記述し、提出する簡単なレポート）を行う。

◆準備学修 哲学史の概説書、入門書を読むことは理解を深めるのに役立つ。参考文献は授業ごとに紹介する。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 ガイダンス	9回目 デカルト
2回目 ソクラテス	10回目 スピノザ、ライブニッツ
3回目 プラトン	11回目 ロック
4回目 アリストテレス	12回目 バークリー
5回目 古代の哲学者たち	13回目 ヒューム
6回目 中世の哲学	14回目 フランス啓蒙思想家たち
7回目 科学革命	15回目 まとめ・筆記試験
8回目 デカルト	

◆教科書 **当日資料配布** 資料は授業ごとに配布する。

◆参考書 **通材**『哲学 B10700』通信教育教材（教材コード 000404）3,350 円（送料込）
〈この教材は市販の『西洋思想の要諦周覧』嘉吉純夫・齋藤隆編著（北樹出版）と同一です〉

◆成績評価基準 授業への参加、貢献（20%）、小レポート（30%）、試験（50%）により総合的に評価する。なお、評価は毎回出席することを前提としている。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆英語の基礎力を身につける

★☆☆ [英語 H] (初級)

金曜日 2 時限

開講単位 1 単位 担当者: 福島 昇

◆学修到達目標 [初級] TOEIC 350 点程度の英語表現で用いられる文法事項の基礎力を身につける。

TOEIC 350 点程度の英語表現で用いられる語彙の基礎力を身につける。

TOEIC 350 点程度の英語表現で用いられる内容を把握する基礎力を身につける。

◆授業方法 高校生までに学習した内容を踏まえ、社会における実用的な英語表現に関する英語運用能力の重要性を理解させた上で、そのための英語学習を主体的に進める。学習内容としては、英語運用能力をさらに養うことを目指して、実用的な英語表現およびそこで必要とされる基本的文法を学習する。

◆準備学修 * 授業計画にしたがって準備学修をする。

* 教科書の予習・復習の際、よくわからないところを明確にして授業に臨む。

* 英文音読や英語で話す際、強弱リズム・音の連結・音の同化現象・sense group などに注意する。

* 予習と復習を必ず行い、疑問点は教員の説明を聞いて、さらに質問をして疑問点を解決する。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 ガイダンス。授業の方針、学修到達目標確認試験について	9回目 Listening Trainer: 18-19. TOEIC のプリント. The Orchard Walls (2) 小テスト
2回目 Listening Trainer: 6-7. TOEIC のプリント. Man from the South (1) 小テスト	10回目 Listening Trainer: 20-21. TOEIC のプリント. The Orchard Walls (3) 小テスト
3回目 Listening Trainer: 8-9. TOEIC のプリント. Man from the South (2) 小テスト	11回目 Listening Trainer: 22-23. TOEIC のプリント. The Orchard Walls (4) 小テスト
4回目 Listening Trainer: 10-11. TOEIC のプリント. Man from the South (3) 小テスト	12回目 Listening Trainer: 24-25. TOEIC のプリント. The Orchard Walls (5) 小テスト
5回目 Listening Trainer: 12-13. TOEIC のプリント. Man from the South (4) 小テスト	13回目 期末試験: Listening Trainer: 16-25. TOEIC のプリント. The Orchard Walls : 19-41.
6回目 Listening Trainer: 14-15. TOEIC のプリント. Man from the South (5) 小テスト	14回目 学修到達目標確認試験 (リスニングとリーディング)
7回目 中間試験: Listening Trainer: 1-15. TOEIC のプリント. Man from the South 1-18.	15回目 前期のまとめ、試験の結果発表、前期の総括、英語の基礎力を身につけるための助言
8回目 Listening Trainer: 16-17. TOEIC のプリント. The Orchard Walls (1) 小テスト	

◆教科書 **事前資料送付** 丸沼『英語耳を鍛えるリスニングドリル』*Listening Trainer for English Communication*
(南雲堂) 1,404 円 (税込) (送料 215 円), TOEIC 350 点程度のプリントを配布

事前資料送付 丸沼『ダールとレンデル: ミステリー短編集』*Four Mysteries by Dahl and Rendell*
(朝日出版社) 1,362 円 (税込) (送料 215 円)

◆参考書 高等学校で使用した英語の教科書。教室で説明します

◆成績評価基準 小テスト: 25%, 中間試験: 25%, 期末試験: 25%, 学修到達目標確認試験: 25%

◆授業相談 (連絡先):

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆中学英語をフランス語に変換します

〔フランス語Ⅰ・Ⅱ〕

金曜日 2 時限

開講単位 1 単位 担当者：大庭 克夫

◆学修到達目標 英語にすれば中1レベルの内容が、仏語でも言えて・書けて・聴き取れるようにするのが目標です。前期はまず仏語の発音の規則（＝綴り字と発音との関係）をしっかりと習得することから始まり、その後基本的な名詞、冠詞の使い分け、提示の仕方、3種類の動詞の活用（＝人称変化）等を身に付けて、簡単な文章が作れるようになります。

◆授業方法 中学の英語をベースに、基本的な単語、提示の仕方、動詞の人称変化などを学習します。なお授業は＜講義形式＞ではなく＜ゼミ形式＞で進めていきます。1回の授業で最低4～5回は当てて答えてもらいます。

◆準備学修 未習外国語の学習はレンガを1段ずつ垂直に積み上げていくのと同じです：2段目のレンガが1段目の上にしか絶対に載らないように、仏語も第1課の内容をきちんと身に付けない限り第2課の内容を習得することは不可能です。前週に習った事柄をしっかりと覚えてから翌週の授業に臨むこと、これが取りも直さず最大の予習です。

◆履修条件 平成27年度昼間・土曜スクーリング（前期）「フランス語Ⅰ・Ⅱ」との積み重ね不可。

◆授業計画〔各90分〕

1回目 アルファベ、綴り字と発音との関係1	9回目 動詞<être>（=be動詞）の活用と用例
2回目 綴り字と発音との関係2	10回目 動詞<avoir>（=have）の活用と用例
3回目 綴り字と発音との関係3	11回目 第1群規則動詞の活用と用例1
4回目 不定冠詞と基本的な名詞	12回目 第1群規則動詞の用例2
5回目 部分冠詞と基本的な名詞	13回目 まとめとヒヤリング演習
6回目 定冠詞と提示の仕方	14回目 前期期末試験
7回目 数詞（1～10）、指示形容詞	15回目 前期期末試験の返却と解説、後期展望
8回目 前期期末試験	

◆教科書 **〔当日資料配布〕** 授業で使用するプリントとCDは授業時にこちらで配布します。いずれも市販の教科書よりはるかに分かりやすく、丁寧にできているという自信があります。

履修が確定したら（=5月以降）仏和辞典を必ず1冊用意してください。引いた痕跡の一切残らない電子辞書は個人的にはお薦めしません。初回授業時に手頃な辞書を何冊か紹介します。

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 試験は中間と期末の2回行い、成績はこの試験の結果で判定します。なお試験は全問＜和文仏訳＞と＜ヒヤリング形式＞（=原文を書き取ったのち和訳）で出題します。安直な和訳・穴埋め・択一などは一切出題しません

◆授業相談（連絡先）：

◆歴史学の論文を書くために

〔史学概論〕

金曜日 2 時限

開講単位 2 単位 担当者：高綱 博文

◆学修到達目標 歴史学という学問の性格及び目的を明らかにし、また歴史学を学んでいく上で必要不可欠な基礎的・技術的な知識を学習する。さらに激動する現代世界に対応するために現在進行しつつある歴史学の革新について学び、「新しい歴史学」のあり方について考える。なお、前期・後期続けて受講することが望ましい。

◆授業方法 歴史学の使命・技法及び革新について論述し、授業中に配布した資料を解説しながら行う。後期には受講生全員に卒業論文のテーマの概要と研究計画について報告してもらいます。

◆準備学修 下記の参考文献を予め学習しておくことが望ましい。

◆授業計画〔各90分〕

1回目 ガイダンス	9回目 近代歴史学の成立（3）
2回目 歴史学とは何か（1）	10回目 近代歴史学の成立（4）
3回目 歴史学とは何か（2）	11回目 現代歴史学の展開（1）
4回目 歴史学と何か（3）	12回目 現代歴史学の展開（2）
5回目 歴史学とは何か（4）	13回目 現代歴史学の展開（3）
6回目 歴史学とは何か（5）	14回目 現代歴史学の展開（4）
7回目 近代歴史学の成立（1）	15回目 前期のまとめ
8回目 近代歴史学の成立（2）	

◆教科書 指定しない。

◆参考書 **丸沼**『歴史学ってなんだ?』小田中直樹 PHP新書 734円（税込）（送料215円）
丸沼『歴史学入門』福井憲彦 岩波書店 1,836円（税込）（送料300円）

◆成績評価基準 試験（50%）、リポート（50%）。毎回出席することを前提として評価します。

◆授業相談（連絡先）：

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ロシアの政治、文化、社会1（近現代ロシア史） [西洋史特講Ⅰ]

金曜日 2時限

開講単位 2単位 担当者：池本 今日子

◆学修到達目標 相互に関係するロシアの国家、社会、文化、外交の歴史の特徴について、事実に沿って理解出来る。

◆授業方法 ロシアの外交、内政、文化の歴史は深く絡み合っている。この授業では、カタリーナ時代の改革と文化的開花からはじめ、19世紀前半のロシアの政治、外交、文化の歴史を具体的に辿り、その特徴について考察する。定式的な理解とは違う事実も積極的に紹介する。DVDなどで視覚的に理解出来るようにする。

◆準備学修 ロシア史の入門書でもよいが、小説、歴史小説を読む、あるいは、映画など積極的に鑑賞するとよい。教場でも紹介する。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 導入。ピョートル改革	9回目 アレクサンドル1世⑤後期の政治
2回目 カタリーナ2世	10回目 アレクサンドル1世⑥社会と文化
3回目 18世紀から19世紀へ	11回目 ニコライ1世①内政
4回目 パーヴェル	12回目 ニコライ1世②文化、思想
5回目 アレクサンドル1世①初期の改革	13回目 ニコライ1世③社会
6回目 アレクサンドル1世②初期の外交	14回目 ニコライ1世④外交
7回目 アレクサンドル1世③1812年戦略	15回目 まとめ
8回目 アレクサンドル1世④1812年戦争	

◆教科書 [当日資料配布] プリント配布。

◆参考書 教場で指示。

◆成績評価基準 試験の成績 80%、リアクションペーパー 20%

◆授業相談（連絡先）：

◆歴史の中に商業を見る [商業史]

金曜日 2時限

開講単位 2単位 担当者：横山 則彦

◆学修到達目標 商学に関連する学問を学ぶにあたって、ひととおり商業の歴史にも通じておくことは必要であろう。そこで、商業も歴史的展開についての概要の理解を深める。

◆授業方法 講義形式で進めていくが、必要に応じて「史料」の読みもおこないたいと思っているので、その際には各自に読んでもらうことも考えている。

◆準備学修 高等学校の教科書「日本史B」「世界史B」の中に登場する商業関連の用語をひろっておいてほしい。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 商業史とは	9回目 幕藩社会と商業
2回目 人間社会における商業の発生	10回目 近世における交通の整備
3回目 古代・中世における商業（西洋）	11回目 度量衡の整備
4回目 日本古代における商業	12回目 近世の貨幣制度
5回目 律会国家と商業	13回目 近世初期の豪商
6回目 東市と西市	14回目 近世初期特権門閥商人
7回目 店舗商業の出現	15回目 まとめ（テスト）
8回目 中世に商業	

◆教科書 通材『商業史 S32100』 通信教育教材（教材コード 000197） 3,950円（送料込）
<この教材は市販の『日本商業史』藤田真一郎 他著（有斐閣）と同一です>

◆参考書 『体系日本史叢書13 流通史1』豊田武 児玉幸多 編
『岩波講座世界歴史』古代・中世編
<上記の本は品切れのため図書館等を利用して下さい>

◆成績評価基準 平常点 20% 試験 80%

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆スポーツトピックで楽しく学ぶ易しい英語 ★☆☆ [英語 J] (初級)

金曜日 3 時限

開講単位 1 単位 担当者: 中村 則子

◆学修到達目標 2020 年に開催される東京オリンピックに向けてスポーツへの関心が高まっている。この科目では易しい英文で書かれたスポーツのトピックを読み解し、演習問題を解くことで楽しく英語を身につけていく。最終的な目標は英語の総合能力を養うことにある。

◆授業方法 テキストに沿って、英文を読み、演習問題を行うことで、英語の 4 技能のうち主に reading のスキルを習得していく。まず CD で音声を確認し、英文を音読してから、その内容を発表してもらう。進み具合により、シラバス通りにならない場合もあることをおことわりしておく。

◆準備学修 ガイダンスは初回のみ行うので受講希望者は初回から出席することが望ましい。テキストができるだけ早く入手し、最初の章に目を通して、判らない単語を辞書で調べて演習問題を解き、充分に予習しておくこと。また、日々から、英語の記事を視聴したりして、スポーツに限らず、メディアから英語で情報を入手する作業をしてほしい。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 ガイダンス	9回目 Unit4 Competition
2回目 Unit1 The Long Wait	10回目 Unit5 A Glamorous?
3回目 Unit1 The Long Wait	11回目 Unit5 A Glamorous?
4回目 Unit2 Olympic Volunteers	12回目 Unit6 Energy Drinks
5回目 Unit2 Olympic Volunteers	13回目 Unit6 Energy Drinks
6回目 Unit3 Male Sports? Female Sports?	14回目 復習もしくは小テスト
7回目 Unit3 Male Sports? Female Sports?	15回目 期末試験
8回目 Unit4 Competition	

◆教科書 丸沼『Spotlight on Sports』金星堂 2,052 円 (税込) (送料 215 円)

◆参考書 参考書、辞書はガイダンスにて指示。

◆成績評価基準 発表を含めた授業への取り組み、試験による総合評価。

◆授業相談 (連絡先):

◆政治を見る眼を養う

[政治学原論]

金曜日 3 時限

開講単位 2 単位 担当者: 吉野 篤

◆学修到達目標 政治概念の歴史的変容を古典古代から 20 世紀にいたるまで跡付け、政治の機能・意義を把握すること。そのことによって、現在の政治問題を考えるうえで、歴史的視野が必要であることを理解してもらうこと。

◆授業方法 基本的に講義形式で行う。ほぼ毎回、現代政治の課題を考えるために資料を主として新聞報道を材料として配布し、今、政治の世界に何が起きていて、どのような対応を迫られているかを考えたい。

◆準備学修 事前にテキストによって学習内容のアウトラインを把握し、何が問題であるのかをよく整理すること。普段からメディアの政治報道に关心を持ち、現実の政治の動きに注意すること。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 イントロダクション (テーマ設定)	9回目 市民革命の政治過程②
2回目 古典古代の政治概念①	10回目 市民革命期の政治概念
3回目 古典古代の政治概念②	11回目 保守主義の生成と展開
4回目 中世ヨーロッパの政治像	12回目 社会主義の政治理論
5回目 マキャベリの政治概念	13回目 丸山真男による政治の概念化
6回目 社会契約説の考え方①	14回目 20 世紀の政治状況
7回目 社会契約説の考え方②	15回目 大衆民主主義の政治理論
8回目 市民革命の政治過程①	

◆教科書 丸沼『政治学』山田光矢編著 弘文堂 2,160 円 (税込) (送料 300 円)

◆参考書 授業のときにその都度指示する

◆成績評価基準 基本的には定期試験で評価する。平常点として出席を加味する。

◆授業相談 (連絡先):

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆シェイクスピア

〔西洋古典〕

金曜日 3 時限

開講単位 2 単位 担当者：福島 昇

◆学修到達目標 シェイクスピアだけでなく、その他の西洋演劇、日本演劇（歌舞伎、文楽、能・狂言、新派、大衆演劇）なども理解できる。

◆授業方法 シェイクスピアと『恋の骨折り損』の諸問題について議論し、批評的感想（おしゃべり）などを述べる習慣を身につける。ギリシア悲劇、現代劇、黒人演劇、日本演劇、日本文学などにも話題を広げる。

◆準備学修 *Love's Labour's Lost* を事前に読んでおくこと。毎回 70 行ぐらい読むことを目標とする。授業の最後に次回の授業の範囲を説明します。詳しくは下記の授業計画を参照。予習と復習を必ず行い、疑問点は教員の説明を聞いて、さらに質問をして疑問点を解決する。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス：授業の方針、学修到達目標確認試験について	9回目 <i>Love's Labour's Lost</i> 1.2.119–2.1.12
2回目 <i>Love's Labour's Lost</i> 1.1.1–1.1.69	10回目 <i>Love's Labour's Lost</i> 2.1.13–2.1.80
3回目 <i>Love's Labour's Lost</i> 1.1.70–1.1.140	11回目 <i>Love's Labour's Lost</i> 2.1.81–2.1.152
4回目 <i>Love's Labour's Lost</i> 1.1.141–1.1.209	12回目 <i>Love's Labour's Lost</i> 2.1.153–2.1.222
5回目 <i>Love's Labour's Lost</i> 1.1.210–1.1.279	13回目 <i>Love's Labour's Lost</i> 2.1.153–2.1.222
6回目 <i>Love's Labour's Lost</i> 1.1.280–1.2.50	14回目 学修到達目標確認試験（期末試験）：1.2.51–2.1.222
7回目 学修到達目標確認試験（中間試験）：1.1.1–1.2.50	15回目 前期のまとめ、試験の結果発表、前期の総括
8回目 <i>Love's Labour's Lost</i> 1.2.51–1.2.118	

◆教科書 『恋の骨折り損』 William C. Carroll 編集 *Love's Labour's Lost : The New Cambridge Shakespeare* (Cambridge : Cambridge University Press, 2001). ペーパーバック。
※丸沼書店では取り扱っていませんので、Amazon 等で購入してください。

◆参考書 高等学校で使用した英語の教科書。教室で説明します。

◆成績評価基準 学修到達目標確認試験（中間試験：50%，期末試験：50%）

◆授業相談（連絡先）：

◆世界、日本とのアメリカ経済の学修

〔アメリカ経済論〕

金曜日 3 時限

開講単位 2 単位 担当者：小林 通

◆学修到達目標 本講義の到達目標は、アメリカ経済の動向を時系列的経緯や経済理論との関連によって学修し、そこから現実のアメリカ経済が、世界・日本経済にどのような影響を与えていたのかを理解することにあります。具体的には新聞・雑誌に掲載されているアメリカに関する経済記事や経済問題を世界との動向でそれを理解できることにあります。

◆授業方法 授業方法は、講義の内容が一方的にならないように注意し、その理解度を勘案して双方的な関係で受講生の自主性や学習意欲を高めるように工夫します。具体的には受講生の質問を通じてその理解度を測ったり、単元ごとに講義の内容に沿った課題を授業中に提出し、受講生みんなでその問題について回答するように進めていきます。

◆準備学修 準備学修は、以下のような授業計画に沿って講義を進めますが、講義の内容や時間の都合によって思ったように実施できないこともあります。そのため受講生は、新聞などをできるだけ毎日読むようにしていただきたいと思います。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 一般的経済の見方・考え方	9回目 パックスアメリカーナ
2回目 アメリカ経済の捉え方	10回目 マーシャルプランの意義
3回目 世界の中のアメリカ経済	11回目 アメリカ中心の gatt・imf
4回目 日本経済とアメリカ経済	12回目 ケネディ・ラウンド
5回目 1920 年代のアメリカ経済	13回目 日米貿易摩擦の推移
6回目 1930 年代の世界経済	14回目 日米織維紛争
7回目 ケインズ経済理論の応用	15回目 日米農産物交渉
8回目 ニューディール政策の効果	

◆教科書 使用せず。

◆参考書 〔丸沼〕『国際政治経済学新講』小林他共編 時潮社 2013 年 3,024 円（税込）（送料 300 円）

◆成績評価基準 受講生の出席を基準として、単元ごとに終了した後の課題、小テストおよび学期末試験の成績により評価します。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆市場の情報を入手する

〔市場調査論〕

金曜日 3 時限

開講単位 2 単位

担当者：最上 健児

◆学修到達目標 市場調査論のプロセスを理解し、一連の調査を設計できるようになる。

調査目的に照らして適正なデータを収集できるようになる。

収集されたデータに適切な分析を当てはめ分析結果を解釈できるようになる

統計量と分析手法を本質的に理解する。

◆授業方法 講義計画の前半に伝統的な市場調査のプロセスを説明し、マーケティングにおける市場調査の役割を説明する。続いて、情報を集約する方法として統計量について説明する。とくに二つの変数間の関わりを表す指標である相関係数を説明し、最終的に回帰分析を紹介する。

◆準備学修 毎回の授業では一回ごとに完結する話題となるよう配慮しているが、全講義を通じて大きな一つの話題を取り扱っている。欠席した場合などは欠席したときの資料を熟読し、内容を把握しておくことが望ましい。

◆履修条件 平成 27 年度昼間・土曜スクーリング（前期）「市場調査論」との積み重ね不可。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 市場調査の基礎概念	9回目 直線の当てはめ
2回目 市場調査のプロセス	10回目 一次導関数
3回目 市場調査の統計量	11回目 最小二乗法
4回目 集計と分析	12回目 決定係数
5回目 平均と分散	13回目 統計的検定
6回目 共分散と相関係数	14回目 重回帰分析
7回目 相関係数の範囲	15回目 まとめ
8回目 直線上の値の共分散と相関係数	

◆教科書 インターネットより配信する
http://www.geocities.jp/mogami_shiryoukan/

◆参考書 丸沼『リテールデータ分析入門』上田 隆穂他 (株)中央経済社 発行 3,024 円 (税込) (送料 300 円)

◆成績評価基準 レポートにより評価する。(100%)

◆授業相談（連絡先）：

◆「違い」を理解する目を養おう

〔社会学〕

金曜日 4 時限

開講単位 2 単位

担当者：服部 慶亘

◆学修到達目標 この講義は、社会を「二人以上の人間による生活共同体」という視点で展開される。二人以上の「人間」について語られるのであって、二人以上の「ヒト」ではない。このように、我々の生活環境の中には一見すると同じように見えて実は性格（性質）が異なるものが少なくない。それらを「違い」としてキチンと説明できるような「社会科学的発想の修得」を目指すのが、本講義の目的である。なお、後期も続けて履修できることが望ましい。

◆授業方法 教科書・プリント・板書（パワーポイント）などを用い、受講生自身も陥りがちな問題点を指摘・解説する。必要に応じて視聴覚資料（CD, DVD, マンガ, その他）を多用する。また、学生に質問を投げかけ、対話とシミュレーションを展開しながら講義を進めていく。よって、講義を単に「聴く」のではなく、講義に「参加」する意欲が好成績につながるものと思われる。また、後期の講義内容への橋渡しも随時行う。

◆準備学修 特別な予習は必要としないが、講義で紹介された事例・法則・理論・概念などを自分自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）した上で、次の講義にのぞんではほしいと思う。社会学を単なる「机上の学問」としてではなく、日常の（あるいは自分自身の）あらゆる場面と密接に関連した学問としてとらえてほしい。

◆履修条件 平成 27 年度昼間・土曜スクーリング（前期）「社会学」との積み重ね不可。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 講義目標・目的の確認	9回目 「人間」と「ヒト」⑤ 人間の定義②
2回目 「違い」を理解する視点① 知識と技術	10回目 「人間」と「ヒト」⑥ 役割演技①
3回目 「違い」を理解する視点② 絶対と相対	11回目 「人間」と「ヒト」⑦ 役割演技②
4回目 「違い」を理解する視点③ 行為と行動	12回目 「人間」と「ヒト」⑧ アイドル工学
5回目 「人間」と「ヒト」① 社会の定義	13回目 「人間」と「ヒト」⑨ 「らしさ」について①
6回目 「人間」と「ヒト」② 福祉的観点	14回目 「人間」と「ヒト」⑩ 「らしさ」について②
7回目 「人間」と「ヒト」③ 生理的早産	15回目 まとめ
8回目 「人間」と「ヒト」④ 人間の定義①	

◆教科書 丸沼『人間生活の理論と構造』夏刈康男（ほか）学文社 2,700 円 (税込) (送料 350 円)

丸沼『補強版ストレス・スパイラル』服部慶亘 人間の科学社 1,296 円 (税込) (送料 300 円)

◆参考書 当日資料配布）プリント配布。

◆成績評価基準 終講試験 (70%), 受講態度 (20%), レポート類 (10%) で評価する。なお、全講義回数の 3 分の 2 以上の出席が原則（公欠などは申し出ること）。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆基礎から始めるやさしい英語

〔英語基礎 B〕

金曜日 4 時限

開講単位 1 単位 担当者：中村 則子

◆学修到達目標 この科目では忘れかけている英語の基礎文法を詳しく丁寧に学び直すことで英文の読解力を身につけていく。最終的な目標は英語の総合能力を養うことにある。

◆授業方法 テキストに沿って、解説を読み、演習問題を行うことで、英語の文法の基礎を習得する。まず CD で音声を確認し、英文を音読してから、その内容や演習問題の解答を発表してもらう。進み具合により、シラバス通りにならない場合もあることをおことわりしておく。

◆準備学修 ガイダンスは初回のみ行うので受講希望者は初回から出席することが望ましい。テキストができるだけ早く入手し、最初の章に目を通して、判らない単語を辞書で調べて演習問題を解き、充分に予習しておくこと。また、日々から、英語の音楽を聴いたり、洋画を見たりして、英語の世界に親しんでほしい。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 ガイダンス	9回目 Unit8 代名詞
2回目 Unit1 be 動詞	10回目 Unit9 前置詞
3回目 Unit2 一般動詞（現在）	11回目 Unit10 形容詞・副詞
4回目 Unit3 一般動詞（過去）	12回目 Unit11 比較
5回目 Unit4 進行形	13回目 Unit12 命令文・感嘆文
6回目 Unit5 未来形	14回目 復習もしくは小テスト
7回目 Unit6 助動詞	15回目 期末試験
8回目 Unit7 名詞・冠詞	

◆教科書 〔丸沼〕『English Primer (Revised Edition)』南雲堂 2,052 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書 参考書、辞書はガイダンスにて指示。

◆成績評価基準 発表を含めた授業への取り組み、試験による総合評価。

◆授業相談（連絡先）：

◆江戸の淨瑠璃・上方の淨瑠璃－語り物の世界

〔国文学概論〕

金曜日 4 時限

開講単位 2 単位 担当者：山崎 泉

◆学修到達目標 近世文学には多種多様なジャンルが存在しますが、本講義では芸能、特に淨瑠璃を取り上げます。一般に淨瑠璃というと義太夫節を連想しがちですが、実はそれ以外にも様々な種類の淨瑠璃が今日まで伝承され続けています。これらの淨瑠璃を概観し、古典作品の多様な魅力発見を目指します。

◆授業方法 主に講義形式で行います。配布したプリントの内容に即した講義を行って各ジャンルの特色及び歴史を概観した後、文字資料及び視聴覚資料を活用した作品の鑑賞を行い、具体的な作品への理解を深めていきます。

◆準備学修 図書館にある文学史関連の文献を活用して、近世文学史を一通り予習しておいて下さい。また、『国文学概論』のテキストを所持している学生は、「淨瑠璃」「歌舞伎狂言」の項目にも目を通しておきましょう。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 三味線の伝来と語り物	9回目 豊後系淨瑠璃の世界③
2回目 淨瑠璃の歴史	10回目 豊後系淨瑠璃の世界④
3回目 当流淨瑠璃の世界（義太夫節）①	11回目 江戸の淨瑠璃（河東節）①
4回目 当流淨瑠璃の世界（義太夫節）②	12回目 江戸の淨瑠璃（河東節）②
5回目 当流淨瑠璃の世界（義太夫節）③	13回目 歌い物の中の淨瑠璃①
6回目 一中節と豊後節の誕生	14回目 歌い物の中の淨瑠璃②
7回目 豊後系淨瑠璃の世界①	15回目 まとめ
8回目 豊後系淨瑠璃の世界②	

◆教科書 〔当日資料配布〕当日プリントを配布します。

◆参考書 授業時に紹介します。

◆成績評価基準 平常点（20%）、試験（80%）。毎回出席することを前提として採点します。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆多様な宗教現象を理解する 1

〔宗教学概論〕

金曜日 4 時限

開講単位 2 単位 担当者：合田 秀行

◆学修到達目標 多様な宗教現象を理解する上で、前半では、宗教を学ぶ意義を確認し、宗教の定義や宗教学の歴史などについて学びます。続いて、諸宗教に共通する基本的な概念についての理解を深め、後半では、世界の諸宗教の中から、主にセム系一神教と称されるユダヤ教・キリスト教・イスラームのそれぞれについて、その歴史と教義をよく深く理解することを目的とします。

◆授業方法 指定した教科書に基づいて、講義形式で進めますので、必ず下記のテキストを用意して下さい。映像資料も活用して理解を深めます。また、講義内にも質問を受けますが、毎回配布する出席票の裏に質問事項を書いてもらい、質問の数にもよりますが、内容に応じて、次回の講義で解説するようにします。

◆準備学修 1回の講義につき、平均して3項目から4項目程度（1項目につき2ページ）を目安にして進めています。必ず次回の範囲を事前によく読んで講義に臨んでください。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス 宗教を学ぶとは	9回目 ユダヤ教 2
2回目 宗教学の歴史・宗教の分類	10回目 キリスト教 1
3回目 宗教の起源と進化	11回目 キリスト教 2
4回目 神話・儀礼・教典・象徴	12回目 キリスト教 3
5回目 巡礼・教祖・信者・回心	13回目 イスラーム 1
6回目 信仰実践・布教・宗教組織	14回目 イスラーム 2
7回目 崇拝自然・シャーマニズム・古代宗教	15回目 まとめ
8回目 ユダヤ教 1	

◆教科書 丸沼『よくわかる宗教学』櫻井義秀・平藤喜久子編著 ミネルヴァ書房 2,592 円（税込）（送料 350 円）

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 平常点（30%） 試験（70%） 原則的に3分の2以上、出席していることを評価の前提とします。

◆授業相談（連絡先）：

◆日米文化の違いを学ぶ

★★☆〔英語 K〕（中級）

金曜日 5 時限

オープン受講：不可

開講単位 1 単位

担当者：青木 克憲

◆学修到達目標 日的なテーマ（スポーツ、カラオケなど）について、日米の文化、考え方の違いを学ぶ。Reading の箇所で読解力を身につけると同時に、練習問題を通して読む力、文法力、listening の力も身につけるようにする。前期・後期の連続受講が望ましい。

◆授業方法 受講生に発表してもらう形で授業を行なう。本文の英文は1行（短い場合は2行）ずつ和訳してもらいうの後で、説明・補足などを加えて内容を検討する。練習問題は解答を答えてもらう。

◆準備学修 シラバスを参照して、次回に行なう箇所を辞書を引き、内容をまとめておくこと。問題は自分の解答を用意しておくこと。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 Lesson 1 Cherry blossoms	9回目 Lesson 8 Job hopping
2回目 Lesson 2 Names	10回目 今までのまとめ (L.5 ~ L.8)
3回目 Lesson 3 Sports	11回目 Lesson 9 Money or greeting cards ?
4回目 Lesson 4 Employment	12回目 Lesson 10 Cash or credit card ?
5回目 今までのまとめ (L.1 ~ L.4)	13回目 Lesson 11 Independence or parasite?
6回目 Lesson 5 Films	14回目 Lesson 12 Working year round
7回目 Lesson 6 Karaoke	15回目 授業全体のまとめ
8回目 Lesson 7 Shaking hands	

◆教科書 丸沼『Spotlight on America and Japan (ありのままの日米比較)』南雲堂 2,160 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書 授業中に必要に応じて紹介します。

◆成績評価基準 授業への取り組み（予習状況、練習問題）（30%）試験（70%）で評価します。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆幕末・明治期の日本政治

〔日本政治史〕

金曜日 5 時限

オープン受講：不可

開講単位 2 単位

担当者：石川 徳幸

◆学修到達目標 本講義では、近代日本において展開された政治を通史の形で学んでいく。歴史の流れを正しく把握するためには、時代ごとに区切って学ぶことは得策ではないが、便宜上、本講義では幕末から明治を対象とする。日本の近代国家形成の過程を理解するとともに、歴史的事象の見方や考え方を身につけてもらいたい。

◆授業方法 基本的には、教科書に沿った内容を講述する形で授業を進める。授業内容は、あくまでも初学者を対象とした内容で構成しているが、中学・高校の歴史科目で扱われている基本的な出来事や人物に関しては、おおむね理解していることを前提に話を進める。受講にあたっては、各自、ノートを必ず持参すること。

◆準備学修 予習として、事前に教科書の該当範囲に目を通しておくこと（毎時、授業終わりに次回に扱う範囲を告知する）。復習として、受講中にとったメモを整理し、ノートをまとめておくこと。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 イントロダクション	9回目 反政府運動
2回目 幕藩体制の動搖と開国	10回目 立憲政治への胎動
3回目 尊王討幕運動	11回目 内閣制度の創設と条約改正交渉
4回目 幕府権力の衰退	12回目 憲法制定と諸制度の改革・整備
5回目 幕府の終焉と王政復古	13回目 初期議会と日清戦争
6回目 新政権の骨格	14回目 議会政治の展開
7回目 集権化政策	15回目 総括
8回目 近代化政策	

◆教科書 通材『日本政治史 L30400』通信教育教材（教材コード 000452）3,100 円（送料込）

※資料がある場合は当日に配布する（欠席分の追加配布は行わない）。

◆参考書 ※参考書は、必要に応じて授業の中で紹介する。

◆成績評価基準 筆記試験の結果をもとに成績評価を行う。全体の 3 分の 1 を超える欠席がある場合、評価の対象としない。

◆授業相談（連絡先）：

◆実践情報リテラシー

〔情報概論 B〕

金曜日 5 時限

開講単位 2 単位

担当者：一島 力男

◆学修到達目標 まず、Windows 8 の基本操作とネットワーク上のパソコン利用について学ぶ。その上で、WWW による情報収集、ワードによる文書の表現方法、エクセルによるデータの集計方法について学ぶ。

◆授業方法 本講座では講義と演習の両方を行う。講義ではコンピュータネットワークの仕組と歴史などについて学ぶ。演習では、コンピュータを知的道具として利用できるようになることを目的として様々な課題に取り組む。
※授業は、Windows 8、Office2013 の環境で実施する。

◆準備学修 教科書の第 1 章に書かれている内容を予習しておくこと。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス	9回目 授業内テスト 1
2回目 コンピュータネットワークの概要	10回目 エクセル（1）
3回目 Windows 8 の基本操作とネットワーク利用	11回目 エクセル（2）
4回目 WWW とサーチエンジンの利用	12回目 エクセル（3）
5回目 ワード（1）	13回目 エクセル（4）
6回目 ワード（2）	14回目 授業内テスト 2
7回目 ワード（3）	15回目 まとめ
8回目 ワード（4）	

◆教科書 丸沼『30 時間でマスター Word & Excel 2013 Windows 8 対応』実教出版編修部 972 円（税込）
(送料 350 円)

◆参考書 授業中に指示する。

◆成績評価基準 実習課題（40%）、提出課題（20%）、授業内テスト（40%）により総合評価する。
※授業に毎回出席することを前提に評価する。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆土曜日集中で 650 点レベルを目指して TOEIC にチャレンジしましょう [TOEIC B]

土曜日 1・2 時限

開講単位 1 単位 担当者：町田 純子

◆**学修到達目標** 5 月から変更の新 TOEIC の出題問題の傾向を探り慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力 (Communicative Competence) を習得します。又同時に最低限の基礎文法知識の確認と定着や、語彙力増強、頻出会話表現を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をブラッシュアップできます。

◆**授業方法** 2 コマ連続の講座。前期後期の連続受験が望ましいです。リスニング (Part1 ~ Part4) 及びリーディング (Part5 ~ Part7) の練習問題形式のテキストに沿い、基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図ります。又、音声の基礎知識を整理し、特有の話し言葉に慣れれます。毎回基礎英単語から TOEIC 頻出範囲までの単語熟語力確認テストを行います。ガイダンス時に実力診断テストを行います。(受講人数で変更有り)

◆**準備学修** ガイダンスでは、シラバス内容を確認の上、授業に臨み、授業計画を確認の上、予習、復習をしてください。単語教材を 7 回実施予定の英単熟語確認テストの準備として、初回講義前に購入してテストに備えてください。

◆授業計画 [各 170 分]

1 回目	レベルチェックテスト リスニング及びリーディング練習 (発音、発話、聴解、基礎文法、速読、読解) Unit 1 提案－時制 & Unit 2 確認－時制 2
2 回目	リスニング及びリーディング練習 (発音、発話、聴解、基礎文法、速読、読解、語彙テスト 1) Unit 3 会話を始める－助動詞 & Unit 4 ニュース報道－フレーズリーディング
3 回目	リスニング及びリーディング練習 (発音、発話、聴解、基礎文法、速読、読解、語彙テスト 2) Unit 5 義務一代名詞 & Unit 6 理由－前置詞
4 回目	リスニング及びリーディング練習 (発音、発話、聴解、基礎文法、速読、読解、語彙テスト 3) Unit 7 苦情－接続詞 & Unit 8 交通情報－スキャニング
5 回目	リスニング及びリーディング練習 (発音、発話、聴解、基礎文法、速読、読解、語彙テスト 4) Unit 9 Yes/No で答える質問－関係詞 & Unit 10 意見－分詞構文
6 回目	リスニング及びリーディング練習 (発音、発話、聴解、基礎文法、速読、読解、語彙テスト 5) Unit 11 意見の一致－仮定法 & Unit 12 会議－スキミング
7 回目	語彙テスト 6 まとめ
8 回目	語彙テスト 7 期末テスト (達成度チェックテスト)

◆**教科書** 丸沼『THE TOEIC TEST TRAINER TARGET 650』 Revised Edition ISBN 9784863122741

Masahiko Yamaguchi 他 センゲージラーニング 2,160 円 (税込) (送料 300 円)

丸沼『データベース 3000 基本英単語・熟語 (New Edition)』桐原書店 1,026 円 (税込) (送料 300 円)

◆**参考書** なし。

◆**成績評価基準** 全出席を前提に、平常点評価として、総合的にいたします。

単語小テスト 7 回と期末試験、毎回の宿題等にプラス α の加点要素として実力診断テスト結果の伸び率を含みます。

◆**授業相談 (連絡先) :**

◆古典文学作品から時代を読む

〔国文学基礎講義〕

土曜日 1・2 時限

開講単位 2 単位 担当者：木村 一

◆**学修到達目標** 前期のみの受講・後期のみの受講も可能だが、学修効果をあげるため、前期・後期の連続受講が望ましい。本講義は平安時代の文学作品を対象とします。実際の文学作品を読み、その時代がどのような有様であったか、その時代に成立した作品は何を物語っているのか、ということを捉えていきます。時代の流れを捉えることで、日本人の根底を形成しているものにふれることになります。対象とする作品は、和歌集と初期の物語です。そこに物語られている人間模様やものの考え方を知ることにより、次の文学研究の基礎を形成できるようになります。

◆**授業方法** 講義形式で授業を行います。講義指定テキストの解説と併せて、実際に文学作品を読んでいきます。ただし、ただ文学作品の内容だけを捉えることが目的のではありません。受講者諸君に積極的に思考・考察をしてもらうべく、授業時間内に複数回にわたって〈小課題〉を課すことにします。その課題は各セクションにおける各自の理解度・把握度を計る目安とします。そのかたいに対応するべく、各自積極的に講義ノートをとること。

◆**準備学修** 講義で指定したテキストの大まかな内容と流れとを事前に把握しておくこと。授業範囲に専門用語を事前に把握しておくこと。毎回の授業後、各自の講義ノートと指定テキストを基とし、整理復習をしっかりとこなし、次の講義につなげる努力をすること。次回の予告を聞き逃さず、次回の展開に即した指定テキストの内容の把握と作品内容の読み込みを行うこと。

◆授業計画 [各 170 分]

1回目	導入、どう進めるか—講義を始めるにあたって、どのように講義を展開していくかということの説明をします。 和歌とは—前期で最初に取り扱うのは和歌です。特に『古今和歌集』を対象とします。
2回目	『古今和歌集』とは—『古今和歌集』についての基本的な事項の確認とその時代背景を把握します。『古今和歌集』成立までの展開も把握します。
3回目	『古今和歌集』の時代は和歌はどのような存在であったのか。その時代はどのような状態であったのか、ということを把握します。
4回目	『古今和歌集』二つの序文—『古今和歌集』にある二つの序文の意義を確認します。文字の伝達とその成り立ちまでの展開も確認していきます。
5回目	和歌から物語へ—『古今和歌集』で学んだことを活かしつつ物語へ推移します。 両者間には密接なつながりがあり、その展開を把握します。
6回目	物語とは—物語とはどのようなものなのか。その意識を明確にします。物語の定義をしっかりと捉えることで、〈作者〉という概念を浮き彫りにします。
7回目	『伊勢物語』の展開—物語という捉え方から、虚構と実相の実際を捉えます。語られていることが何であるのか。単なるストーリーの展開だけではなく、語ることと実際のこととの差異を捉えます。
8回目	物語とはどのようなものであるのか。『伊勢物語』の構成と展開とを見ることで、語り手が語ることを実際に捉えていくことになります。最終時間は試験を行う。

◆**教科書** 通材『国文学基礎講義 M20100』 通信教育教材（教材コード 0000519） 3,050 円（送料込）

※平成 28 年度新教材

〈この教材は市販の『Next 教科書シリーズ 日本古典文学』近藤健史編（弘文堂）と同一です〉

〔当日資料配布〕実際の作品については、当日プリントを配布する。

◆**参考書** 電子辞書があると便利（電子端末不可）。

◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提とし、講義への取り組み・小課題の状況により総合的に評価する。

受講状況 (10%)・小課題 (10%)・試験 (80%)

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆簿記の基本を学びましょう

〔簿記論Ⅰ〕

土曜日 1・2 時限

開講単位 2 単位 担当者：遠藤 洋介

◆学修到達目標 初めて簿記を勉強する方を対象に、簿記の一連の流れ（会社の成績表ができるまでの流れ）を学んで頂きます。『帳簿をつける』ということや『決算』というものはどういうものなのかを理解して頂き、会社の成績表をつくるようになることを目標にしています。

前期のみの受講、後期のみの受講も可能ですが、簿記3級の内容をおおむね網羅されたい方は、前期・後期の連続受講が望まれます。

◆授業方法 まず、黒板を使って、テキストに書いている内容を簡単にまとめて解説します。

テキストには例題もありますので、黒板で解き方を解説し、イメージをもって頂きます。

その後、テキストやワークブックにある練習問題を各自で解いて頂き、解説や補足説明等を行います。

◆準備学修 授業内容は毎回つながっていますので、復習が大変重要になります。

各回の授業で勉強したことは、次回の授業までにもう一度復習するようにして下さい。

また、授業では電卓が必要となります（最初の授業の際に説明します）。

◆授業計画 [各 170 分]

1回目 簿記の意義としくみ、仕訳と転記

2回目 決算（精算表）、現金と預金

3回目 商品売買、売掛金と買掛金

4回目 その他債権と債務、受取手形と支払手形

5回目 有価証券、固定資産

6回目 資本金と引出金、収益と費用、伝票

7回目 財務諸表（精算表）

8回目 試験

◆教科書 丸沼『検定簿記講義 3級商業簿記』渡部裕亘・片山覚・北村敬子 中央経済社 756円（税込）（送料300円）

※テキスト・ワークブックは、初回の授業から使いますので、用意をして下さい。

丸沼『検定簿記ワークブック 3級商業簿記』渡部裕亘・片山覚・北村敬子 中央経済社 756円（税込）（送料300円）

※テキスト・ワークブックは、初回の授業から使いますので、用意をして下さい。

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 原則として、試験の結果により評価をします。

◆授業相談（連絡先）：

◆教師としての考え方

〔現代教職論〕

土曜日 1・2 時限

開講単位 2 単位 担当者：古賀 徹

◆学修到達目標 教職の意義、教員の資質、及び教員の役割、教員の職務内容（服務）、等に関する理解を深めることをねらいとする。自らの教職者としての適性を問い合わせ、教員に必要なものとは何かを考え深めることとする。現代の教育の現実的問題に焦点をあてて考察していく。

◆授業方法 講義形式を中心とするが、アクティブラーニング型の授業方式もとりいれる。活動・学習ごとにワークシート（ミニレポート）を書くこととそのフィードバックにより、さらに学習効果があがるよう試みる。

◆準備学修 この授業では、教員養成の段階で学んでもらるべき事項や学校現場で直面する課題を《題材》としてとりあげ、諸々の課題に対して“教員としてどのように考えるのか”という意識・心得をつくりあげられるようにするのがねらいです。授業以外にも、様々な教育問題、教育に関する話題・情報について関心をもち、のぞんでください。2回目までに、各々過去に受けた教育から判断できる「教師に必要とされる能力」について考え、ノート等に記し、発言の準備をしておくこと。10回目までの内容では「教師としてどのように動くべきか」という判断力について考えていくので、事前に様々なケースを想定してシミュレーションしておくこと。

◆授業計画〔各 170 分〕

1回目	① 教職を履修する意味（学習指導・生活指導） ② 教師の他者理解能力
2回目	① 教師の一日・教師の成長 ② 理想の教師とは？（グループワーク）
3回目	① 仮想・教職員会議（ロールプレイ） ② 学級運営・学習指導
4回目	① 最近の子ども事情（非行） ② 最近の子ども事情（いじめ）
5回目	① 最近の子ども事情（不登校） ② 最近の子ども事情に関する総括的ロールプレイ
6回目	① 教師観・教員養成の歴史的変遷（近代以降） ② 諸外国の教師養成のしくみ
7回目	① 法律上の教師（教員） ② 教員の研修（向上するための現職教育）
8回目	① 現場で求められる力とは？

◆教科書 **〔当日資料配布〕** 資料・レジュメを配布する。

◆参考書 **〔当日資料配布〕** 授業中に指示する。適宜に資料・レジュメを配布する。

◆成績評価基準 この授業の評価は、授業への参加（グループ学習含む）、提出物・課題、試験成績の総合的評価とする。出席状況の悪いもの、課題未提出の場合は評価を行なわない。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

MEMO

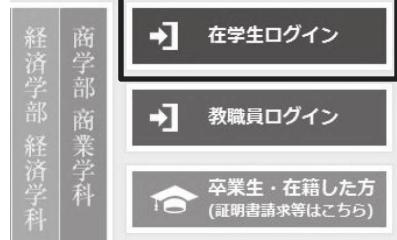
E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24161999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

1 履修登録

●履修登録の前に

1	履修登録には、IDとパスワードが必要です。 ID=学生番号 初期パスワード=自分の西暦生年月日（半角数字8桁）
2	履修登録の受付メールを受信するには、メールアドレスの登録が必要です。 「学生メニュー」の「学生情報照会・修正」より、メールアドレス及びメール送り先区分を事前に登録してください。

●履修登録方法

1	通信教育部公式ホームページ（URL: http://www.dld.nihon-u.ac.jp/ ）の「在学生ログイン」をクリックしてください。	
2	「学生メニュー」を選択し、「履修登録」をクリックしてください。	
3	履修登録科目の一覧から登録したい科目のチェックボックスを選択し、[登録確認]ボタンをクリックしてください。 ※ 一覧には学修が開始できる科目が表示されます。	
4	履修登録する科目を確認し、[登録実行]ボタンをクリックしてください。	

<p>5 履修登録が完了すると、登録されているメールアドレスに受付通知メールが配信されます。</p>	<p>履修登録完了</p> <p>履修登録受付通知メールを指定のメールアドレスに送信しましたので、ご確認ください。</p> <p>登録が正常に完了しました。 登録画面に戻る場合は、【履修登録画面へ戻る】ボタンを押してください。</p> <p>履修登録画面へ戻る</p>
--	--

●履修登録確認

<p>1 履修登録方法の1の手順で、ログインしてください。</p>	<p>履修登録確認表照会</p> <p>履修登録確認表照会</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">学生番号</td> <td style="width: 30%; text-align: center;">2015</td> <td style="width: 30%;">学生氏名</td> </tr> <tr> <td>履修年度</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">2015</td> </tr> </table> <p>総合教育科目</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>履修年度</th> <th>授業コード</th> <th>科目名</th> <th>担当者</th> <th>単位数</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合教育科目</td> <td>2014</td> <td>BT11000</td> <td>歴史学</td> <td>高瀬 博文 他</td> <td>4</td> <td>選択中</td> </tr> <tr> <td>総合教育科目</td> <td>2014</td> <td>BT17000</td> <td>政治学</td> <td>間根 二三夫 他</td> <td>4(2)</td> <td>選択中</td> </tr> <tr> <td>総合教育科目</td> <td>2015</td> <td>BT21000</td> <td>心理学</td> <td>宿藤 腹典 他</td> <td>4</td> <td>修得済</td> </tr> </tbody> </table>	学生番号	2015	学生氏名	履修年度	2015		区分	履修年度	授業コード	科目名	担当者	単位数	備考	総合教育科目	2014	BT11000	歴史学	高瀬 博文 他	4	選択中	総合教育科目	2014	BT17000	政治学	間根 二三夫 他	4(2)	選択中	総合教育科目	2015	BT21000	心理学	宿藤 腹典 他	4	修得済
学生番号	2015	学生氏名																																	
履修年度	2015																																		
区分	履修年度	授業コード	科目名	担当者	単位数	備考																													
総合教育科目	2014	BT11000	歴史学	高瀬 博文 他	4	選択中																													
総合教育科目	2014	BT17000	政治学	間根 二三夫 他	4(2)	選択中																													
総合教育科目	2015	BT21000	心理学	宿藤 腹典 他	4	修得済																													

●履修登録の変更・取りやめ

同一履修年度かつまだ、学修を開始していない科目に限り、「ポータルサイト」で変更・取りやめをすることができます。

<p>1 履修登録方法の1・2の手順で、履修登録の画面まで進んでください。</p>	<p>履修登録</p> <p>履修登録</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">学生番号</td> <td style="width: 30%; text-align: center;">2015</td> <td style="width: 30%;">学生氏名</td> </tr> <tr> <td>登録年度</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">秋期</td> </tr> <tr> <td>登録年度の登録合計単位数</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">33</td> </tr> </table> <p>【凡例】<input checked="" type="checkbox"/>取消 <input checked="" type="checkbox"/>変更不可</p> <p>総合教育科目</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>選択</th> <th>授業コード</th> <th>科目名</th> <th>単位</th> <th>学年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td>BT01500</td> <td>総合科目Ⅰ</td> <td>2(2)</td> <td>1, 2, 3, 4</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>BT02500</td> <td>総合科目Ⅱ</td> <td>2(2)</td> <td>1, 2, 3, 4</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>BT03500</td> <td>総合科目Ⅲ</td> <td>2(2)</td> <td>1, 2, 3, 4</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>BT04500</td> <td>総合科目Ⅳ</td> <td>2(2)</td> <td>1, 2, 3, 4</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>BT05500</td> <td>総合科目Ⅴ</td> <td>2(2)</td> <td>1, 2, 3, 4</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>BT06500</td> <td>総合科目Ⅵ</td> <td>2(2)</td> <td>1, 2, 3, 4</td> </tr> </tbody> </table>	学生番号	2015	学生氏名	登録年度	秋期		登録年度の登録合計単位数	33		選択	授業コード	科目名	単位	学年	<input checked="" type="checkbox"/>	BT01500	総合科目Ⅰ	2(2)	1, 2, 3, 4	<input type="checkbox"/>	BT02500	総合科目Ⅱ	2(2)	1, 2, 3, 4	<input type="checkbox"/>	BT03500	総合科目Ⅲ	2(2)	1, 2, 3, 4	<input type="checkbox"/>	BT04500	総合科目Ⅳ	2(2)	1, 2, 3, 4	<input type="checkbox"/>	BT05500	総合科目Ⅴ	2(2)	1, 2, 3, 4	<input type="checkbox"/>	BT06500	総合科目Ⅵ	2(2)	1, 2, 3, 4
学生番号	2015	学生氏名																																											
登録年度	秋期																																												
登録年度の登録合計単位数	33																																												
選択	授業コード	科目名	単位	学年																																									
<input checked="" type="checkbox"/>	BT01500	総合科目Ⅰ	2(2)	1, 2, 3, 4																																									
<input type="checkbox"/>	BT02500	総合科目Ⅱ	2(2)	1, 2, 3, 4																																									
<input type="checkbox"/>	BT03500	総合科目Ⅲ	2(2)	1, 2, 3, 4																																									
<input type="checkbox"/>	BT04500	総合科目Ⅳ	2(2)	1, 2, 3, 4																																									
<input type="checkbox"/>	BT05500	総合科目Ⅴ	2(2)	1, 2, 3, 4																																									
<input type="checkbox"/>	BT06500	総合科目Ⅵ	2(2)	1, 2, 3, 4																																									

2 講座を申し込む

申し込み上の注意事項

「ポータルサイト」と「受講届」の両方で申込みがあった場合は、「ポータルサイト」の内容を有効とします。

① 「ポータルサイト」による申込み

●申込みの前に

1	申込みには、IDとパスワードが必要です。 ID = 学生番号 初期パスワード = 自分の西暦生年月日（半角数字8桁）
2	申込みには、パソコンのメールアドレスの登録が必要です。 登録していない場合は、「ポータルサイト」にある「NU-AppsG（在学生専用メールアカウント）」を参照して登録してください。
3	事前に履修登録が必要です。 P90 参照

●申込方法

1	通信教育部公式ホームページ（URL： http://www.dld.nihon-u.ac.jp/index.html ）の「在学生ログイン」をクリックしてください。	
2	「学生メニュー」を選択し、「スクーリング申請・取消」をクリックしてください。	
3	「未申請スクーリング一覧」から申請したいスクーリングのチェックボックスを選択し、[申請]ボタンをクリックしてください。 ※履修登録を行った科目のみ表示されます。	
4	昼間・土曜スクーリングは併用試験方式での単位取得はできないため、スクーリング申請確認画面で「併用」欄が空欄になっています。他の短期スクーリングと同時に申込む際は、注意してください。	

●受付完了

申請受付が完了すると、登録されているパソコンのメールアドレスに申請受付メールが配信されます。配信されない場合は、「スクーリング・メディア授業申請・取消」内の「申請済みスクーリング一覧」に該当講座があることを確認してください。

スクーリング申請一覧										
申請済みスクーリング一覧										
選択	期間	講座コード	講座名	コード	スクーリング名	使用	申請期限	開講日程	開催場所	申請年月日
<input type="checkbox"/>	全般	AB1	英語A	AB1CH0100	英語 I	-	2016/04/21	04/15~07/29	日本大学通じ教育	2016/02/25
<input type="button" value="取消"/>										

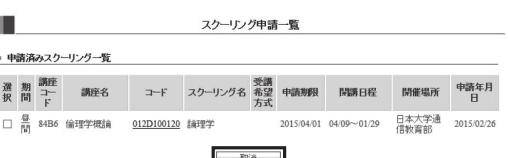
●申込確認

隨時、「ポータルサイト」で確認することができます。

1	申込方法の1の手順で、ログインしてください。	
2	「学生メニュー」を選択し、「スクーリング・メディア授業情報一覧」をクリックしてください。	
3	申込みをしたスクーリング・メディア授業の一覧が表示されますので、内容を確認してください。	

●申込内容の変更・取りやめ

申込期間内に限り、「ポータルサイト」で変更・取りやめをすることができます。

1	申込方法の1~2の手順で、申請中のスクーリングの画面まで進んでください。	
2	「申請済みスクーリング一覧」より取消したいスクーリングのチェックボタンを選択し、 取消 ボタンをクリックしてください。申込内容を変更する場合は、いったん取消後、再度申請してください。	

※ 申込期限後に、スクーリング申込はできません。

② 「受講届」による申込み（ポータルサイトで申込みを行った場合は不要です）
「受講届」による申込みは、以下の要領で本誌巻末の「受講届」を作成し、教務課に提出してください。

(1) 記入上の注意

(ア) 講座コード

開講講座のコード番号です。記入にあたっては、「開講講座表」の「講座コード」欄を参照してください。

(イ) 講座名

開講される講座の名称です。この講座名を「開講講座表」を参照の上、記入してください。間違えて「充当科目名」を記入しないよう注意してください。

(ウ) 充当科目コード

開講講座の単位修得により充当できる科目のコード番号です。記入にあたっては、「開講講座表」の「科目コード」欄、及び後掲の「(2) 注意事項」を参照してください。

(エ) 学生番号・氏名

(2) 注意事項（「総合科目」、「英語」などの外国語科目及び「各演習科目」など）

例えば、「英語」の講座は、「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」、「英語Ⅲ」及び「英語Ⅳ」という科目を含んで開講されます。今回のスクーリングで「英語Ⅰ～Ⅳ」のどの科目に充当させるかは、各自の履修状況・履修計画によって異なります。したがって、英語をスクーリングで受講する際には、「受講届」に記載する充当科目コードによって「英語Ⅰ～Ⅳ」のうちどの科目で受講するのか、各自が大学に申告しなければなりません。

「受講届」では4桁の講座コードと6桁の充当科目コードの計10桁のコードによって、受講講座（科目）を登録します。コードは「開講講座表」の「講座コード」欄、「科目コード」欄に記載されています。「英語」の場合、「開講講座表」の「科目コード」欄に4つのコードが記載されていますが、各自の履修計画に合致する科目（「英語Ⅰ～Ⅳ」のいずれか）のコードを、1つ選択してください。

内をすべて記入してください。		提出年月日	平成 年 月 日
昼間・土曜スクーリング（前期）受講届			
学生番号		フリガナ	
氏名			
種別コード A1			
曜日	時限	講座コード	講 座 名
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
合計		講座（14講座まで登録できます。）	
<記入例>			
曜日	時限	講座コード	講 座 名
1	火 1	A1B111	政治学
B111700			
＊上記は4講座に、保健外育講座、及び体操実習を含みます。			
＊書き間じた場合は修正テープ、修正液で訂正してください。			
＊本学でのスクーリングの受講申込はできません。昼間・土曜スクーリング（前期）の申込みについても別途行う必要がありますので、注意してください。			

《記入例》(講座「英語 C」において「英語Ⅲ」を選択した場合)

講 座 コ ー ド	開講講座名	担当講師名	充 当 科 目	
			科 目 コ ー ド	科 目 名
●●●●	英語 B	○○ ○○	C10100	英語 I
			C10200	英語 II
			C10300	英語 III
			C10400	英語 IV
▲▲▲▲	英語 C	○○ ○○	C10100	英語 I
			C10200	英語 II
			C10300	英語 III
			C10400	英語 IV

(2)

(1)

(4)

(3)

- (1) 希望する講座として「英語 C」を選択。
- (2) 「英語 C」を選択したことによって講座コードは「▲▲▲▲」となる。
- (3) その講座で充当する科目として「英語Ⅲ」を選択。
- (4) 「英語Ⅲ」を選択したことによって充当科目コードは「C10300」となる。
- (5) 「受講届」の記入は、講座コードに「▲▲▲▲」、充当科目コードに「C10300」と記入します。また講座名に「英語 C」と記入します。

※「・・・演習」という講座も同様で、例えば「英語学演習」の場合、「英語学演習 I」、「英語学演習 II」及び「英語学演習 III」という科目を含んで開講されます。今回のスクーリングで「英語学演習 I ~ III」のどの科目に充当させるかを「受講届」に記入する充当科目コードによって各自が大学に申告してください。

記入上の注意事項

- (1) 黒のボールペンを使用し、楷書で正確に記入してください。
- (2) 「受講届」提出締切後の追加、変更はできません。
- (3) 記入誤り、記入漏れによる追加変更は一切いたしません。
- (4) 次の場合、大学の判断により事務的な処理にて講座の決定を行いますので、希望講座を受講できない可能性があります。
 - ・乱雑な記入
 - ・記入誤り、記入漏れ
 - ・記入した講座コード、講座名、充当科目コードの不一致

(3) 「受講届」を提出する(提出締切日は表紙を参照)

「受講届」の記入が終わったら、申込内容の控えをとり、「受講届」を教務課に提出してください。提出方法は以下の2通りです。

ア 教務課窓口に直接提出

教務課入口に提出用ポストを設置しますので、そちらに投函してください。【提出期限は事務取扱時間内】

イ 郵送で提出する

「受講届」を封筒に入れ、切手貼付の上、郵送してください。【提出締切日の消印有効】

郵送提出においての注意事項

天災や郵便の遅延・未着そのほかの事故については、いかなる配慮も行いません。

「受講届」が教務課に届かなかった場合、受講ができなくなりますので、特定記録郵便・簡易書留・書留を強くお勧めします。

特定記録郵便の場合、大学での受領記録が残りませんので、「スクーリング受講資格審査結果通知書」が届くまで、郵送した際の受領証を必ず保管してください。紛失の場合、郵便追跡確認ができなくなります。

また、リポート等、他の書類と一緒に送付するとその間にはさまってしまい、事故の原因になります。「受講届」は単体で送付してください。

3 受講講座の変更・追加

① 受講講座変更届の作成

受講講座の変更・追加をする場合は、市販の便箋等を使用し、以下の記入例を参考に「変更届」を作成してください。

※変更・追加のために、複数の「受講届」用紙を使用した場合や他のスクーリングの「受講届」を使用した場合は、正しい申込みが判別不能となり、申込みが「無効」となりますので、決して使用しないでください。

② 記入事項

変更・追加する事項の記入を行うほかに変更前の申込講座の「スクーリング名称」、「開催期」、「講座コード」、「講座名」、「充当科目コード」及び「併用方式希望」を明記してください。また、自己の所属学部・学科（専攻）・学生番号・氏名も忘れずに記入してください。

③ 提出先・提出方法

「受講届」提出と同様です。

④ 提出締切

「受講届」提出の締切日と同一です。別途の日程はありません。

※郵送の場合は受講届の提出と同様に提出締切日までの消印有効です。

《記入例》

〈市販の便箋等〉

平成〇年〇月〇日			
日本大学通信教育部教務課長 殿			
平成 28 年度昼間・土曜スクーリング（前期）申込講座変更届			
標記のことについて、既に「受講届」にて申し込んだ昼間・土曜スクーリング（前期）における申込講座を下記のとおり変更したく、書面をもってお願ひいたします。			
記			
(当初の申込講座)			
曜日・時限	講座コード	講座名	充当科目コード
火曜 1 時限	●●●●	政治学	B11700
火曜 2 時限	●●●●	文学	B11300
火曜 4 時限	●●●●	英語 A	C10100
(変更後の申込講座)			
曜日・時限	講座コード	講座名	充当科目コード
火曜 1 時限	●●●●	政治学	B11700
火曜 4 時限	●●●●	英語 A	C10100
水曜 5 時限	●●●●	歴史学 A	B11100
上記のとおり相違ありません。			
文理学部文学専攻（英文学）			
学生番号：24153999			
氏名：日大 太郎			

VIII 申込講座の許可と不許可

1 受講許可を確認する

申込内容に基づき大学が受講資格審査を行い、その結果を受講資格審査結果通知により通知します。ポータルサイトでの申請者には送付されません。ポータルサイト上の「スクーリング・メディア授業情報一覧」にて確認し、必要であれば印刷を行ってください。

●スクーリング受講資格審査結果通知の印刷

今回、新たにポータルサイトの機能として、スクーリング受講資格審査結果通知書の印刷が可能となりましたのでお知らせします。

1	ポータルサイトにログインしてください。
2	「学生メニュー」を選択し、「スクーリング・メディア授業情報一覧」をクリックしてください。
3	申込みをしたスクーリング・メディア授業の一覧が表示されます。「受講資格審査結果」の項目に「印刷」ボタンがあるのでクリックしてください。
4	ご使用されているPDFソフトが起動しますので、印刷を行ってください。

※印刷は、「スクーリング受講資格審査結果通知書」の送付と同時に可能になります。

① 充当科目コードの確認

必ず充当科目コード・単位を確認してください。

「充当科目コード」及び「開講単位数」欄に記載された内容が、申込み内容と同一であることを確認してください。

「英語」や「演習」などのように「I, II, III…」の区別のあるものや、科目の名称が類似している科目がありますので、十分注意してください。

② 講座コード・講座名・時間割の確認

必ず講座コード・講座名・時間割を確認してください。

「講座コード」欄に記載された内容が、申込み内容と同一であることを確認してください。受講申込者数により講座が分割されている場合があります。

2 講座振り分け及び受講不許可について

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者が定員を超えた場合、以下の①から③のいずれかで対応させていただきます。

① 超過した人数分の学生を他講師担当の同一科目講座へ振り分ける

② 新たに他講師担当の同一科目講座を増設し、超過した人数分の学生をその講座へ振り分ける

※①及び②の場合、振り分けられた講座を受講することになります。担当講師、授業内容は振り分けられた講座の内容に変更されますのでご注意ください。

③ 超過した人数分の学生を受講不許可にする

※希望した講座が受講できないことになります。また、新たに代わりの講座を申し込むこともできません。あらかじめご了承ください。

振り分けられた講座の受講を辞退する場合には、「3 許可講座を辞退する」を参照し、辞退手続を行ってください。なお、①及び②についても受講辞退後、新たに代わりの講座を申し込むことはできません。あらかじめご了承ください。

3 許可講座を辞退する

この手続は、振込用紙を受け取った後、やむを得ない理由等により受講許可講座の全部又は一部の受講ができなくなった場合、その講座の辞退を行う手続です。

ただし、この辞退手続はスクーリング受講料等納入前であることが条件となります。スクーリング受講料等納入後に受講辞退の意思表示があったとしても受講料等は一切返還しません。

講座の辞退を行う場合には以下により手続を行ってください。

① 手続書類

以下の（1）及び（2）を教務課試験係まで提出してください。

- （1）「受講申込辞退願」【各種用紙】
- （2）振込用紙
- （3）362円分郵便切手（大学からの再送付時の速達郵便料）を貼付した、長形3号（A4判
三つ折の用紙が入る大きさ）の返信用封筒（自己の郵便番号、住所及び氏名を明記）

※（3）は、一部の講座を辞退する場合のみ必要です。

② 手続期限 いかなる場合でも期限後は手続できません。

スクーリング名	受講申込辞退の手続期限
昼間・土曜スクーリング（前期）	5月20日（金） 厳守

※保健体育講義・体育実技については、後掲110ページ参照。

③ 提出先 教務課試験係

事務取扱時間内であれば窓口での提出もできます。

※ この手続は他の講座への変更・追加申込みではありませんので注意してください。

受講許可の下りた講座に対し、振込用紙を送付します。

申込講座の辞退がない場合、受講料を期限までに納入してください。

振込用紙の発送は、5月13日（金）を予定しています。

① **受講料**：1講座 10,000円 × 受講講座数

「情報概論」のみ 13,000円（コンピュータ等実習料を含むため）

② **納入期限**：5月27日（金）銀行窓口 ※当日取扱時間まで

※保健体育講義・体育実技については、後掲110ページ参照。

③ **納入方法**：必ず、大学から送付される振込用紙により銀行窓口から振り込んでください。

注 意 事 項

① 納入に際しての注意事項

- (1) 銀行（ゆうちょ銀行を除く）窓口のみの取扱いとなります。会計課窓口及び郵送での納入はできません。
- (2) 自動振込機（ATM）及びネットバンキングからの納入は受け付けできません。
銀行係員が勧めても使用しないでください。
- (3) 振込用紙に記載された事項を訂正したものは受け付けできません。

② その他の注意事項

- (1) 発送予定日から数日経過しても振込用紙が届かない場合は、至急会計課に連絡してください。また、期日までに納入できない事情が発生した場合は、至急、教務課に連絡してください。
- (2) 領収書（銀行領収印の押印されているもの）は、受講時及び試験時に提出を求められる場合があります。
受講期間中は、学生証と共に常に携帯してください。
- (3) 受講料等を納入したのちに受講申込辞退の意思表示があったとしても、受講料等の返還は行いません。

MEMO

1 使用教材の入手

スクーリングは集中講義形式の授業ですので予習なしでの受講は学修効果が期待できません。受講許可後、本誌のシラバス（教科書、参考書）で使用教材が、『通信教育教材』か『市販教材（市販本）』かを確認の上、以下の要領で教材を入手してください（教科書等の価格・送料はシラバスに記載されています）。

教材購入方法の見分け方は、後掲の「③教材購入方法の見分け方」を参照してください。

注意事項

すでに所持している『通信教育教材』であっても、教材改訂によりシラバスに記載されている「教科書」や「参考書」と異なる場合がありますので、科目名のみによらず、シラバスに掲載されている「教材コード」と所持する『通信教育教材』の教材コードとを照合し、不一致の場合は、教材を入手してください。

なお、教材購入後の変更・取消及び費用の返還はできませんので注意してください。

① 使用教材が『通信教育教材』の場合

通材 印が付されている教材は、本誌「各種用紙」の「教材購入願」を使用し購入または配本申請（部報4月号参照）してください。既に今回の使用教材を入手している場合は、改めて「教材購入願」によつて購入する必要はありません。教材の送付先は、すべて大学に登録されている各自の住所への発送となります。教材が手元に届くまでは手続完了後、約1週間を要しますので、受講許可を確認した後、速やかに手続きを行ってください。

※本手引掲載の教材価格は平成28年度の教材価格です。

なお、『通信教育教材』について不明な点は、研究事務課（電話03-5275-8890）に問い合わせください。

② 使用教材が『市販教材（市販本）』の場合

『市販教材（市販本）』は、一般書店で購入してください。住居地周辺の書店で購入できない場合、**丸沼** 印のついている本については、丸沼書店で購入できます。

（書店名）（株）丸沼書店

（所在地）〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-8-12

（電話）03-3261-4540

（FAX）03-3261-0118

（営業時間）9:00～20:00（日曜日は休み）

（購入方法）直接店頭（139ページを参照）で購入のほか以下（1）～（3）の方法で通信販売も可能です。

（1）代金引換払（手数料260円が別途かかります）

本誌「各種用紙」の「教材購入用紙（丸沼書店用）」に必要事項を記入の上、上記あてに郵送又はFAXをしてください。

（2）為替（前納）

本誌「各種用紙」の「教材購入用紙（丸沼書店用）」と税込価格+送料の合計金額分の定額小為替又は普通為替を同封して上記あてに郵送してください。

（3）現金書留（前納）

本誌「各種用紙」の「教材購入用紙（丸沼書店用）」と税込価格+送料の合計金額を同封して上記あてに郵送してください。

不明な点は、丸沼書店に直接問い合わせてください。

『市販教材（市販本）』の価格・送料は『手引』作成時の金額です。改訂等により金額が変わることもあります。あらかじめご了承ください。

③ 教材購入方法の見分け方

※事前資料送付・当日資料配布については、教務課（電話 03-5275-8911）にお問い合わせください。

④ スクーリング受講に伴う六法の携行及び指定の六法

法律系の科目を受講する場合、特にシラバスに記載がなくとも『六法』は必携となりますので、各自用意の上、授業に臨んでください。

通信教育部指定の六法について

スクーリング試験時に参考が許可される『六法』は、次の9種類に限ります。ただし、担当講師から別途指示がある場合は、この限りではありません。

《試験時に参照が許可される六法》

岩波書店『コンパクト六法』、『ヤレクト六法』、『基本六法』

有斐閣『六法全書』『ポケット六法』

第一法規『司法試驗用六法』、『旧司法試驗用六法』、『新司法試驗用六法』

二省堂『デイリー六法』

注意事項：(1) 上記指定の『六法』に、書き込み等がある物は、参照物として認められません。したがって、『六法』は学修時に使用するものと試験時に使用するものとで別に用意してください。

(2) 判例・解説つきのもの(『六法』付録の小冊子等を含む)は参照物としては認められません。

2 通学定期券の購入手続

通学定期券は、正科生がスクーリング受講を目的として通学する場合に限り購入できます。通学定期券購入の手続き等は、以下のとおりです。

① 学生証裏面学籍シールへの記入

- (1) 「学生番号」、「氏名」、「現住所」を黒のボールペンで記入してください。
- (2) 「通学区間」欄に対象区間及び経由（乗り換え駅）を記入してください。また、定期券が2枚に分かれる場合は2行に分けて記入してください。

② 購入手続き

- (1) 学生証及び「受講料振込依頼書」の（A）領収書（銀行の捺印のあるもの）を持参で事務取扱時間内に学生課窓口に来校し、所定の用紙に記入して「在籍確認」印の押印を受けてください。
- (2) 通学定期券取扱い駅の窓口にて定期券購入用紙に必要事項を記入し、押印済の学生証を提示することで通学定期券が購入できます。

③ 学生課窓口で記入する所定用紙について

- (1) 通学定期乗車券発行控（全員必要）
- (2) 滞在先届（スクーリング期間中に現住所以外から通学する場合に限り必要）
- (3) 通学証明書（都営地下鉄、都電、各路線バス等を利用する場合及び水道橋キャンパスに通学する場合に必要）

④ 対象区間

自宅（又は滞在先）の最寄り駅から以下「通信教育部最寄り駅」までの最短経路を対象とします。

鉄道会社	最寄駅（市ヶ谷キャンパス）	最寄駅（水道橋キャンパス）
JR東日本	市ヶ谷駅	水道橋駅
都営地下鉄	新宿線 市ヶ谷駅	三田線 水道橋駅・神保町
東京メトロ	有楽町線・南北線 市ヶ谷駅	丸の内・南北線 後楽園駅 半蔵門線 神保町駅

※最短経路とは所要の時間が最短、交通費が最安、乗換が最少である等の合理的な経路のことをいいます。

※途中経路や迂回経路は一切認められません。

⑤ 禁止事項

通学定期券を不正に使用してはいけません。不正使用したことが発覚すると、鉄道会社等の営業規則に基づき定期運賃の数倍の罰則金等が科せられます。また、大学自体も通学定期券発行の指定から外され、他の学生に多大な迷惑をかけることになります。

不正使用は絶対に行わないでください。

【不正使用例】

① 現住所及び通学区間を偽ること。	② 他人に譲渡・貸与すること。
③ 記名人以外が使用すること。	④ その他、不正に使用すること。

⑥ その他注意事項

- (1) 通学区間が変更となった場合は、学生課に届け出してください。
- (2) 年度内に「通学定期乗車券発行控」欄が不足となった場合は、学生課へ届け出してください。
- (3) 「在籍確認」印は、年度内に限り有効です。

本学の厚生施設である軽井沢研修所を使用し、1泊2日の合宿形式でオリエンテーションを開催します。このオリエンテーションの目的は、学事・学修指導はもとより2日間のプログラムを通して学生相互の連帯感を高めることにあります。特に新入生の皆さんには、スクーリングはもちろんですが、リポート・科目修得試験など、通信教育独特の学修方法を理解するためにも、仲間同士の交流を深めるためにも、このオリエンテーションに極力参加してください。

1 開催日 平成28年5月14日（土）・15日（日） 1泊2日

2 場所 日本大学軽井沢研修所
長野県北佐久郡軽井沢町軽井沢 1052-1
TEL: 0267 (42) 2401

3 対象者 ① 平成28年度新入学生（科目履修生含む）
② 参加を希望する在学中の学生

ただし、これまでに軽井沢オリエンテーション・ガイダンスへ参加した学生は対象外です。

4 交通等 通信教育部から貸切バスにより往復します。

ただし、地方の学生など、居住地の事情により、直接、軽井沢研修所に行くことを希望する場合には、現地集合を認めます。

なお、自家用車・二輪車等での参加は認めません。

5 参加費用 ① バスで往復の場合
10,000円〔バス料金・宿泊費（夕食・朝食代を含む）・第1日目の昼食代・懇親会費用等〕
② 現地に集合の場合
4,600円〔宿泊費（夕食・朝食代を含む）・懇親会費用等〕
※交通費は自己負担、第一日目の昼食は含まれません。

6 参加手続 参加希望者は、本誌巻末掲載（又はポータルサイトからも入手可能）の「軽井沢オリエンテーション参加申込書」に必要事項を記入し、費用と共に学生課へ申込みをしてください（郵送の場合は現金書留にて会計課へ送付すること。※4月28日（木）必着）。

7 参加学生 100名 ※定員に達し次第、締切りとします。

平成28年度軽井沢オリエンテーションスケジュール（概要）

	時間	内 容
第一日目	午前	通信教育部集合・出発（バス）
		軽井沢研修所到着、研修所にて昼食
	午後	開会式
		ネーチャーワーキング（軽井沢自然散策）
		夕食・入浴
		ふれあいタイム（教職員及び学生相互の懇親）
		就寝
第二日目	午前	起床・朝食
		各学科専攻教員による談話会
	午後	軽井沢研修所出発（バス）
		軽井沢駅周辺散策（昼食は各自）
		軽井沢出発（バス）
		通信教育部帰着・解散（16:30頃）

※内容は変更になることがあります。

肺結核等の感染症予防を目的として、「胸部 X 線間接撮影」を実施しています。大学では集団感染を防止する義務があるので、必ず受診してください。また、毎年受診が必要です。

1 対象者

昼間・土曜スクーリング（前期）受講生全員。ただし、次に該当する場合は受診を認めません。

- ① 平成 28 年度に教育実習又は介護等の体験を受ける者。
- ② 平成 28 年 1 月以降に胸部 X 線検査を受けていて、検査結果を証明できる物（コピーも可）を提出できる者。該当する場合は 5 月 27 日（金）までに学生課へ提出してください。
- ③ 妊娠等の理由により検査を受けることができない者。該当する場合は、5 月 27 日（金）までに理由書を学生課へ提出してください。

2 受診日及び時間

平成 28 年 5 月 24 日（火）～5 月 27 日（金）※ 4 日間

10 時 00 分～18 時 30 分（13 時 00 分～14 時 00 分を除く）

○下表のとおり、男女別に受診時間を分けて実施いたします。

男女別の受診時間

	5/24（火）	5/25（水）	5/26（木）	5/27（金）
午前の受診時間 【10:00～13:00】	女性	女性	男性	男性
午後の受診時間 【14:00～18:30】	男性	男性	女性	女性

3 場所及び受診方法

学生ホールに受付を設置します。事前申込は不要。各自都合の良い日・時間に受診してください。

4 受診料

無料（大学負担）

5 受診結果

全員に通知します。なお、受診・健康診断証明書は一切発行しません。

6 その他注意事項

女性は下着の金属類が写ってしまうため、白無地の T シャツ等を用意してください。その他、相談は学生課（03-5275-8921）まで。

MEMO

保健体育講義Ⅰ及び体育実技は他の講座と異なり、日本大学文理学部にて実施されます。申込締切日程、授業時間等も異なりますので、以下の事項をよく確認してください。

1 受講申込から受講料納入までの流れ

① 受講手続説明会

『昼間・土曜スクーリング（前期）の手引』を読み、受講手続方法から試験までの流れを確認。受講制限・時間割を確認し、受講講座を選択する。



② 授業開始までの準備

授業期間は4日間もしくは5日間にわたります。シラバスや時間割をよく読み、受講講座を選択してください。特に下記の項目を事前に確認すること。
 ① 開講日程及び時間割 ② 使用教材（教科書）の有無
 ③ 準備学修 ④ 成績評価基準
 【要確認】授業期間に出席可能なこと。



③ 履修登録・受講申込締切

申込締切：6月22日（水）
 18:00（事務取扱時間）まで
 （ポータルサイト）締切日24時00分まで
 提出先：（郵送）提出締切日 消印有効
 （窓口）教務課窓口提出 事務取扱時間内厳守
 ※1 受講届で申し込んだ講座がわかるように必ず申込内容の控えを取り各自で保管してください。
 ※2 提出期限を過ぎてからの追加・変更はできません。6月22日（水）までに受講予定の全ての講座を決定した上で提出してください。



④ 受講許可の確認

ポータルサイト上の「スクーリング・メディア授業情報一覧」にて申し込んだ講座が「申請許可」になっているか確認してください。
 ※受講届提出者には、「スクーリング受講資格審査結果通知書」を送付しますので、そちらで確認してください。

届き次第、必ず以下の記載内容を確認してください。

- ※1 申込講座・時間割の確認及び担当講師
- ※2 充當科目コード



⑤ 受講料の振込用紙発送

受講許可者には、スクーリング受講料の振込用紙を郵送します。

発送予定日：7月8日（金）

発送予定日から5日経過しても振込用紙が届かない場合は会計課へ連絡してください。



許可講座の辞退

手続期限：7月15日（金）
 提出書類：①受講申込辞退願
 ②振込用紙
 ③返信用封筒（362円分の切手貼付）
 ※③は一部講座辞退手続き者のみ



⑥ 受講料の納入

ポータルサイト（又はスクーリング受講資格審査結果）及び「振込用紙」に記載された事項を確認の上、受講料を下記の納入期限までに納入してください。
受講料納入期限：7月25日（月）
銀行窓口のみ ※当日取扱時間まで
 ※ 受講料（1講座 10,000円）



⑦ 手続完了

保健体育講義・体育実技の手続は完了です。
 領収書は、スクーリング受講中は必ず携行してください。

2 開講講座表・シラバス

曜日	時限	講 座 コード	開 講 講 座 名	担当講師名	充 当 科 目		制 限・注 意		受オーブン 講
					科 目 コ ー ド	科 目 名	配当 学 年	受 講 条 件	
別 日 程		AT11	保健体育講義 I	高橋 正則	H10100	保健体育講義 I	1年	・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。	
					J101S0	体育実技 I	1年	・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。	
					J102S0	体育実技 II	1年	・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。	

◆健康・体力の維持増進について考える

〔保健体育講義Ⅰ・Ⅱ〕

9/5～9/8

開講単位 1単位 担当者：高橋 正則

◆学修到達目標 生涯を通じて最も大切な健康とは何か、また、健康・体力の維持増進のために何が必要かについて、基本的な知識を身につけます。この授業では、それらの知識が実際に自らの生活習慣に結びつくための基礎づくりをねらいとしています。

◆授業方法 講義形式の授業ですが、資料はパワーポイントによってスクリーンに示しながら、それに沿って授業を進めます。また、必要な場合には、配布資料を準備する予定です。授業の最後に、講義内容からレポートや例題を出す場合があります。

◆準備学修 新聞やテレビなどのマスコミを通して、健康・体力に関する情報に日頃から注目するよう心がけてください。

◆授業計画〔1日目・3日目：300分、2日目：390分、4日目：360分〕

1日目	ガイダンス、コミュニケーションスキル、体力の定義：*コミュニケーションについて理解を深め、そのスキル向上のための基礎を学びます。また、体力について理解を深めます。(講義の順番等は変更する場合があります)
2日目	体力トレーニングとトレーナビリティー、効果的な運動学習とは *体力トレーニングのための原則を学びます。また効果的な練習の方法の基本を習得します。(講義の順番等は変更する場合があります)
3日目	メンタルヘルス、オリンピズムとは何か? *自らのメンタルヘルスをチェックし、自己分析します。また、オリンピズムに対する理解を深めます。(講義の順番等は変更する場合があります)
4日目	スポーツ・体育の歴史、まとめおよび試験 (講義の順番等は変更する場合があります)

◆教科書 当日資料配布 授業時に必要に応じてプリントを配布します。

◆参考書 特になし。

◆成績評価基準 授業への取り組みおよびレポート・試験結果によって総合的に評価します。

◆授業相談（連絡先）：連絡先および方法は初回の授業時に伝えます。

◆運動・スポーツに親しむ

〔体育実技Ⅰ・Ⅱ〕

9/5～9/9

開講単位 1単位 担当者：高橋 正則

◆学修到達目標 高齢社会を迎えるにあたり、健康・体力の維持増進の必要性はますます重要になってきています。この授業では、運動・スポーツの実践を通して、その楽しさや重要性を認識し、適度な運動習慣を日常生活習慣に取り込んでいくための基礎づくりをねらいとしています。

◆授業方法 原則として天候に左右されない体育館での授業とし、小グループで色々な運動やスポーツ（卓球やバドミントンなどのネット型競技を中心）を体験しますが、年齢相応、体力相応の参加の仕方を理解します。また、体力測定を通して、体力の現状を自覚し、その維持増進についての認識を高めます。

◆準備学修 1日 20分以上の連続歩行と、軽い柔軟運動の実施を心がけてきてください。

◆授業計画〔1日目・3日目：300分、2日目：390分、4日目：360分〕

1日目	ガイダンス（施設の使用方法および注意事項等）、グループ分け、準備運動、レクリエーション、体力測定（握力、長座体前屈、上体起こし、反復横跳び等）、自己評価、体力の維持増進についての解説
2日目	班別スポーツ種目の展開（1）卓球・バドミントン・ミニテニス・バレーボール等（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）
3日目	班別スポーツ種目の展開（2）卓球・バドミントン・ミニテニス・バレーボール等（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）
4日目	班別スポーツ種目の展開（3）卓球・バドミントン・ミニテニス・バレーボール等（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）
5日目	班別スポーツ種目の展開（4）卓球・バドミントン・ミニテニス・バレーボール等 班別対抗ソフトバレー大会 (施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります)

◆教科書 特になし。

◆参考書 特になし。

◆成績評価基準 授業への取り組みおよび自己の体力に合った運動への理解と遂行の程度によって総合的に評価します。

◆授業相談（連絡先）：連絡先および方法は初回の授業時に伝えます。

3 日程・会場等

① 日程

【雨天決行】

講座名	日 程	授業時間
保健体育講義 I	9月5日～9月8日	9:00～12:00
体育実技	9月5日～9月8日 9月9日のみ	13:00～16:50 9:00～16:50

※上記すべての日程に出席すること。

② 実施会場

保健体育講義 I : 日本大学文理学部 3号館

体育実技 : 日本大学文理学部総合体育館及び百周年記念館

住 所 東京都世田谷区桜上水3-25-40

交通案内 京王線下高井戸駅及び桜上水駅下車徒歩約10分

…次頁案内図参照

③ 持参物

- ・運動のできる服装 (トレーニングウェア等) ←
- ・室内用運動靴 ← 「保健体育講義 I」のみの受講生は不要
- ・健康保険証 ←
- ・学生証
- ・筆記用具
- ・スクーリングの手引
- ・領収書 (初回9月5日出席時は必携のこと)

④ 体育実技の集合場所・集合時間

日本大学文理学部総合体育館入口 12:45から受付開始 (9/9のみ, 8:45から受付開始)

※毎回、総合体育館入口に集合し、遅くとも授業開始5分前までに出席確認を受け、更衣した後、実施会場に移動してください。

⑤ 受講について

体育実技は必修科目となっていますが、疾病及び身体等の障害により実技を行うことが困難であると思われる方は、受講申込前に教務課までお問い合わせください。

⑥ 注意事項

- (1) 保健体育講義、体育実技の単位は9月卒業の単位には算入できません。
- (2) 体育実技はジーンズや普段着での受講はできません。
- (3) 文理学部周辺は住宅地で付近に食事をする場所が少なく、また、当日、文理学部内の食堂は利用できない可能性があるため、食事は事前に済ませるか、持参することをお勧めいたします。
- (4) 体育実技の更衣室は文理学部総合体育館及び百周年記念館内にあります。ただし、更衣室のロッカーは使用できないため、更衣後、荷物は受講会場へ持参してください。
- (5) 貴重品は各自で管理してください。
- (6) 体育実技は授業開始15分前から出席をとります。受付及び更衣の時間を考慮の上、必ず遅れることのないようにしてください。

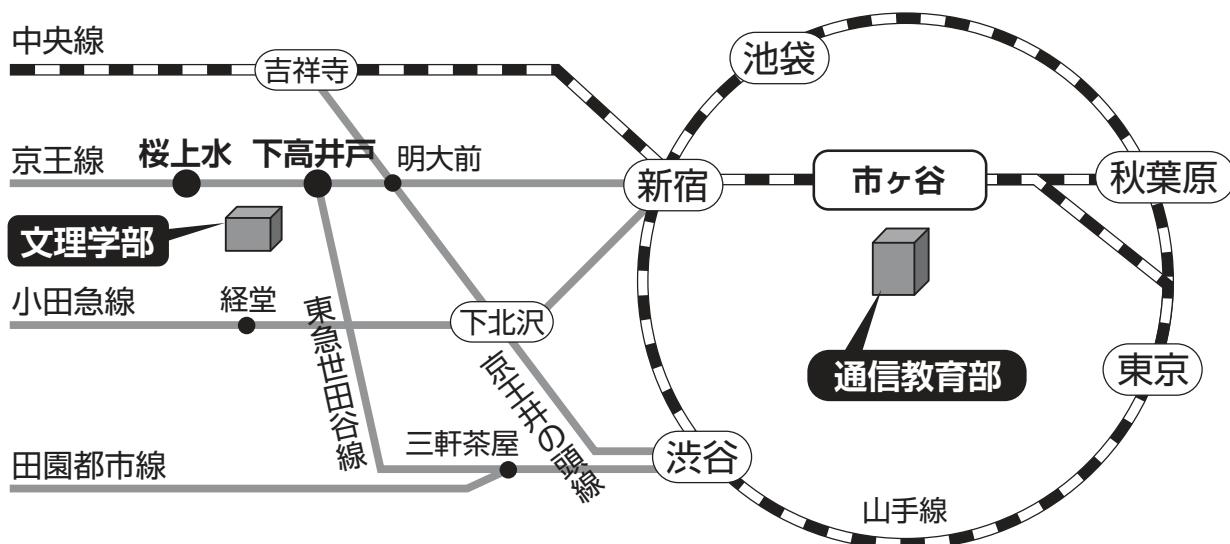
文理学部までの交通

○ JR 市ヶ谷駅から

JR 総武線・中央線各駅停車（新宿・中野方面）で新宿駅下車。京王線各駅停車、快速及び急行のいずれかに乗り換え、下高井戸駅及び桜上水駅下車徒歩約 10 分。通信教育部から約 45 分。

○都営地下鉄新宿線市ヶ谷駅から

新宿・笹塚方面、笹塚駅下車。京王線各駅停車、快速及び急行のいずれかに乗り換え、下高井戸駅及び桜上水駅下車徒歩約10分。通信教育部から約40分。



4 スクーリング結果の確認

スクーリングの結果は、教務課から平成28年度授業料及びスクーリング受講料を納入した学生に対し、ポータルサイトまたは郵送にて通知します。

電話・郵便による問合せには一切応じることができません。また、「スクーリング結果通知書」の再発行はいたしません。天災による郵便の遅延・未着や、その他の事故に対していかなる配慮も行えませんので、「スクーリング結果通知書」を紛失した場合などはポータルサイトの単位修得状況確認で確認、又は「単位照合票」等の交付を受け、確認してください。

結果発表時期	平成28年10月中旬
--------	------------

※9月卒業の単位には算入できません。

① 結果の表示

結果は、「合格」、「不合格」、「未受講」で発表します。

受講許可のない講座を受験した場合には「無効」とし、単位は修得できません。

② 単位数

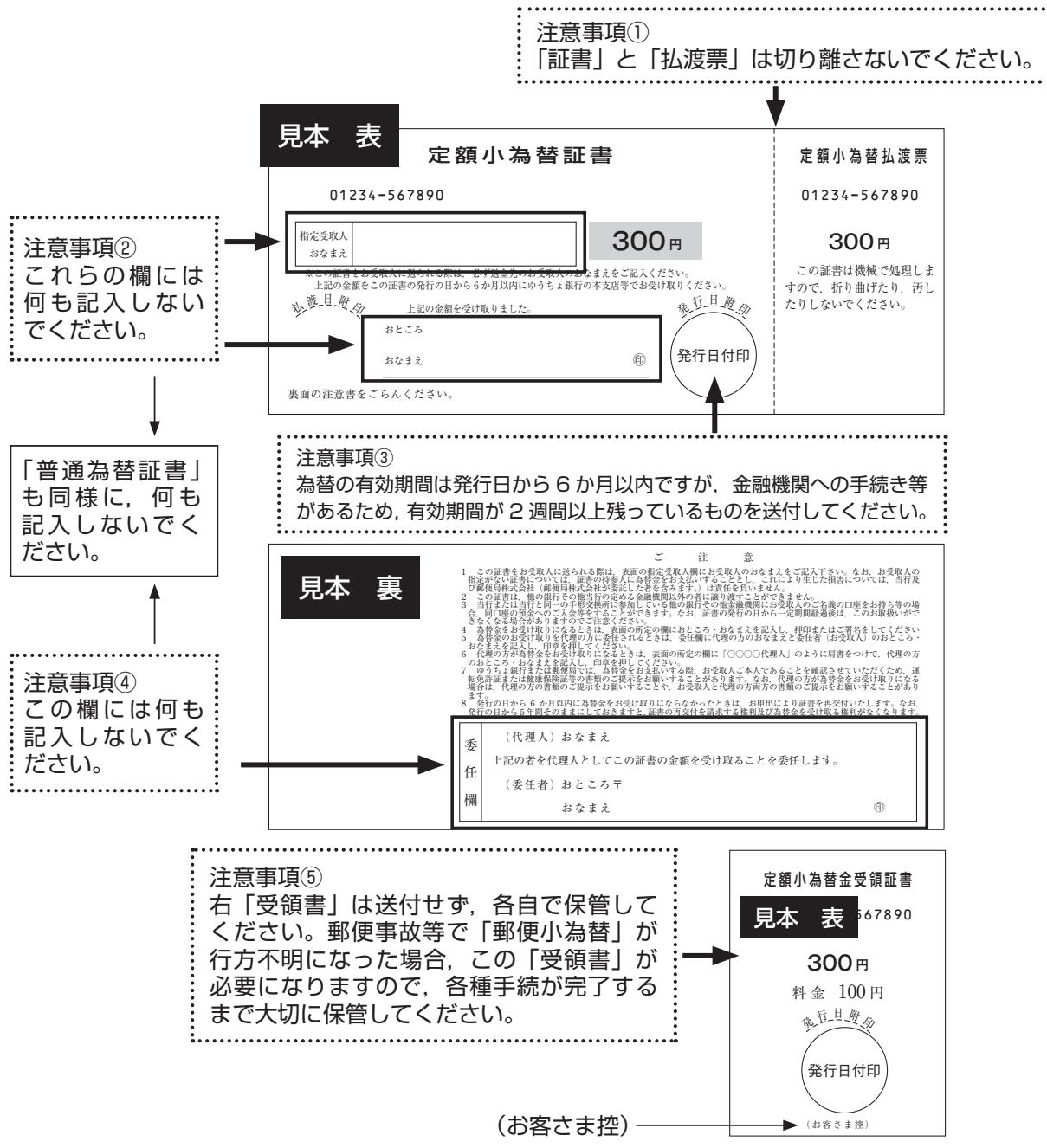
結果が「合格」の場合、シラバスに記載されている開講単位数を修得したことになります、また同時にスクーリング単位も修得したことになります。

- ・「為替」送付時の注意事項
- ・履修届
- ・昼間・土曜スクーリング（前期）受講届
- ・昼間・土曜スクーリング（保健体育講義Ⅰ，体育実技）受講届
- ・教材配本申請書
- ・教材購入用紙（丸沼書店用）
- ・教材購入願（通信教育教材用）
- ・軽井沢オリエンテーション参加申込書
- ・オープン受講届
- ・受講申込辞退願
- ・受講申込辞退願（保健体育講義Ⅰ，体育実技専用）

「為替」送付時の注意事項

「証明書交付願」「教材購入願」等の各種手続において、手数料等を郵送にて「定額小為替証書」又は「普通為替証書」で納入する場合には、以下のことに注意してください。

なお、「定額小為替証書」又は「普通為替証書」をゆうちょ銀行又は郵便局窓口で購入する際は、手数料がかかります（詳細は郵便局窓口でご確認ください）。



履修登録年度 平成 年度

履 修 届

提出年月日 平成 年 月 日

学生番号		フリガナ 氏名		電話番号	— (必ず連絡のとれる電話番号を記入すること)
------	--	------------	--	------	----------------------------

	科目コード	科 目 名	単位
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			

記入例 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

	科目コード	科 目 名	単位
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			

合計 単位 ← 年間 48 単位まで登録できます。
教職生および 2 学年以上の教職コース登録者は
年間 60 単位まで登録できます。

□ 内をすべて記入してください。

提出年月日 平成 年 月 日

昼間・土曜スクーリング（前期）受講届

学生番号							フリガナ						
							氏名						

種別コード A 1

曜日	時限	講座コード	講 座 名			充当科目コード
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
合計		講座（14講座まで登録できます。）				

＜記入例＞

曜日	時限	講座コード	講 座 名			充当科目コード
1 火	1	A B 1 1	政治学			B 1 1 7 0 0

※ 上限14講座には、保健体育講義I及び体育実技も含みます。

※ 書き損じた場合は修正テープ、修正液で訂正してください。

※ 本票で他のスクーリングの受講申込はできません。昼間・土曜スクーリング（後期）の申込みについても別途行う必要がありますので、注意してください。

保健体育講義 I 体育実技

□ 内をすべて記入してください。

平成 年 月 日

平成 28 年度昼間・土曜スクーリング（前期） (保健体育講義 I ・ 体育実技) 受講届

受講希望欄 (○をつけてください)	講座名 (講座コード)	充当科目名 (充当科目コード)	
	保健体育講義 I (AT11)	保健体育講義 I (H10100)	
	体育実技 (AT12)		体育実技 I (J101S0)
			体育実技 II (J102S0)



体育実技を受講希望する場合は、
充当科目をどちらか選択し、○を
つけてください。

- 提出締切日 〔平成 28 年 6 月 22 日（水） 消印有効〕
- 郵送又は窓口にて、提出してください。
- これは、昼間・土曜スクーリング（保健体育講義 I ・ 体育実技）の受講届です。それ以外のスクーリングをこの受講届で申し込んだ場合、無効となります。
- 平成 28 年 9 月卒業の単位には算入できません。
- 本票は、上記スクーリングの受講に関する事項について使用します。

学 生 番 号	□	□	□	□	□	□	□
フ リ ガ ナ							
氏 名							
自 宅 電 話 番 号							
緊 急 時 電 話 番 号							

配本申請（無償）

平成 年 月 日

日本大学通信教育部 御中
(提出先: 研究事務課)

教 材 配 本 申 請 書

学 生 番 号						氏 名	
連絡先電話番号（携帯電話可）						- - -	

No	教材コード (科目コードではありません)			教 材 名			配 本 単位数
1	0	0	0				単位
2	0	0	0				単位
3	0	0	0				単位
4	0	0	0				単位
5	0	0	0				単位
6	0	0	0				単位
7	0	0	0				単位
8	0	0	0				単位
9	0	0	0				単位
10	0	0	0				単位
合 計							単位

ポータルサイト「教材発送照会」の「登録（配本）」から申請できます。
ポータルサイトから申請できない方は、この用紙を使用してください。

※年度内2回まで、計32単位分まで教材の申請ができます。

※科目履修生は申請できません。「教材購入願」にて購入してください。

※後期（10月入学）生は、後期（10月）から申請できます。それまでの間は、「教材購入願」にて購入してください。

※消えないボールペンを使用し、記入してください。

※書ききれない場合には、用紙をコピーして2枚用いてください。

※「教材コード」は『部報』『教材要綱』『各種スクーリング手引』で確認し、記入してください。「教材コード」と「科目コード」は異なりますので注意してください。

※2冊組教材はセットコードを記入してください。

※スクーリング等で指定する丸沼表記の教材は、対象外です。

事務局使用欄

（太線枠内にボールペンで記入してください）

教材入手の手続と注意

—「教材配本申請書」,「教材購入願」—

研究事務課

通信教育部教材を入手する場合は、以下の内容を熟読し、手続きしてください。

1 教材の入手方法について

通信教育部で扱う教材は、「通信授業」(在宅学修)を目的とした教材です。

一部のスクーリング等で、通信教育部教材(通材と表記)を使う場合も、対象となります。

通信教育部で扱う教材の入手方法は、2通りあります。

なお、教材コード・販売価格等は『部報』(4月号・10月号)、『スクーリングの手引』に掲載されます。

「教材配本申請書」、「教材購入願」は、『部報』(4月号・10月号)巻末に掲載します。

① 「教材配本申請書」による配本(無料)

正科生のみ対象となります。年度内2回まで合計32単位分まで申請できます。

所定の「教材配本申請書」で申請してください。

一度提出した書類の追加・変更はできません。

ポータルサイトの「教材発送照会」画面の「登録(配本)」からも申請できます。

後期(10月入学)生は、10月から対応になります。その間は「教材購入願」で購入できます。

② 「教材購入願」による購入(有料)

教材を有料で購入することができます。

科目履修生の教材入手や、「教材配本申請書」の回数・単位数の上限を超えた場合、その他の理由で教材を入手したい場合には、有料で購入することができます。

教材を購入する場合、「教材購入願」に必要事項を記入し、次の手続により購入してください。

ポータルサイトの「教材発送照会」画面の「登録(購入)」からも用紙を作成・出力できます。

(1) 窓口の場合

会計課窓口課にある「教材購入願」に必要事項を記入し、現金を添えて会計課窓口で手続をしてください。

(2) 郵送の場合

『部報』巻末の「教材購入願」に必要事項を記入し、費用と併せて会計課に郵送してください(「教材購入願」裏面の注意事項を確認してください)。

ポータルサイトの「教材発送照会」画面の「登録(購入)」からも用紙を作成・出力できます。

2 注意事項

- ① 教材は「通信教育部教材」に限り購入できます。スクーリング等で指定する市販教材(丸沼表記の教材)は、対象外です。
- ② 手続後の変更・取消し、納入金額の返還はできません。
- ③ 印刷教材は、大学登録住所あてに送付します。教材が手元に届くまで7~10日を要しますので、余裕をもって手続をしてください。
- ④ 窓口での教材配本はできません。

丸沼

教材購入用紙 (丸沼書店用)

市販教材 (市販本) 購入用

※**丸沼**印の教材を郵送にて購入の際は、この用紙で申し込んでください。
詳細は、「使用教材の購入」のページを参照してください。

(送付先) 丸沼書店

平成28年度 昼間・土曜スクーリング			
申込日	平成 28 年 月 日	教材費 (税込)	送 料
小計		円	円
合計		円	
購入方法 (いずれかに○)	①代金引換 ②定額小為替・郵便為替 ③現金書留		

※下記の住所、氏名の欄は返信用に使用しますのではっきり書いてください。

送 り 先	住 所	〒 -
	氏 名	
	電 話 番 号	()

※この用紙で『通信教育教材』は購入できません。
※不足する場合は複写の上、使用してください

購入方法は裏面を参照してください。

【購入方法】

(1) ~ (3) の方法で通信販売も可能です。

(1) 代金引換払（手数料 250 円が別途かかります）

本紙「教材購入用紙（丸沼書店用）」に必要事項を記入の上、下記宛に郵送又は FAX をしてください。

(2) 郵便為替（前納）

本紙「教材購入用紙（丸沼書店用）」と税込価格 + 送料の合計金額分の定額小為替又は郵便為替を同封して下記へ郵送してください。

(3) 現金書留（前納）

本紙「教材購入用紙（丸沼書店用）」と税込価格 + 送料の合計金額を同封して下記へ郵送してください。

不明な場合は、丸沼書店に直接問い合わせてください。

※送料について

送料は書籍の総重量で変わります。それぞれの書籍の組み合わせにより送料が異なりますので、郵便為替・現金書留の場合、ご注文各書籍の送料の合計をお送りください。余った送料については、ご返金いたします。また、代金引換払の場合、書籍代 + 送料（実費）+ 手数料（250 円）を受取時にお支払いください。

(書 店 名) (株) 丸沼書店
(所 在 地) 〒 101-0061
東京都千代田区三崎町 2-8-12
(電 話) 03-3261-4540
(F A X) 03-3261-0118
(営 業 時 間) 9:00 ~ 20:00 (日曜日は休み)

通材

平成 年 月 日

日本大学通信教育部 御中
(提出先:会計課)

教材購入願 (通信教育教材用)

学 生 番 号						氏 名	フリガナ
連絡先電話番号 (携帯電話可)						- - -	

教材コード	科 目 名	金 額	スクーリング種別
			講 座 名
1 0 0 0			
2 0 0 0			
3 0 0 0			
4 0 0 0			
5 0 0 0			
6 0 0 0			
合計科目数		合計金額	
_____		_____	円

(太線枠内にボールペンで記入してください)

※ボールペンで記入してください。

会計課領収印

※「教材コード・科目名・金額」は『部報』及び『スクーリング手引』で確認し、必ず記入してください。

「教材コード (6桁)」と「科目コード」は異なりますので、注意してください。

※「スクーリング種別・講座名」にはスクーリング・メディア授業において『通信教育教材』を使用する場合にのみ記入してください。

※『スクーリングの手引』における各講座の教科書 (参考書) 欄で指定されているもの、例えば、「**通材**『政治学 B11700』通信教育教材 (教材コード 000279)」と記載されている教材を購入する場合は「政治学」を科目名として記入してください (受講科目ではなく指定された教材の科目名を記入)。

「通信教育教材」の購入について

平成 27 年度から、『通信教育教材』は「配本申請」または「教材購入」で入手します。 「教材購入」をする場合、「教材購入願」を使用し、以下の手続きにしたがって教材を入手してください。また「教材購入願」で購入できる教材は、『通信教育教材』のみです。 「配本申請」については、『部報』4 月号・10 月号を参照してください。 スクーリング等で教科書・参考書に指定された『市販教材（市販本）』は丸沼書店又はお近くの書店で購入してください。

1 購入手続

① 窓口手続

「教材購入願」に必要事項を記入し、現金を添えて会計課窓口（1 号館 2 階）へ提出してください（なるべく釣り銭のないようにしてください）。

② 郵送手続

現金書留又は為替が利用できます。

(1) 現金書留での購入

「教材購入願」と合計金額分の「現金」を現金書留封筒にて会計課あてに送付してください。その際、必ず釣り銭のないようにしてください。

注意：普通郵便の中に現金を封入することは、郵便法によって禁止されています。

また、郵便事故による補償もありませんので、必ず現金書留を利用してください。

(2) 為替での購入

「教材購入願」と合計金額分の「定額小為替証書」又は「普通為替証書」を会計課あてに送付してください。

注意：郵便事故防止のため、なるべく簡易書留や特定記録郵便を利用してください。為替には何も記入せず送付してください。

2 注意事項

- ① 手続後の変更・取り消しはできません。また、返金もしませんので注意してください。
- ② 教材は大学に登録されている住所へ発送し、窓口ではお渡しません。

教材が手元に届くまでに約 1 週間要しますので、特にスクーリング、メディア授業で使用する場合は受講許可が出ていることを確認した後、速やかに購入手続きをしてください。

平成 28 年 月 日

日本大学通信教育部 御中
(提出先: 学生課)

軽井沢オリエンテーション参加申込書

学 生 番 号							年 齢	歳
氏 名	フリガナ						性 別	
							男 ・ 女	
現 住 所	〒 -							
電 話 番 号	自 宅 ()							
	携 帯 ()							
参 加 方 法 (い ず れ か を ○ で 囲 む)	1 通信教育部から バスで往復 (参加費用 10,000 円)				2 現 地 集 合 (参加費用 4,600 円)			

※必ず詳細を『部報』4・5月号にて詳細を確認の上、費用と共に学生課へ申込みしてください（郵送の場合は現金書留で会計課へ送付してください。4月28日（木）必着）。

※本登録書による情報は、オリエンテーション運営のために使用します。

※年齢は平成28年5月14日（土）時点の年齢を記入してください。

※一度申込みした参加費用は一切返金いたしません。また、参加方法の変更もできません。

学生課受付印	会計課受付印

平成 年 月 日

スクーリングオープン受講届

下記のとおり、スクーリングのオープン受講を希望します。

学部・学科	学部	学科 専攻 ()
学 年	年	学生番号
フリガナ		
氏 名		

【希望スクーリング】

スクーリング 種 別	開催地	
講 座 名	講座コード	講座名
	講座コード	講座名
受 講 希 望 由 理		

学生証コピー貼付欄

【提出書類】

- スクーリングオープン受講届
- 学生証コピー

事務局使用欄

併せて提出するもの
全講座辞退→振込用紙
一部講座辞退→振込用紙
返信用封筒（長形3号、362円切手貼付）

平成 年 月 日

日本大学通信教育部 御中

平成28年度昼間・土曜スクーリング（前期）受講申込辞退願

1 学生番号 _____

2 氏名（フリガナ） _____

3 連絡先電話番号 _____ - _____

4 辞退内容 全講座辞退
 （□にチェック） ⇒ 振込用紙記載講座すべてを辞退する場合
 一部講座辞退
 ⇒ 振込用紙記載講座の一部を辞退する場合、**「辞退講座のみ」**を
 以下へ記入

講座コード	講座名	講座コード	講座名

5 辞退理由（詳述）

※ 提出期限【教務課必着】5/20（金）
 ※ 振込用紙と一緒に送付すること。
 ※ この「辞退願」は「平成28年度昼間・土曜スクーリング（前期）」専用です。他のスクーリングの辞退手続には使用できませんので、各スクーリング専用の「辞退願」を使用してください。
 ※ 一部講座辞退の場合、362円分の郵便切手（大学からの再送付時の速達郵便料を貼付した長形3号（A4判三つ折の用紙が入る大きさ）の返信用封筒（自分の郵便番号・住所・氏名を明記）を同封すること。
 ※ 辞退手続は1回しかできません。
 ※ 提出期限以降の辞退手続きはできません。

教務課受付印	会計課受付印

併せて提出するもの
全講座辞退→振込用紙
一部講座辞退→振込用紙
返信用封筒（長形3号、362円切手貼付）

平成 年 月 日

日本大学通信教育部 御中

平成28年度昼間・土曜スクーリング（前期） (保健体育講義I・体育実技) 受講申込辞退願

1 学生番号 _____

2 氏名(フリガナ) _____

3 連絡先電話番号 _____ - _____ - _____

4 辞退内容 全講座辞退
 (□にチェック) ⇒ 振込用紙記載講座すべてを辞退する場合

一部講座辞退
 ⇒ 振込用紙記載講座の一部を辞退する場合, 辞退講座のみ を
 以下へ記入

講座コード	講座名

5 辞退理由(詳述)

※ 提出期限【教務課必着】7/15(金)
 ※ 振込用紙と一緒に送付すること。
 ※ この「辞退願」は「平成28年度昼間・土曜スクーリング（前期）保健体育講義I・体育実技」専用です。他のスクーリングの辞退手続には使用できませんので、各スクーリング専用の「辞退願」を使用してください。
 ※ 一部講座辞退の場合、362円分の郵便切手（大学からの再送付時の速達郵便料を貼付した長形3号（A4判三つ折の用紙が入る大きさ）の返信用封筒（自分の郵便番号・住所・氏名を明記）を同封すること。
 ※ 辞退手続は1回しかできません。
 ※ 提出期限以降の辞退手続きはできません。

教務課受付印	会計課受付印

校舎案内

市ヶ谷キャンパス

【所在地】〒102-8005 東京都千代田区九段南 4-8-28



JR 中央・総武線（各駅停車）市ヶ谷駅下車 徒歩 3 分

都営地下鉄新宿線、東京メトロ有楽町線・南北線 市ヶ谷駅 A2 出口から 徒歩 2 分

丸沼書店案内図



JR 中央・総武線（各駅停車）、都営地下鉄三田線 水道橋駅東口から 徒歩 3 分

都営地下鉄三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線 神保町駅 A4 出口から 徒歩 5 分



各種連絡先

○スクーリング全般に関する事項 教務課 03-5275-8911	○定期・学割・滞在先届に関する事項 学生課 03-5275-8921
○受講料の振込に関する事項 会計課 03-5275-8925	○休暇依頼状（歓奨状）に関する事項 庶務課 03-5275-8901
○通信教育教材（教科書）に関する事項 研究事務課 03-5275-8890	

DISTANCE LEARNING DIVISION, NIHON UNIVERSITY

〒102-8005 東京都千代田区九段南4-8-28 日本大学通信教育部